

2008 年度  
教育学部 年報

Faculty of Education NIIGATA UNIVERSITY

ANNUAL REPORT





# 目 次

## 1. イベント・カレンダー

1. 1	教育学部	1
1. 2	附属学校	2

## 2. 特色ある教育活動

2. 1	教育学部における体験的カリキュラムの概要	4
2. 2	フレンドシップ実習	6
2. 3	入門教育実習	7
2. 4	研究教育実習	9
2. 5	学習支援ボランティア派遣事業及び関連事業	11
2. 6	教育実習	13
2. 7	介護等体験	14
2. 8	「キャリア・デザインⅠ」「キャリア・デザインⅡ」の開講	16
2. 9	インターンシップ	
	・学校インターンシップ	17
	・企業等インターンシップ	19
2. 10	各課程の特色ある教育活動	22
2. 11	高校生対象講義	37
2. 12	中・高校生及び保護者の大学見学	38

## 3. 就職支援

3. 1	教員志望学生向け特別講座	39
3. 2	公務員志望学生向けガイダンス	40
3. 3	一般企業向けガイダンス	40
3. 4	臨時教員志望者への就職支援	41

## 4. 学部FD

## 5. 地域貢献

5. 1	12年研修	44
5. 2	市民・教員を対象とした公開講義	46
5. 3	教育委員会との連携協定	47
5. 4	新潟大学免許法認定公開講座	49
5. 5	S C S 大学間遠隔共同講義「教育臨床」	50
5. 6	講演会・演奏会・発表会など	51
5. 7	委員等就任状況	52

## 6. 国際交流

6. 1 「日中・教育フォーラム in 北京」の共催	56
6. 2 北京師範大学珠海分校および北京联合大学国際交流学院との「学生交流に関する覚書」の締結	56
6. 3 学部教育の国際化事業	57
6. 4 学術交流（研究者の派遣・受入れ）	58

## 7. 附属施設の活動

7. 1 附属新潟小学校	63
7. 2 附属新潟中学校	66
7. 3 附属特別支援学校	69
7. 4 附属長岡小学校	72
7. 5 附属長岡中学校	75
7. 6 附属幼稚園	79
7. 7 附属教育実践総合センター	82

## 8. 外部資金

8. 1 科学研究費補助金	84
8. 2 奨学寄付金	85
8. 3 受託研究・受託事業	85

## 9. 教員・教育研究業績

・研究者一覧	87
--------	----

## [巻末資料]

入学状況（学部）	121
入学状況（大学院）	122
就職状況	123
附属学校在学状況	124

# 1. イベントカレンダー

## 1. 1 教育学部

月	日	事 項
4月	7日	新潟大学入学式, 学部新入生保護者懇談会
	8日	大学院教育学研究科新入生ガイダンス
		学部学年別ガイダンス (1年次, 3年次)
	9日	学部学年別ガイダンス (2年次, 4年次)
6月	2日	新潟大学永年勤続者表彰式
	23日	新潟大学名誉教授称号授与式
7月	12日	全学同窓会と新潟大学との懇談会・懇親会
	19日	学部後援会総会
	25日	教職12年経験者研修 (～8/22)
	31日	免許法認定公開講座 (～11/16)
8月	3日	新潟大学模擬授業「キミも新大生」
	4日	新潟大学学部・学科体験 (主に高校1年生向け)
	5日	新潟大学オープンキャンパス (主に受験生向け)
	11日	教員免許状更新講習「試行・予備講習」(～8/20)
	18日	学校図書館司書教諭講習 (～8/29)
9月	10日	大学院教育学研究科入学試験
	24日	大学院教育学研究科入学試験合格者発表
10月		新潟大学Week (～10/26)
	20日	※ 参加型企画 : 五十嵐の森キャンプ場で遊ぼう, なんでもスポーツフェスティバル 展示・鑑賞 : 西区 DE アート, みゅーじっくろさき 2008・鼓動交流演奏会, : パフォーミングアート～芸術の原点へ～, 書DO?
11月	9日	新「教育学部」記念シンポジウム・祝賀会
	18日	新潟県教育委員会との教育懇談会
	22日	推薦入学 (健康スポーツ科学課程, 芸術環境創造課程)・社会人特別選抜入学試験
		養護教諭特別別科入学試験
	27日	教育実習運営協議会
12月	9日	推薦入学 (健康スポーツ科学課程, 芸術環境創造課程)・社会人特別選抜入学試験合格者発表
		養護教諭特別別科入学試験合格者発表
	13日	推薦入学 (学校教員養成課程) 入学試験
	22日	GP「国際化加速プログラム」報告会
1月	17日	大学入試センター試験 (～1/18)
	22日	教育学部同窓会と教育学部との懇談会・懇親会
2月	2日	大学院教育学研究科 (第2次募集) 入学試験
	10日	推薦入学 (学校教員養成課程) 入学試験合格者発表
	12日	大学院教育学研究科 (第2次募集) 入学試験合格者発表
	25日	新潟大学入学試験 (前期日程) (～26日)
3月	8日	新潟大学入学試験 (前期日程) 合格者発表
	12日	新潟大学入学試験 (後期日程)
	22日	新潟大学入学試験 (後期日程) 合格者発表
	23日	新潟大学卒業式・学位記授与式・修了式

## 1. 2 附属学校

《 附属新潟小学校 》			《 附属新潟中学校 》			《 附属特別支援学校 》		
月	日	事 項	日	事 項	日	事 項	日	事 項
4	8	始業式・入学式	8	新任式, 第1学期始業式	8	新任式, 第1学期始業式		
			9	入学式	9	入学式		
			11	新入生歓迎会	11	新入生歓迎会 (中学部・高等部)		
			14	授業参観日	16	修学旅行 (高等部3年) (~18日)		
			28	生徒総会	17	校内宿泊学習 (高等部2年) (~20日)		
					25	遠足 (中学部)		
5	1	全校参観日	17	第35回ときわ体育祭	1	遠足 (小学部)		
	23	附属大運動会	29	すなやま完歩大会	11	卒業生を囲む会 (高等部)		
					24	運動会		
6	2	中条自然教室 (4年) (~3日)	9	春季教育実習 (~20日)	9	春季教育実習 (~20日)		
	8	春季教育実習 (~19日)	10	市中学校体育大会 (~11日)	27	学校説明会①		
	12	全校五頭登山	23	演劇鑑賞教室				
			27	1学期定期テスト (~30日)				
7	10	北京師範大学実験小学校訪日	3	陸上地区大会 (~4日)	1	就業体験期間 (高等部) (~10日)		
	14	立山自然教室 (6年) (~17日)	8	新潟地区体育大会 (~9日)	2	学校説明会②		
	21	佐渡自然学婦室 (5年) (~23日)	18	通信陸上大会	3	校内宿泊学習 (中学部) (~4日)		
	28	市陸上記録会	22	終業式	24	終業式		
			24	個別懇談会 (~25日)	31	サマースクール (小学部)		
			25	県体育大会 (~26日)				
8	1	少年少女スポーツ大会 (~2日)	5	北信越体育大会 (~6日)	1	サマースクール (中・高等部)		
	4	新潟市水泳記録会	27	2学期始業式				
	28	2学期始業式						
9	7	2年次観察参加実習 (~11日)	8	2年次観察参加実習 (~12日)	1	第2学期始業式		
	17	クロスカントリー in ははの森	27	演劇発表会	4	校外宿泊学習 (中学部) (~5日)		
	24	全校参観日・全校除草			18	校内宿泊学習 (小学部3~6年) (~19日)		
10	24	附属ミュージアム	1	市中学校総合体育大会陸上	2	交流学习発表会 (中学部)		
	24	秋季教育実習 (~11月6日)	7	市中学校総合体育大会	27	秋期教育実習 (~11月7日)		
			22	秋の研究会				
			27	秋期教育実習 (~11月7日)				
11	21	附属ミュージックステーション	12	2学期定期テスト (~13日)	22	すなやま祭・同窓の集い		
			14	全附連北信越協議会新潟大会	26	鑑賞教室		
			18	生徒会役員選挙				
			29	第29回音楽のつどい				
12	5	新1年生入学選考 (8日)	5	進路懇談会 (~9日)	1	平成21年度入学者選考検査		
	18	2学期終業式	16	入学選考検査 (~17日)	22	第2学期終業式		
			17	第2学期終業式				
			19	選考検査結果発表				
			23	合格者説明会				
1	12	3学期始業式	8	第3学期始業式	8	第3学期始業式		
			20	進路懇談会 (~22日)	22	校外宿泊学習 (高等部) (~23日)		
			30	冬の研究会	30	そり教室 (小学部) 餅つき大会 (中学部)		
2	4	初等教育研究会 (~5日)	3	2学年「沖縄の旅」(~6日)	6	スキー教室 (中学部)		
	27	6年生を送る会	4	3学期定期テスト1・3年 (~5日)	10	学習発表会 (高等部)		
			18	1学年「スキー教室」(~20日)				
			18	3学期定期テスト2年 (~19日)				
3	1	高学年スキー授業 (~2日)	3	3年生を送る会	5	卒業生を送る会 (小学部)		
	5	6年生を送る会	6	第61回卒業証書授与式	6	卒業生を送る会 (中・高等部)		
	18	3学期終業式	16	3学期終業式	18	卒業証書授与式		
	19	卒業証書授与式			19	第3学期終業式		

《 附属長岡小学校 》

《 附属長岡中学校 》

《 附属幼稚園 》

日	事 項	日	事 項	日	事 項
8	着任式、始業式、入学式	8	着任式、始業式、入学式	8	1学期始業式
17	全校学習参観日	9	2・3年PTA、学校運営説明会	10	入園式
20	全校仲良しの会	16	身体測定	22	こんにちはの会
21	全国学力・学習状況調査	24	PTA・後援会総会		
8	避難訓練①(校園合同)	1	学年活動(遠足)	16	春遠足
14	発見遠足	14	生徒総会	24	土曜家族参加日
24	日曜参観日	22	研究中間検討会		
		29・30	市内陸上大会		
8	春季教育実習(～20日)	9	春季教育実習(～20日)	4	文化部講演会
9	初任者研修①	10・11	市内各種大会(～11日)	9	春期教育実習(～20)
25	4年生サマースクール(～20日)	17・20	フォートワース市訪問団来校	13	プール開き
30	緊急連絡網・メール配信テスト				
1	学習参観(～2日)	3・4	中越陸上大会	4	親子バス遠足
17	栖吉川フェスティバル	5・6	地区PTA	7	七夕会
24	1学期終業式	8・9	中越各種大会(～9日)	10	動物ふれあいの日
30	5・6年生自然教室(～8/1日)	23	成果を語る会	18	1学期終業式
		25・26	県総合体育大会		
		30	県吹奏楽コンクール		
4	家庭訪問(～6日)	5・6	北信越大会		
7	親善陸上大会	19	県内附属学校園合同部会		
26	2学期始業式	21	全国中学校体育大会(～23日)		
		21・22	科学教室特別講座		
		28	抱負を語る会、授業開始		
5	校園大運動会	7	観察参加実習(～12日)	1	2学期始業式
7	観察参加実習(～11)	7	校園大運動会	7	校園合同運動会
8	初任者研修②	13	西関東吹奏楽コンクール	7	観察参加実習(～12日)
16	親善陸上大会	17	校園合同学校評議員会	24	園内探検
18	避難訓練②	20	入学者選考学校説明会		
26	研究会事前打合せ	26	研究会事前検討会		
		29	入門教育実習		
16	研究協議会	8	新人各種大会	2	探検遠足
26	秋期教育実習(～11/6)	11	東日本学校吹奏楽大会	17	校園合同研究会
30	マラソン記録会	27	秋期教育実習(～11/8)	22	秋のお楽しみ会
		27	音楽発表会	28	柿もぎ柿さわし
				29	家族参加日
2	願書受付開始	10	第1学年新潟大学訪問	7	収穫ふれあい祭り
21	校内音楽会	13	入門教育実習	22	さくひんてん
27	願書受付締切	19	生徒会役員選挙		
		21	入学者選考学校説明会		
2	仲よしフェスティバル	4	3年サイエンスコース研究発表会	5	外国の方とのふれあい会
5	入学選考検査	9	3年三者面談(～12日)	17	2学期終業式
8	選考検査結果発表	11	東アジア青少年国際交流		
9	個別懇談(～10日)	19	成果を語る会		
22	2学期終業式	20	入学者選考考査(結果発表24日)		
8	3学期始業式	8	抱負を語る会	8	3学期始業式
20	避難訓練③	12	県スキー大会(～14日)	9	お正月お楽しみ会(～14日)
22	3・4年スキー(第2回・29日)	29・30	1年研修旅行	27	そり遠足
9	スノースクール(～10日)	4	新入生・保護者説明会	3	豆まき会
12	1日入学	12	卒業生を送る会	20	1日入園
15	学習参観(～16日)	17	2年修学旅行(～20日)		
4	ありがとう仲良しの会	3	同窓会入会式	9	お別れ会
18	3学期終業式	6	第61回卒業証書授与式	12	3学期終業式
19	110回卒業証書授与式	9	公立高校入学試験	13	第108回保育証書授与式
		19	終業式		
		25	離任式		

## 2 特色ある教育活動

### 2.1 新潟大学教育学部（および大学院教育学研究科）における「体験的カリキュラム」の概要（2008年度）

No.	名 称	主 要 対 象 年 次	担 当 組 織	開 始 年 度	内 容	目 標
1	フレンドシップ実習	1、2年次生	教育実践総合センター「フレンドシップ実習」研究会	平成9年度	(1) 地域の自然・社会・文化に触れ、子どもとともにこれらを体験的に学ぶ。 (2) 教師に求められる資質、力量形成のための有効な方策、連携のあり方について、関係諸機関とともに協議する。	(1) 教育の実践的研究に関する問題関心の基礎を培う。 (2) 教育実習に直結する力量形成の出発点を形成する。
2	入門教育実習	1年次生	教育実践総合センター教育実習研究会	平成11年度	(1) 学校における教育活動への参加・観察を行う（3回程度）。 (2) 参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3) その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1) 学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2) 専門教育を受けるための準備段階を形成する。
3	観察参加実習	2年次生	教育実習委員会	平成13年度（現在の体制による実施開始年度）	(1) 附属学校園における教育活動に関する参加・観察を行う。 (2) 参加・観察の内容についての考察および指導教員、実習生への報告、討議を行う。 (3) 3年次「教育実習」に向けた今後の学習方向、課題の明確化を図り、レポートにまとめる。	(1) 学校における教育活動について一通りの理解を得る。 (2) 3年次「教育実習」の準備段階を形成する。
4	教育実習（主専攻、副専攻）	3、4年次生	教育実習委員会		(1) 教育課程の理解、(2) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の指導についての理解、(3) 学級経営の理解、(4) 生徒指導の理解、(5) 幼児・児童・生徒の理解、(6) 実践研究の方法の理解、(7) その他。	(1) 教育活動がどのように営まれているかを理解させる。 (2) 実践的指導力の基礎・基本を培わせる。 (3) 研究課題を発見させ追求させる。
5	研究教育実習	4年次生	教育実践総合センター教育実習研究会	平成10年度	1単元の計画・実施・評価・改善の一連の教育実践およびその研究過程を踏む。	(1) 単元の指導力、研究力量を形成する。 (2) 教育実践・臨床研究に関する研究方法を習得する。
6	新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	3、4年次生、大学院生他	学校ボランティア派遣事業委員会	平成15年度	小学校、中学校、養護学校における教育・学習活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献する。	学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深める
7	子どもふれあいスクール	特に設定しない	教育実践総合センター	平成15年度	保護者・地域、学校、新潟市の三者の連携により、子どもたちの安全な遊び場の提供を目的とする「子どもふれあいスクール」に、ボランティア・スタッフとして参加する。	
8	見附市教育委員会「学生支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	学校ボランティア派遣事業委員会	平成18年度	見附市立小・中・養護学校からの要請に応じ、教育活動の支援を行う。	
9	三条市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	学校ボランティア派遣事業委員会	平成19年度	三条市内の小学校において、教育活動の補助を継続的に行う。	
10	学校インターンシップ	大学院教育学研究科1、2年次生	学校インターンシップ委員会	平成17年度	(1) 実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行う。 (2) 教育実践に関する問題意識の明確化を図る。	専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見する。



2009年3月 現在

実施時期、期間	関係機関	募集定員	参加学生数	対応する授業科目	その他
通年	公民館、学童保育施設、少年センター等	85名	62名	「教育実践体験研究Ⅰ」(学校教育課程共通科目、選択、2単位)	(1) 「教員養成学部フレンドシップ事業」(文部省(当時)、平成9年度開始)に連動する授業科目として設定(「教育実践体験研究」)。平成15年度より、現在の授業科目名に変更。 (2) 平成16年度より、他のカリキュラムとともに、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。平成17年度より、通称を「フレンドシップ実習」とする。
通年	附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校および公立、市立の学校園	90名	103名	「教育実践体験研究Ⅱ」(学校教育課程共通科目、選択、2単位)	(1) 平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より実施。 (2) 平成11～14年度においては、既存の授業科目(教育実践研究関連科目)により単位認定。平成15年度より、対応する授業科目を新設。 (3) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。
9月、5日間	附属学校園(6校)		学校教育課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計325名	「教育実習事前・事後研究」(2単位、学校教育課程は必修)の一環を構成)	(1) 教育職員免許法の改定に伴い、平成13年度より、単位数を1から2に増加、実習の期間を2.5日間から5日間に延長する形で、実施している。
春期・秋期、各2週間、総計4週間	附属学校園、協力校園 総計(のべ)220校		学校教育課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計(のべ)808名	「初等教育実習」「中等教育実習」等	(1) 詳細については、『教育実習のための資料集』(平成20年度版)参照。
通年	附属学校、協力校	特に設定しない	108名	各教科において多様な形で設定。	(1) 平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より、「仮説検証教育実習」(3年次対象)および「総合教育実習」(4年次対象)を実施。 (2) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3) 平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。
通年	新潟市教育委員会・学校支援課、新潟市立養護学校、小学校、中学校	107校、235名(派遣要請総数)	64校、118名(新潟青陵大学からの派遣数は含まない数)	「教育実践体験研究Ⅲ」(学校教育課程共通科目、選択、2単位) 平成17年度より新設。	(1) 平成14年度における試行を経て、平成15年度より本格的な取り組みを開始。 (2) 平成15・16年度、新潟大学地域貢献特別事業計画の一環を構成(カテゴリー「人材養成」、事業名「児童・生徒の学力向上推進事業」)。 (3) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (4) 平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。 (5) 平成17年度以降においては、新潟市と新潟大学との包括連携協定(平成17年6月締結)による事業の一環を構成。 (6) 平成18年度から、新潟青陵大学との共同による派遣を開始。
通年	新潟市教育委員会・地域と学校ふれあい推進課	特に設定しない	50名(教育学部34名、他学部16名)	特に設定しない	新潟市立の小学校、総計10校(南中野山、関屋、新潟、栄、入舟、坂井東、新通、東青山、五十嵐、西内野)に、ボランティア・スタッフとして学生を派遣した。
8～9月、1～2月	見附市教育委員会 見附市立小・中・養護学校	特に設定しない	97名(のべ198名)	特に設定しない	(1) 見附市立見附小学校、見附第二小学校、上北谷小学校、田井小学校、名木野小学校、新潟小学校、今町小学校、見附中学校、南中学校、今町中学校、見附養護学校(総計11校)に対して、主として、8月～9月に実施された自然教室、水泳指導、補充学習(国語、算数等)等に学生を派遣した。
通年	三条市教育委員会・学校教育課、三条市立小学校	特に設定しない	6校、7名	特に設定しない	(1) 派遣先は、三条市立裏館小学校、四日町小学校、上林小学校、三条小学校、井栗小学校、旭小学校(6校。主に4年次生)。 (2) この他、「三条市科学フェスティバル」(8月)、子育て支援課「放課後子ども教室」に対しても、それぞれ、8名(主に3年次生)、10名(のべ99名)の学生を派遣した。
通年	附属学校園、協力校園	特に設定しない	19名	「学校インターンシップ」(教育実践共通科目、選択必修、2単位)	(1) 平成17～19年度においては、「教育実践総合研究」(研究科共通科目、必修、2単位)との連動による実施。 (2) 平成20年度におけるカリキュラム改革により、連動する授業科目を現在の形に変更。 (3) 平成20年度においては、部分的に、新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業と連動。

## 2. 2 「フレンドシップ実習」の概要

フレンドシップ実習(授業科目「教育実践体験研究Ⅰ」2単位)は、今年度で12年目を迎えた。おもに、1,2年次学生が参加し、地域の自然・社会・文化に触れながら、子どもと共に体験的に学ぶことを目的としている。入門教育実習が学校への参加を目的としているのに対して、本実習では学校とは異なる教育施設や団体である公民館・NPO・ひまわりクラブ・子どもふれあいスクールなどの全面的な支援・協力の下に実習を行った。

前年度は計6コースが開設されたが、今年度は新たに「子どもふれあいスクール体験コース」を加え、計7コースを開設した。

大学の講義等に支障をきたさないように、原則、週末・長期休業中を利用して各コース毎に実習を実施した。その成果を報告するため12月6日(土)に参加者全員が集まり交流・発表会を開催した。

一昨年度より、発表会と報告書編集を学生主導で組織・運営する体制がとられ、各コースの代表者数名から発表会実行委員、報告書編集委員をそれぞれ選出し組織した。両委員会は、数回の会議を開き、全体発表会・意見交流会の準備・運営、報告書編集作業に取り組んだ。

下記は、各コースの活動内容である。

コース名	担当教員	日程	内容	活動場所	参加人数
1. 「合宿通学」体験コース	工藤起来	・9月7日 ・9月10～13日	「合宿通学」体験に参加し、子どもとの交流を深める	・新潟市大畑少年センター	13名
2. グループ体験コース	松井賢二	・8月19日 ・8月26日～9月27日	ひまわりクラブに出向き子どもたちと交流を深める	・新通小学校 ・内野小学校 ・西内野コミュニティーセンター	14名
3. 算数・数学学芸員養成コース	山田和美	・5～6月の毎週土曜日 ・11月24日	小学生を対象にしたペーパークラフトを大学生自身が教える	・新潟駅前プラウカ3 ・新潟大学教育学部内部	3名
4. 自然・科学実体験Ⅰ/Ⅱコース	中村文隆	5月～12月	新潟大学コース、見附コースに別れて、それぞれのコースの講師のサポートを行う	・新潟大学教育学部 ・見附市市民公民館	14名
5. 野外活動体験コース	大橋正春	・8月24日 ・10月19日	ウォークラリー、焼きそば作り、キャンプ、内野朝市体験の付き添い	・新大の森 ・内野駅周辺	5名
6. 自然環境体験コース	宮蘭衛	・6月29日 ・8月24日 ・10月19日	自然とのふれあいを通し、子どもとの交流を深める	・五頭少年自然の家 ・五十嵐キャンパス ・新大の森	10人
7. 「子どもふれあいスクール」体験コース	神林信之・岡野勉	・9～10月以降、1週間に1回程度。	子どもふれあいスクールに参加し、子どもたちに自由な遊びを提供する。	・西内野小学校、坂井東小学校	3名
8. 全体発表会	鈴木恵 中村文隆 山田和美 神林信之 松井賢二 大橋正春 宮蘭衛	12月6日午前中	・各コースの活動と振り返り発表 ・3グループに分かれての討論会 ・全体振り返り	教育学部大講義室	62名

## 2. 3 「入門教育実習」

### ——1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発

#### 1. 目的・内容

「入門教育実習」とは、平成11年度から、教育実践総合センター教育実習研究会が中心となつてが開発研究を進めている1年次生を対象とする教育実習カリキュラムである。対応する授業科目として、「教育実践体験研究Ⅱ」（学校教員養成課程、選択必修、2単位）が設定されている。この実習の内容、目的は次の通りである。(1) 教育学部に入学した1年次生が学校における教育活動への参加・観察を行う。(2) 参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、発表、報告することを通して、その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について考察する。(3) それを通して、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点、姿勢の転換を促す。(4) 専門教育を受けるための準備段階を形成する。

#### 2. 実施体制、協力校園、学生定員

この実習はコースを基本単位として実施される。1コースの学生定員は10人であり、これに、学部から3人、実習協力校園から3人、それぞれ、担当教員が付く形で、実施体制が構成されている。コースの種類は、特定の学校（小学校、中学校、幼稚園、特別支援学校）の教育活動に3回参加するコース、種類の異なる学校を3回に渡って訪問するコース等、バラエティに富んでいる。実習協力校としては、附属学校園だけでなく、市立、私立の学校園からもご協力を頂いている。所在地についても、新潟地域に加え、中越（長岡、見附）の学校からもご協力を頂いている。参加・観察させて頂いている教育活動は、授業をはじめ、遠足、運動会、キャンプ等の学校行事であり、1週間に渡る活動、宿泊を伴う活動も含まれている。なお、平成20年度においては、平成19年度から2コースの増設を図り、総計9コース（学生定員90人）を設定した。

#### 3. 今年度の実施概要

4月に、1年生の全体ガイダンスおよび専修別ガイダンスにおいて、この実習の履修案内を行った後、説明会を開催した（出席者136名）。平成20年度においては、特に麻疹問題への対応のため、再募集を行った後、実施体制を確定した。最終的な受け入れ学生数は104名であった。その後、5月から11月にかけて、実習協力校園から提供された教育活動への参加・観察を計3回行い、その都度、レポートを作成・提出した。この間、8月のオープンキャンパスにおいては、学生が、高校生に対して、この実習の紹介を行った。コース別の活動が終了した後、12月に最終報告会を開催し、すべてのコースについて、活動成果の報告・交流を行うと同時に、関係学生・教員からの講評を受けた。その後、1月に、最終レポートの作成・提出を行い、すべての活動を終了した。

#### 4. 今年度の特徴と今後の課題

今年度の特徴は2コースを新設した点である。これは、附属長岡校園および見附市教育委員会、見附市立今町小学校、今町中学校のご理解とご協力の賜である。その結果、学生定員90名、コース数9、受け入れ学生数104名、実習校園11校3園、すべて過去最高の規模で実施することができた。ただし、今年度においても、希望者全員の受け入れが可能となったわけではなく、実施10年目にあたる今年度においても、希望者の多さに受入数が追いつかない状況が続いている（グラフ参照）。

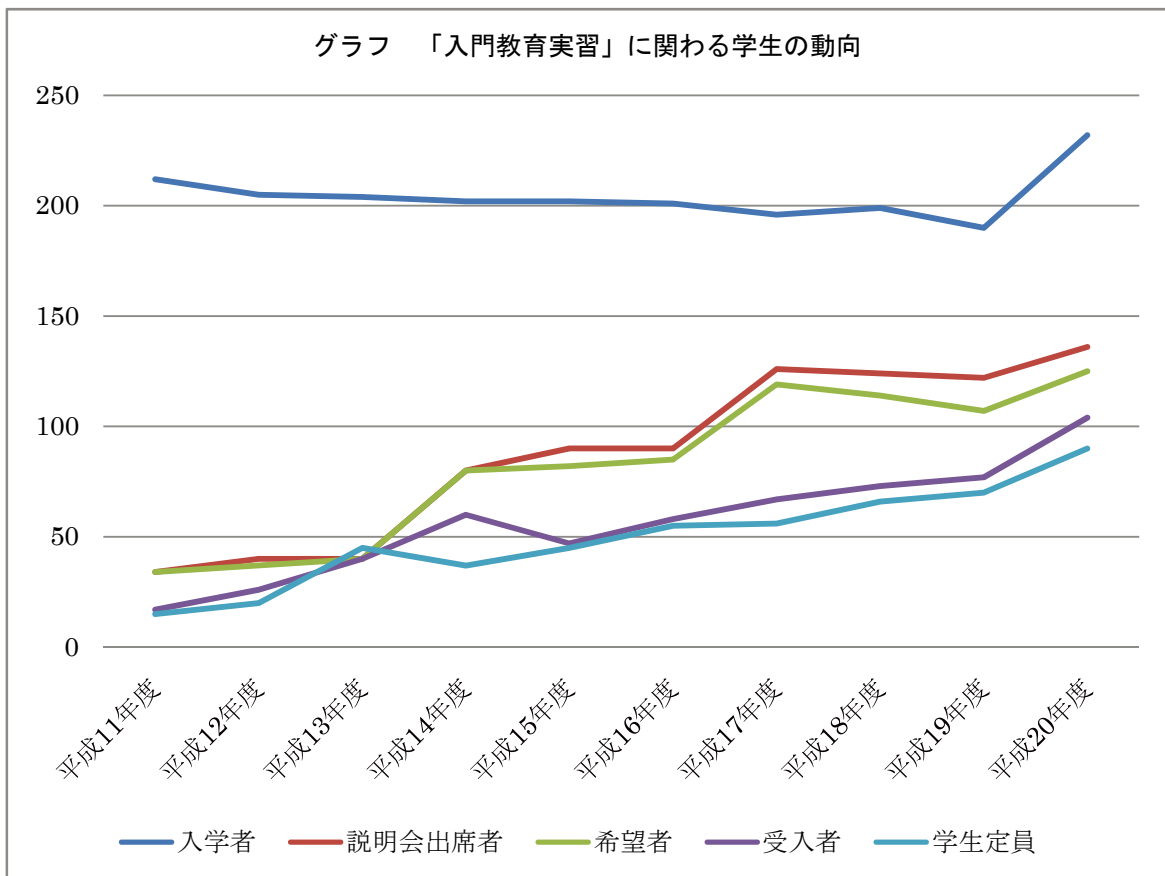
なお、以上の詳細については、次の報告書を参照して頂ければ幸いである。教育学部附属教育実践総合センター教育実習研究会編『改組後の教育学部における教員養成教育の再出発－中越地域への拡張を含んだ「入門教育実習」の実施』（2009年3月）。



附属長岡小学校「サマースクール」



見附市立今町中学校「1日学校訪問」



## 2. 4 「研究教育実習」——4年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究

新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」の一環として、平成16年度より、教育実践総合センターに教育実習研究会（「研究教育実習」研究グループ）を設置し、「研究教育実習」のカリキュラム開発研究を推進している。「研究教育実習」とは、教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムであり、本開発研究の目的は、(1) 多様な教科領域において研究教育実習カリキュラムを開発すること、(2) 附属学校園との連携協力体制を含む、組織的な研究開発体制を構築することである。なお、本学部の「体験的カリキュラム」において、この「実習」は、「学習支援ボランティア」とともに、4年次段階における教育実習カリキュラムの重要な構成要素として位置付けられている。

平成20年度においては、国語、社会、家庭科、数学、保健体育、音楽、美術の各教科教育研究室において取り組みが進められた。その概要を下記に示す。

平成20年度においては、12月17日に、学習・講演会（学部FD）を開催した。第1部では、これまでの本学部による実践事例の報告が、第2部では、大野栄三氏（北海道大学大学院教育学研究院准教授、教育方法学・科学教育）による講演「農業高校におけるフィールドワークと大学院段階の教育プログラム開発」（質疑）が、それぞれ行われた。なお、今年度の詳しい取り組みや学習・講演会の内容については、報告書『「研究教育実習」の多様な展開（Ⅴ）』（2009年3月）を参照。

学部担当教員 (所属, 専門分野)	授業科目の概要 (名称, 開講時期, 履修学生数)	研究の概要 (目的, 教科・領域, 対象, 方法等)	授業の概要 (学校・学年, 時期, 時数, 授業者等)
常木 正則 (言語文化コミュニケーション講座・国語科教育学)	「国語科教育実践分析演習Ⅰ・Ⅱ」 (前期・後期, 各2単位, 4年次生4人、3年次生4人)	履修生の各人が国語科の3領域1事項—「話すこと・聞くこと」, 「書くこと」, 「読むこと」〔言語事項〕のいずれかについて、1単元の学習指導に関する仮説検証的研究を行った。	(1) 新潟市立青山小学校2年・5年・6年, 11月下旬～12月上旬。 (2) 新潟市立真砂小学校3年, 12月上旬。 (3) 附属長岡小学校2年, 2月中旬。 (4) 附属新潟中学校2年, 2月下旬 (5) 附属新潟小学校4年・中学年3組(3年・4年の複式学級), 2月下旬。 時数は、すべて、5時間前後。 授業者は、(1)(2)は4年次生、(3)～(5)は3年次生。
児玉 康弘 (人間社会ネットワーク講座・社会科教育学) 宮蘭 衛 (附属教育実践総合センター・社会科教育学)	「社会認識形成史特講」 (3, 4年次, 前期, 2単位, 15人) 「社会認識形成史演習Ⅱ」 (3, 4年次, 後期, 2単位, 15人) 「授業研究法」(3, 4年次, 後期, 2単位, 15人)	グローバルな観点から地域学習を展開するための郷土教育人物教材を開発した。具体的には初代新潟奉行として活躍した川村修就を取り上げ、彼の時代に行われていた東アジアの貿易構造を探求する歴史教材を開発して附属中学校で実験授業を行った。(他、数種)	(1) 附属新潟中学校3年, 2月, 2時間。 (2) タイ理解の継続実践を東曾野木小学校で実施。 (3) 日韓交流の授業を附属小で実施。
高木 幸子 (生活環境学科目・家庭科教育学)	「卒業研究」 (4年次, 通年, 6単位, 3人) 「生活科学教育課題の分析」 (3年次, 後期, 2単位, 3人)	卒業研究の内容の一部を実証的に検討することを目的に、小学校, 中学校, 高等学校の家庭科授業で用いることのできる教材の開発および指導法の検討を行った。また、3年次学生については、小学校家庭科における単元開発および授業実践を行った。	(1) 見附市立見附小学校, 6年, 10月～11月, 5時間。 (2) 附属新潟中学校, 1年, 9月～10月, 4時間。 (3) 県立巻総合高等学校, 1年, 11月, 8時間。 (4) 附属新潟小学校, 6年, 2月, 5時間。 授業者は、(1)～(3)は4年次生、(4)は3年次生(3名)。

高橋 桂子 (生活環境学科目・生活経営学)	「卒業研究」 (4年次, 通年, 6単位, 1人)	卒業研究として, イギリス, アメリカ, 北欧で行われている金融教育の先行研究・実践を基に, 小学校家庭科で用いることのできる金融教育導入のための教材を開発し, 4時間の授業を通じて実証的に検討した。なお, 教材名は, 「家庭の破産」, 「ファニー・マネー」, 「家族みんなで家庭をまもる」, 「夏休みのぼうけん」。	(1) 附属新潟小学校, 6年, 11月～12月, 8時間, 授業者は4年次学生。
山田 和美 (自然情報講座・数学教育学)	「卒業研究」 (4年次, 通年6単位, 2人) 「教育実践体験研究Ⅲ」 (4年次, 2単位, 2人)	附属新潟小学校に通年で毎週1日通い, 学習ボランティアとして実習を行った。毎回学習日誌をつけ, 算数科の3人の教員に教材研究, 児童指導等の指導を受けた。この体験を元に卒論の「算数的パターンの研究」の授業実践を行った。	附属新潟小学校, 低学年三組(16名), 第5学年1組(40名), 第6学年1組(40名) 4月～3月, 毎週水曜日終日
和田 信哉 (自然情報講座・数学教育学)	「数学科教育法Ⅳ」 (3, 4年次, 後期, 2単位, 50人)	秋期実習の前に講義の中で指導案を検討し, それを実践したビデオを視聴・検討し, 指導案を再検討して提案する活動を行った。	(1) 附属長岡中学校, 第1, 2学年(秋期教育実習), 11月, 3年次生。 (2) 附属新潟中学校, 第2, 3学年(秋期教育実習), 2008年11月, 3年次生。
滝澤かほる (保健体育・スポーツ科学講座・保健体育科教育)	「保健体育科教育学演習Ⅱ」 (3, 4年次, 後期, 2単位, 6人) 「保健体育科教育学各論演習Ⅱ」 (院2年次, 後期, 4単位, 1人)	小学校の体育科(体づくり運動:リズム体操)に関する授業研究を行った。輪を使った体操(曲:ルパン三世)の作品づくり, 指導計画の立案, 授業実践, それらの評価を行った。	(1) 新潟市立坂井輪小学校, 第6学年3組, 3時間, 9月22日～30日, 授業者は4年次生。
森下 修次 (芸術環境講座, 音楽科教育)	「卒業研究」 (4年次, 通年, 6単位, 1人)	特別支援学校での音楽授業の実践と評価を題材に研究を行った。附属校教員と密接な連携の上, 授業の組み立ての実践と唾液の分析によるストレス値測定の二面から研究を行った。	(1) 附属特別支援学校, 中学部, 4月～12月
柳沼 宏寿 (芸術環境講座, 美術科教育)	「美術科教育課題研究Ⅱ」 (4年次, 通年, 2単位, 5人)	実践的指導力の向上を目指して, これまでの教育実習の経験を基に各自が課題を設定して教育現場へ赴いた。「出前授業」, 「出前ワークショップ」という名目で, 各現場に応じたワークショップを考案しながら実践した。	(1) 「出前授業」: 新潟市立中野山小学校, 第3学年, 11月。 (2) 「出前ワークショップ」: 新潟市立坂井輪東小学校, 西内野小学校, 笠木小学校, 坂井輪中学校, 内野中学校, 五十嵐中学校, 5月～10月, 各校複数回(3～10回)訪問して実施した。

## 2. 5 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業

### ——学生の学校支援を組み込んだ教員養成カリキュラムの開発に向けて

平成15年度より、新潟市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」派遣事業を、継続的に実施している。この事業は、学生（主として4年次生）、大学院生が、半年間、週1回程度、定期的に学校に入り、授業補助、校外学習引率、障害児童・生徒の補助等、教育活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献すると同時に、学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深めることを目的とする事業である。新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環として位置付けられている。教育学部においては学校ボランティア派遣事業委員会および教育実践総合センターが、新潟市教育委員会においては学校支援課が、それぞれ、関連業務を担当している。

事業開始後6年にあたる平成20年度において、学校からの派遣要請総数は107校、235人であった。派遣されたのは、教育人間科学部（3,4年次生）の他、養護教諭特別科、経済学部、医学部に在籍する学生・大学院生、総計118人である。派遣先（学校数、派遣総数）は、小学校（44校、82人）、中学校（19校、35人）、養護学校（1校、1人）、総計64校である。平成19年度より、学校数については28%の増加、派遣人数については38%の増加を示している。なお、平成18年度から、新潟青陵大学が、新たにこの事業に参加している。

新潟市教育委員会の調査によれば、今年度においても、多くの学校から、学習内容の理解・定着、学習意欲の向上、安全管理、その他、多方面において効果があったことが報告されている。同時に、事業の継続、派遣人数の増員、未派遣校の解消に対する強い要望が寄せられている。

大学内においては、9月に、中間報告・交流会を開催し、学生の活動状況、課題、要望等に関する報告、意見交換を行った（出席者、学生・院生、大学教員、新潟市教育委員会担当者、総計63人）。12月には、「平成20年度『学習支援ボランティア』派遣事業の成果と課題」をテーマとする公開シンポジウムを開催し、大学、教育委員会からの報告、学生による成果発表、受入校からの報告を受けた後、学生と派遣校教員との意見交換、それにもとづく討論を行い、来年度の実施に向けた課題を探った（出席者、学生・院生、現職教員等、総計約110人）。

平成17年度より、本事業に対応する授業科目「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教育課程共通科目、2単位、選択）が設定されている。平成20年度においては、14人の学生が単位を取得した。また、公開シンポジウムについては、新潟日報社の取材を受け、次の記事において報道された。「学習支援ボランティア—子供との時間 貴重」『新潟日報』2008年12月17日。事業の全体については、報告書『新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施（第6年次）』を作成した。

関連事業として、新潟市教育委員会地域と学校ふれあい推進課からの要請に応え、「子どもふれあいスクール」ボランティアスタッフとして、小学校10校に対して、50人の学生（他学部生16人を含む）を派遣した。

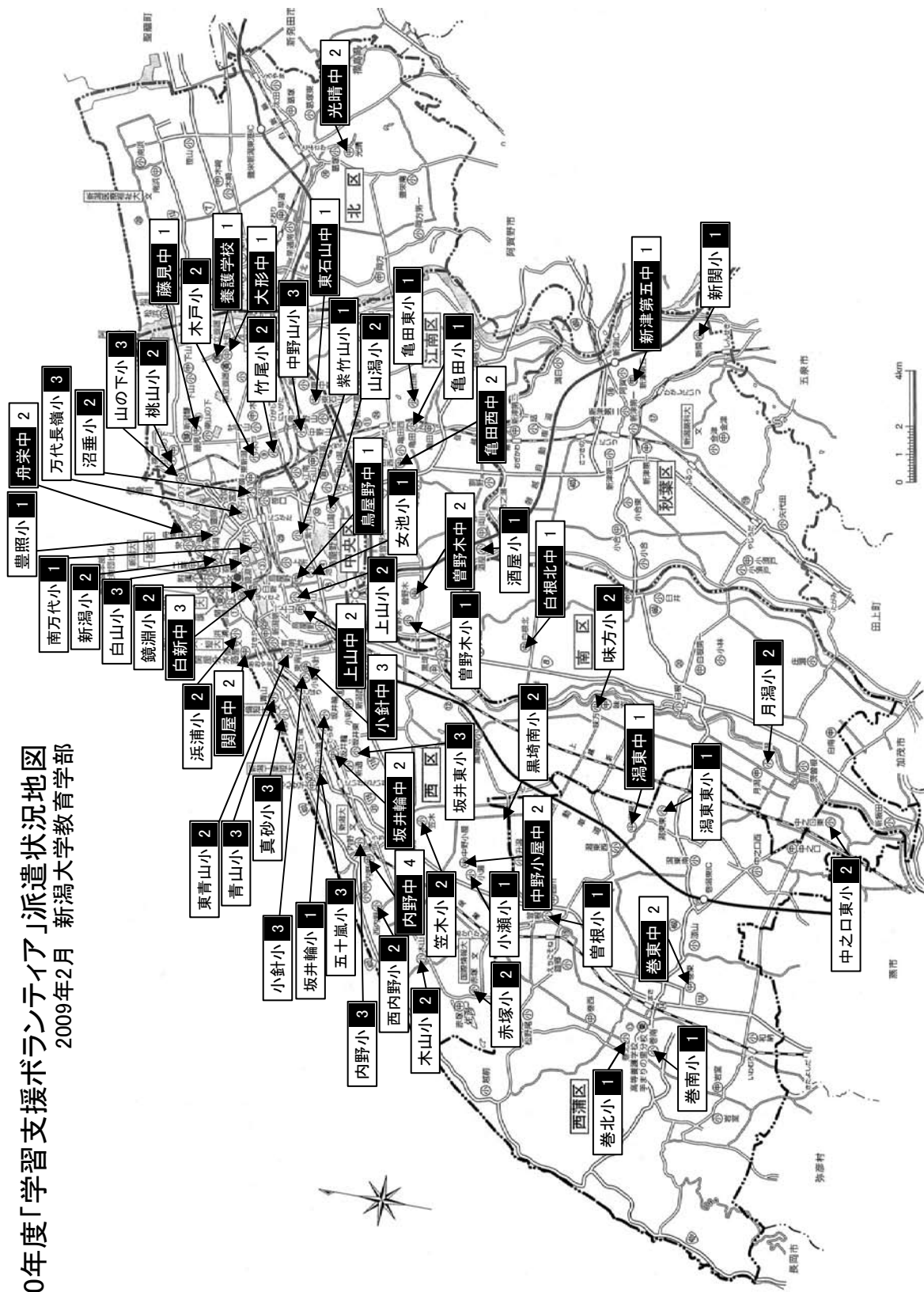


「学習支援ボランティア」活動風景



公開シンポジウム 実施風景

平成20年度「学習支援ボランティア」派遣状況地図  
 2009年2月 新潟大学教育学部





## 2. 6 教育実習

### (1) 教育実習制度の概要

本学部の特徴は、1年次入門教育実習、2年次観察・参加実習、3年次教育実習、4年次副免教育実習および研究教育実習と、4年間一貫の教育実習が制度化されているところにある。これらのうち入門教育実習と研究教育実習については、別項に掲げられるので、その他の教育実習について記す。

教育実習は下表を標準として実施されている。

【本学部標準教育実習制度】

2年次	観察・参加実習事前指導	4時間
	観察・参加実習	1週間
3年次	事前指導	20時間
	春期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	2時間
	秋期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	4時間
4年次	春期教育実習（副免）	2週間

### (2) 教育実習の特色

本学部における教育実習の特色として以下の点をあげることができる。

#### ① 事前事後指導

事前事後指導では、30時間（15コマ）を適切な時期に配置している。

事前指導では、小学校主免学生には国語・算数・社会・図工・音楽・道徳の6教科9コース、中学校主免学生には全教科11コース、その他、幼稚園と特別支援学校の主・副免学生に各1コースを開講し、それぞれのコースにおいて指導案作成演習と模擬授業を実施した。

#### ② 観察・参加実習

3年次の教育実習に向けて、予め学校や児童・生徒の実態を把握し予備知識を得るために、2年次に、観察・参加実習を行っている。

附属学校園において1週間実施した。

#### ③ 春期と秋期における教育実習

3年次教育実習は、春期と秋期に分割し、附属学校園と一般協力校など、異なる学校における機会を提供している。

#### ④ 各地区学校との連携協力

新潟地区・長岡地区の校長会長との打ち合わせ会を定例化した。また、実習生を受け入れた全実習校の担当者が一同に会する教育実習運営協議会を、年に一度開催している。

## 2. 7 介護体験

### (1) 介護等体験について

介護等体験は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成9年法律第90号）が公布され、平成10年4月1日から施行されている。

本学部では、学校教員養成課程（平成19年度までは学校教育課程）所属の学生のうち特別支援教育専修（平成19年度までは障害児教育専修）を除く全員と、その他の課程所属学生のうち中学校免許状の習得を希望する者を対象として、県内社会福祉施設で5日間、本学の特別支援学校で2日間の「介護等の体験」を行っている。

実習内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助のほか入所者との交流、職員の業務補助等々幅広い体験となっている。

### (2) ガイダンス及び事前指導

実習に先立ち、次の次第によるガイダンス及び事前指導を行った。

#### ○ 事前指導

日 時 平成20年4月10日（木）

対 象 平成20年度に介護等体験を希望する者（主として2年生）

#### (1) 開会

#### (2) 介護等体験の実施にあたって

介護等体験実施委員会委員長

#### (3) 介護等体験受け入れ側による事前指導

「社会福祉施設等における介護等体験について」

新潟県介護福祉会会長 岡田 史 氏

「附属特別支援学校における介護等体験について」

附属特別支援学校副校長 藤村 修 氏

#### (4) 介護体験の諸連絡等

人文社会・教育科学系学務課専門職員

#### ○ ガイダンス

日 時 平成21年2月6日（金）

対 象 平成21年度に介護等体験を希望する者（主として1年生）

#### (1) 介護等体験実施の概要について

介護等体験実施委員会副委員長

#### (2) 介護等体験の申込等の手続きについて

人文社会・教育科学系学務課専門職員

### (3) 実習状況

平成20年度は、学校教育課程173名、その他の課程126名、大学院2名の計301名が次の表の通り実習を行った。

### (4) 効果と今後の課題

施設や学校からは、実習状況は概ね良好との報告を受けているが、一部の学生の自覚・準備不足及び進路変更等により9名の実習取消があり、更なる事前指導の取り組みが求められる。

平成 20 年度介護等体験実施施設一覧

地 域	施設数	人 数	備 考
新潟市	56	234	
長岡市	7	8	
三条市	5	6	
柏崎市	1	1	
新発田市	4	6	
加茂市	1	1	
十日町市	1	1	
見附市	2	2	
燕市	5	11	
糸魚川市	3	4	
妙高市	1	1	
五泉市	3	3	
上越市	7	8	
阿賀野市	2	2	
佐渡市	2	2	
魚沼市	2	2	
南魚沼市	1	1	
朝日村	1	1	
山北町	1	1	
神林村	2	2	
胎内市	2	2	
津南町	1	1	
<b>合 計</b>	<b>110</b>	<b>300</b>	

平成 20 年度附属特別支援学校実習一覧

回 数	実 施 期 間	人 数
1	H20. 5. 5 ~ H20. 5. 8	30
2	H20. 5.14 ~ H20. 5.15	31
3	H20. 5.22 ~ H20. 5.23	31
4	H20. 7. 1 ~ H20. 7. 2	30
5	H20.11.12 ~ H20.11.13	29
6	H20.11.20 ~ H20.11.21	30
7	H20.11.26 ~ H20.11.27	29
8	H21. 1.14 ~ H20. 1.15	30
9	H21. 1.20 ~ H21. 1.21	28
10	H21. 1.28 ~ H21. 1.29	28
<b>合 計</b>	<b>10回</b>	<b>296</b>

## 2. 8 「キャリア・デザインⅠ」「キャリア・デザインⅡ」の開講

平成17年度より、教育人間科学部学生を主たる対象とした全学科目「キャリア・デザインⅠ」、「キャリア・デザインⅡ」を開講してきており、今年度は4年目である（担当教員：松井、高橋）。

この講義は自己理解を深めて己を知り、見知らぬ他人とのコミュニケーションを図ることを積極的に行うとともに、将来のキャリアを十分に時間をかけて考えようというものである。

カリキュラムの全体構想として、2年2期に「キャリア・デザインⅠ」を履修、3年1期に「キャリア・デザインⅡ」、そして3年夏期休業中にインターンシップを実際に体験し、3年2期からの就職活動に備える、ということ想定している。

本年度も『キャリア・デザイン』（仙崎武監修、文化書房博文社）をテキスト（参考書）として利用し、集中講義で開講した。具体的な内容は以下の通りである。

\* 「キャリア・デザインⅠ」（2年生以上対象，8コマ，2009/2/9～10開講）

担当教員 (コマ数)	内 容
松井賢二 (6)	まず「働く」をテーマにしたビデオを視聴した後、それに関する意見や感想をグループでディスカッションしたり、全体で話し合ったりしながら、自分にとって働くことの意味は何か、そして職業生活が自分のライフスタイルとどのように関係するのか、などを各々が再度熟考した。

\* 「キャリア・デザインⅡ」（3年生以上対象，15コマ，2008/8/1，9/8～9開講）

担当教員 (コマ数)	内 容
松井賢二 (12)	「自己分析」をテーマとして、まず職業選択における自己分析の重要性を講義する中で、その必要性を認識させた。そして、2種類の検査（VPI，CA-PA）を実施しその結果を検討することによって、自己分析を行った。これらの分析結果を参考にして、自分に適した職業について再考し、その理由を明確化した。さらには、自己分析の結果を参考にしながら、ロールプレイングで模擬面接を行うことを通して、再度自己を見つめると同時に、自己PRの仕方などについても実践的に学習した。

## 2.9 インターンシップ

### ○ 学校インターンシップ ——大学院教育における実践的カリキュラムの開発

大学院教育学研究科のカリキュラム改革の一環として、平成17年度より「学校インターンシップ」を実施している。「学校インターンシップ」とは、(1) 実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行うと同時に、(2) 教育実践に関する問題意識の明確化を図り、それを通して、(3) 専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見することを目的とする活動である。平成19年度までは「教育実践総合研究」(2単位)の一環として位置づけられていたが、平成20年度からは「学校インターンシップ」(2単位)として独立したことで、規模も大幅に拡大され、19名の大学院生が11校において活動を実施した。その概要を次に示す。

#### 平成20年度 大学院「学校インターンシップ」実施概要

No.	氏名	分野・専修	配属学校	活動に関する内容		
				教科等	課題、目的等	期間
1	崔 正 王	障害児教育	附属特別支援学校	特別支援教室	特別支援学校の通級指導補助を通じて	H20.1 ~ H21.2
2	小 林 佐和子	障害児教育	附属特別支援学校	特別支援教室	発達障害通級指導教室におけるコミュニケーション支援	H20.4 ~ H21.3
3	佐 藤 結	特別支援教育	附属特別支援学校	特別支援教室	特別支援学校の通級支援について	H20.4 ~ H21.2
4	長谷川 理 美	特別支援教育	附属特別支援学校	特別支援教室	特別支援学校の通級支援について	H20.4 ~ H21.3
5	藤 塚 仁 志	障害児教育	附属特別支援学校	特別支援教室	発達障害通級指導教室の役割と指導	H20.4 ~ H21.2
6	山 崎 有 子	特別支援教育	附属特別支援学校	特別支援教室	通級指導教室における指導とその役割に関する一考察	H20.4 ~ H21.2
7	寺 山 晋 一	教育心理	亀田小学校	学級指導	地域と学校のパートナーシップ事業	H20.6 ~ H21.3
8	清 水 未 来	教育心理	内野小学校	学級指導	学級単位での社会的スキルトレーニング	H20.5 ~ H21.3
9	田 村 千 絵	教育心理	酒屋小学校	学級指導	小学校への長期的な参加を通して	H20.4 ~ H21.3
10	飯 沼 七 星	国語教育	内野小学校	国 語	通常学級・特別支援教室における学習支援	H20.6 ~ H21.3
11	渡 辺 みつ枝	国語教育	大形中学校	国 語	中学校適応指導教室における観察と考察	H20.12 ~ H21.3
12	西 澤 瑛 子	英語教育	白新中学校	英 語	中学英語の効果的なTeam Teaching	H20.6 ~ H21.2
13	佐 藤 友 哉	社会科教育	附属新潟小学校	社 会	長期的な観察参加と研究教育実習の連携	H20.6 ~ H21.3
14	鄭 暁 文	社会科教育	附属長岡中学校	社 会	中学社会科授業の観察	H20.10 ~ H21.2
15	猪 狩 良 平	数学教育	附属新潟中学校	数 学	学校インターンシップで得た授業観	H20.7 ~ H21.2
16	若 林 祐 介	数学教育	上山中学校	数 学	数学の授業の机間指導で見られる教師と生徒の相互作用の例証	H20.7 ~ H21.2
17	金 子 春 香	数学教育	附属新潟中学校	数 学	中学校における学校生活と数学授業からの学び	H20.7 ~ H21.2
18	岡 崎 歩	理科教育	巻北小学校	理 科	小学生の科学的な素朴概念について	H20.4 ~ H21.2
19	遠 藤 侑 衣	音楽教育	附属新潟小学校	音 楽	ペア学習による関わりあいの実践	H20.5 ~ H21.3

なお、平成 19 年度における活動の内容と成果について、次の報告書を発行した。新潟大学教育学研究科学校インターンシップ事業委員会編「平成 19 年度『学校インターンシップ』実践報告書」『大学院教育における実践的カリキュラムの開発（第 3 年次）』、2008 年 10 月、62 ページ。

また、2008 年 12 月 10 日に受講生全員が集まり、下記のような内容で最終活動報告会が開催された。今年度の報告会は、大学院生側からの発案を受け、報告会の計画から運営に至るまで大学院生が主体的に取り仕切り開催に至った。報告会では、代表者 3 名の活動報告や討論会の場が設けられ、参加者の間で活発な議論・意見交換が行われた。

### 平成 20 年度 新潟大学大学院教育学研究科 「学校インターンシップ」 報告会

日 時：平成 20 年 12 月 10 日（水）

場 所：新潟大学教育学部 204 講義室（講義棟 2 階）

司 会：教育学研究科 国語教育 修士 1 年 飯沼七星  
理科教育 修士 1 年 岡崎 歩

#### 1. はじめに

森田 龍義（教育学研究科長）

#### 2. 学校インターンシップ活動報告

長谷川理美（特別支援教育 修士 1 年） 実施校 附属特別支援学校

田村 千絵（教育心理 修士 1 年） 実施校 新潟市立酒屋小学校

若林 祐介（数学教育 修士 1 年） 実施校 新潟市立上山中学校

#### 3. 討論会

#### 4. おわりに

鈴木 恵（学校インターンシップ委員会委員長）



12 月 10 日に開催された学校インターンシップ報告会での討論会の様子。討論会では参加者全員を 3 グループに分け、各自の活動の紹介に始まり、活動の成果について意見交換・議論が活発に行われた。

## ○ 企業等インターンシップ

### (1) 学習社会ネットワーク課程

平成10年4月設置の当課程は、第1期学生が3年生となる平成12年度より「社会教育主事インターンシップ」を実施しています。社会教育主事資格取得希望者が生涯学習行政の実務を経験することにより、講義で得た（得る）知識の高度化を図り、社会教育主事への就労意欲を高めることを企図しています。

#### ○ 平成20年度インターンシップの概要

##### ・実施時期及び期間

平成20年8月～9月に約2週間（期日は受入機関ごとに決定）  
および通年（5月～1月）で10日間。

##### ・実習内容

生涯学習行政に関わる業務

各受入れ機関の日常業務のほか、生涯学習関連施設等での実習も適宜行う。

##### ・教育課程上の位置づけ

「生涯教育行政論演習」（選択科目・2単位。担当教員：雲尾）での単位認定

インターンシップ先職員による評価、及びインターンシップ・レポートの発表をもとに、社会教育主事インターンシップ委員会で評価する。

##### ・インターンシップ受入機関（〔 〕内は実習生数）

新潟市中央公民館〔1名〕、同石山地区公民館〔1名〕

新潟市坂井輪地区公民館〔8月～9月：2名。5月～1月：2名〕

新潟県立生涯学習推進センター〔2名〕

#### ○報告書

『平成20年度社会教育主事インターンシップ報告書』（平成21年2月25日）160部発行。実習受入機関、新潟市内公民館・図書館、関連機関、実習学生に配布していますので、図書館等で閲覧可能です。また、平成21年度の学習社会ネットワーク課程3年次生全員に配布し、感想用紙（および参加希望者は参加申請用紙）を提出するようにさせています。

また、同報告書は、第1部は今年度の実習報告、第2部は「社会教育主事インターンシップ総括編Ⅰ」として、第1回の平成12年度から第8回である昨年度の19年度までをまとめています。

## (2) 音楽表現コース

音楽表現コースでは2001年度からインターンシップを実施しており、現在、8の企業や団体が学生を受け入れている。それらは、日本交響楽協会、東京交響楽団事務局、Hakuju Hall, Sony Music Foundation, 鼓童, 新潟市民芸術文化会館「りゅーとぴあ」、新潟県文化振興財団, ヤマハミュージック関東・新潟店などである。音楽専用ホールや都内の音楽事務所, また日本の代表的なプロ・オーケストラ等の協力により, 音楽マネジメントの実際, 交響楽団の運営, 世界規模の音楽祭の運営, 音楽教室の運営や楽譜販売など, 音楽を接点とした幅広い業種での就業経験が可能となっている。2008年度のインターンシップには13名が参加し, 以下のような職業体験実習がなされた。詳細は、『平成20年度新潟大学教育学部芸術環境創造課程音楽表現コース インターンシップ報告書～大学を現場へ～』第8号を参照。

- ・ 新潟県文化振興財団：9月, 11月（1名）  
「ニューヨーク・フィル・ティーチング・アーティストによるファミリー・コンサート」（妙高市文化ホール, 妙高小学校, 新井小学校）や, 「マイタウン・コンサート」（弥彦総合文化会館, 荒川町公民館）等での運営業務。
- ・ 新潟市民芸術文化会館「りゅーとぴあ」：7月, 9月, 10月（2名）  
「東京交響楽団のメンバーによる学校訪問コンサート」並びに「コンサートホールへようこそ」（新潟市内の全小学校5年生を無料招待する東京交響楽団によるコンサート）の企画運営業務。
- ・ Hakuju Hall：7～8月（1名）  
「リクライニング・コンサート」並びに「Hakuju ギターフェスタ2008:ラテンアメリカの熱い風」の運営業務。
- ・ 東京交響楽団：10月（1名）  
「第560回定期演奏会・ミューザ川崎シンフォニーホール&東京交響楽団名曲全集」並びに「第41回新潟定期演奏会」（新潟市民文化会館「りゅーとぴあ」）の運営業務。
- ・ 財団法人 鼓童文化財団：8月（3名）  
「Earth Celebration 地球の祝祭」（佐渡市小木町鼓童村）の運営業務。
- ・ Sony Music Foundation：5月, 8月（2名）  
「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン 熱狂の日」音楽祭2008（東京国際フォーラム）並びに「軽井沢8月祭」（軽井沢大賀ホール）の運営業務。
- ・ ヤマハミュージック関東 新潟店：9月（3名）  
机上研修, 音楽教室見学, 店頭作業, 「JOC なかよしソング・コンサート」等の運営業務。



### (3) 健康スポーツ科学課程

#### 平成 20 年度 ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習

##### 健康スポーツ科学課程

新潟大学健康スポーツ科学課程 3 年次の必修科目であるヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習（インターンシップ）を 9 月に実施した。

健康スポーツ科学課程では課程発足以来、この実習を必修の教育課程として実施し、今回は 10 回目である。本実習は、就業以前に自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業等に就業体験を行うことで、実際の職場での業務内容の知見や実務的な体験を通じてさまざまな発見や技能を身につけることを目的としている。

7 月には新潟医療福祉大学准教授棚木聖也氏を招き、事前指導特別講義「アスレチックトレーナー—スポーツ現場と医療を繋ぐ—」を行った。

今年度は昨年度に引き続き、計 14 箇所の施設で実習を行った。

実習後の事後学習として、10 月に学生による実習報告会を実施し、さらに、「平成 20 年度ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習報告書」を作成した。

#### 平成 20 年度 HP・社会スポーツ指導実習 実習先・実習学生数

	実 習 施 設	実習生数	実習期日
1	新潟市保健所	9	9/1（月）～12（金）
2	新潟県体育協会	2	8/13（水）～26（火）
3	新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター	4	9/16（火）～27（土）
4	新潟県障害者交流センター	1	9/17（水）～27（土）
5	新潟市スポーツ振興課 （1 週目のみ,2 週目は鳥屋野総合体育館へ）	2	9/1（月）～5（金）
6	鳥屋野総合体育館	4	9/1（月）～12（金）
7	東総合スポーツセンター	2	9/1（月）～12（金）
8	西総合スポーツセンター	2	9/1（月）～12（金）
9	亀田総合体育館	2	9/2（火）～14（日）
10	スポーツランド燕, ビジョンよしだ, スポーツバイキングぶんすい	4	9/15（月）～26（金）
11	セコム安心館 MFP	2	9/1（月）～12日（金）
12	サンビレッジしばた	2	9/1（月）～11（木）

実習参加学生 34 名

## 2. 10 各課程の特色ある教育活動

### ○ 自然情報講座・数学科の活動

#### <講師等>

- ・ SPP（独立行政法人科学技術振興機構理数系教員指導力向上研修事業（希望型））
- ・ 新潟県立自然科学館「大おりがみ博」
- ・ 新潟県立教育センター「理数教育ステップアップ研修」
- ・ 佐渡総合教育センター「学力向上研修講座」
- ・ 新潟市教職 12 年研修
- ・ 新潟市小学校教育研究会算数部中央区研修会
- ・ 長岡算数教育を語る会， A S G（新潟算数教育研究会）
- ・ 新潟市立葛塚中学校コミュニティスクール
- ・ 新潟大学公開講座「第 4 回ペーパークラフトで広がる算数・数学の世界」
- ・ 新潟大学公開セミナー「数学発想スーパーセミナー」
- ・ 算数科親話会， 数学教育談話会， 算数・数学研修の集い
- ・ 高校生対象体験講義， 学部・学科体験「体験講義」
- ・ 附属長岡小学校「ようこそ大学の先生」

#### <役職>

- ・ 『日本数学教育学会 第 5 回算数・数学教育を考える会』 実行委員長， 事務局長
- ・ 『第 92 回全国算数・数学教育研究（新潟）大会』 準備委員長， 事務局長
- ・ 日本数学教育学会理事
- ・ 新潟市検証改善委員会， 新潟市授業改善フォーラム委員
- ・ 新潟市理科・数学学力向上協議会委員
- ・ 新潟県数学教育会会長， 副会長， 事務局長
- ・ 中越数学教育研究会会長
- ・ 下越数学教育研究会会長， 副会長

## ○ 自然情報講座の活動

### 1. シンポジウム・ワークショップ

「理科好きの子どもを育てる、伸ばすには ～家庭・地域・学校間の連携を目指して～」

平成 21 年 3 月 14 日（土）～ 16 日（月）

参加費：無料

参加者：のべ 200 人（日本各地からの小中高大教諭，大学生，大学院生，教育委員会関係者，理科支援員，理科に関心のある一般の方）

（主催）新潟大学教育学部（共催）新潟市教育委員会，新潟大学地球環境・地球物質研究センター

（後援）日本物理学会新潟支部，日本物理教育学会新潟支部，新潟地学教育・普及連絡協議会

各地でのさまざまな理科教育に関する教育実践，取り組みを共有し，新潟大学教育学部を拠点とした地域と連携した理科教育の人的ネットワークを構築することを目的として，3 日間にわたるシンポジウム・ワークショップを企画した。14 日は「世界の理科教育」，「ICT を活用した理科（教科）教育への展望」のシンポジウム，15 日は「地域と連携した理科教育」のシンポジウム，「明日からあなたも家庭で，地域で，学校で，楽しい理科の観察・実験をしてみよう」のワークショップ，16 日は「新潟の自然と科学教育の素材Ⅱ」シンポジウムを柱として，物理・化学・生物・地学・環境など多岐にわたる理科の分野にまたがった会を開催し，本州，四国，九州の各地から講演者，聴講者が集まり盛況な会であった。



\*平成 20 年度学長裁量経費プロジェクト

\*新潟日報（平成 21 年 3 月 13 日，3 月 17 日），産経新聞（平成 21 年 3 月 20 日）掲載

### 2. 体験型科学教室の実施

地域貢献と，教育学部学生の理科指導力向上を目的として，科学教室を実施した。

#### i. 第 1 回科学教室 「ロケットを飛ばそう！」

平成 20 年 9 月 28 日（日）10：00 - 15：00

於：教育学部物理実験室

第 1 部：ロケット製作&発射

第 2 部：パソコンを使ってロケットの動きをみよう！

参加費：無料

参加者：29 名（未就学児 1 名，小学生 13 名，保護者・大人 15 名）

（主催）新潟大学教育学部（共催）新潟市教育委員会

※ JST 平成 20 年度地域科学技術理解増進活動推進事業地域活動支援により実施



#### ii. 「青少年のための科学の祭典」新潟大会出展 「きらきら光る万華鏡をつくろう」

平成 20 年 12 月 20 日（土）～ 21 日（日）

於　　：産業振興センター

参加費：無料

参加者：約 200 名



### iii. 第2回科学教室 「カチカチボールの不思議&ビックバルーンで遊ぼう」

平成 21 年 2 月 1 日（日）10：00 - 15：00

於　　：教育学部 105 教室

第 1 部：カチカチボールの作成

第 2 部：超高速デジタルカメラで 1/1000 秒の世界へ

第 3 部：（低学年向き）扇風機をのせた力学台車で競争しよう

ビックバルーン、すっとびボールで遊ぼう

（高学年向き）コンピューターを使って 1/1000 秒の世界を観察しよう

参加費：無料

参加者：44 名（未就学児 1 名，小学生 18 名，中学生 1 名，保護者・大人 21 名）

（主催）新潟大学教育学部（共催）新潟市教育委員会

※ JST 平成 20 年度地域科学技術理解増進活動推進事業地域活動支援により実施



### 3. 学生による長岡市立日吉小学校 科学教室

日吉小学校では、外部講師がボランティアでクラブ活動（月 1 回，90 分）を行うという独自の活動を行っている。理科教育研究室の 4 年生を中心として以下の科学クラブを行った。

対象：小学 4 年生～6 年生 約 20 名

平成 20 年 9 月 24 日（水）「ペットボトルロケット作り①」

平成 20 年 10 月 22 日（水）「ペットボトルロケット作り②」

平成 20 年 11 月 26 日（水）「カラーカプセル（人工イクラ）作りに挑戦①」

平成 20 年 12 月 10 日（水）「カラーカプセル（人工イクラ）作りに挑戦②」

平成 21 年 1 月 22 日（水）「カチカチボール①」

平成 21 年 2 月 25 日（水）「カチカチボール②」

○ 学校教育課程保健体育専修

学生企画による第27回体操発表会での作品発表

(1) 保健体育科および小学校体育受講生による発表

保健体育科所属学生企画により、他学科・課程、他学部学生を含めた「新潟大学教育学部体操グループ」を組織し、12月6日（土）新潟市体育館において開催された第27回体操発表会（主催：新潟県体操研究会協力：新潟大学教育学部保健体育科出場者）に出場した。この企画は、毎年続けられており、今回も、発表会運営に加わるとともに、「自分たちが授業で作った作品」「授業で習った作品」および「先輩達から引き継いだ作品」12作品を1500人の観客の前で発表し、大喝采を受けた。

作品と参加者数は次の通りである。

第27回体操発表会出場者数（新潟大学学生）

団体名	所属	人数
保健体育科有志 (60名)	保健体育科	54
	芸術	1
	大学院	3
	人文学部	1
	理学部	1
小学校体育受講生有志 (57名)	修了生	2
	2年生	51
	3年生	3
合計	4年生	3
		119

第27回体操発表会出場のための支援・協力 発表作品・人数（新潟大学学生）

作品名	団体名	人数
手具なしの体操（スペース・ランデブー）	保健体育科	32
エアロビクス体操	保健体育科	54
手具なしの体操（バットマン）	保健体育科	59
縄を使った体操（子どもの頃の思い出）	保健体育科	13
メディシンボールを使った運動（ultra soul）	保健体育科	17
ラート運動	リズム体操部・保健体育科	13
手具なしの体操（CHA-LA HEAD-CHA-LA）	保健体育科4年生	11
手具なしの体操（OUTI ALIKOSKI）	講座第一教室	10
ボールを使った体操（DAM DAM DEO）	滝沢研究室	6
輪を使った体操（だんご3兄弟）	滝沢研究室	6
輪を使った体操（ポンキッキ体操）	小学校体育受講生	50
手具なしの体操（パンプ・アップ・ザ・ジャム）	小学校体育受講生	48

出場した学生にとっては、事業の企画運営方法を学ぶことができた。10、11月中の毎朝7時からの練習、夜8時半からの練習を経て、全員で一体感を持って発表できた、学生間の交流が深まった、実技力・指導力が身についた、動く喜びを知った、幼児から高齢者までのいろいろな体操を楽しんでいるのを知った等々、貴重な経験となった。



保健体育科による「バットマン」



小学校体育受講生による「輪を使ったポンキッキ体操」

## (2) 附属長岡小学校運動体カクラブへの支援

保健体育科滝沢研究室4年生3名が、附属長岡小学校体操・ダンスクラブの活動支援を行い、体操発表会出場に導いた。発表用に2作品を再構成し、放課後の練習に6回おもむき支援した。

子ども達は体操の楽しさを知り、学生にとっては交流を通して子ども達への理解が深まり、指導実践力を身につけることができた。

## (3) 新潟大学公開講座「親子でとりくむ楽しいリズム体操」と新大なんでもスポーツ・プロジェクト「リズム体操コース」の協力

公開講座「親子でとりくむ楽しいリズム体操」の補助員として5月から7回参加した学生6名は、受講生有志29名による発表会出場に協力した。

また、「新大なんでもスポーツ・プロジェクト Dコース:中高年のための楽しくやさしいリズム体操」に参加した学生・院生12名も、教員・受講生有志10名とともに発表会に出場した。

①スポーツ本来の楽しさを味わいながら将来の豊かなスポーツライフづくりに貢献する ②スポーツを通して地域での交流を促進する ③学生、大学院生のスポーツ実践指導力を向上させる等の成果をあげた。

### 第27回体操発表会出場のための支援・協力 発表作品・人数（新潟大学学生）

作品名	団体名	人数 (学生数)
手具なしの体操（ラブランドの夏）	附属長岡小学校体操・ダンスクラブ	12 (3)
輪を使った体操（ミッキーマウスマーチ）		
ボールを使った体操	新潟大学公開講座受講生	18 (9)
手具なしの体操		
ボールを使った体操（感謝の歌）	新大なんでもスポーツ・プロジェクト・リズム体操コース	12 (5)
手具なしの体操（ハッピーソング）		
手具なしの体操（TOKI体操）		



附属長岡小学校の児童による発表



公開講座「親子でとりくむ楽しいリズム体操」受講者と発表



新大なんでもスポーツ・プロジェクト「楽しくやさしいリズム体操」コースの参加者と発表

## 保健体育科による授業実践実習

### (1) 体操授業実践実習

保健体育科の「体操授業実践実習」の一環として、5月23日から6月20日の間、新潟市立内野中学校、同黒崎中学校および附属新潟小学校において、体操授業実践実習を行った。担任の教諭からは、授業終了後細部にわたる指導をいただいた。

数回にわたる模擬授業を経ての実践であり、予想外の展開があり、子ども理解、授業の工夫、事前準備の重要性等を学んだ。

#### 体操授業実践実習 実習校・期日・内容

実習校	学年・組・人数	期日	授業者・アシスタント数	内容
新潟市立内野中学校	2年生 選択体育クラス 44名	5月23日(金)	3名	輪を使った体操の導入と作品練習
		6月6日(金)	3名	
新潟市立黒崎中学校	2年生 2クラス 80名	5月20日(火)	2名	輪を使った体操の導入と作品練習
		5月27日(火)	2名	
		6月3日(火)	2名	
附属新潟小学校	4年1組 40名	5月21日(水)	2名	ボールを使った体操の導入と作品練習
		6月2日(月)	2名	
		6月20日(金)	2名	



新潟市立内野中学校での輪を使った体操の「体操授業実践実習」

## (2) 研究授業

「体育方法学演習」「保健体育科教育学演習」の一環として、学生、大学院生が協力して毎年小・中学生のための体操作品を構成し、その作品を小中学校で実践し修正し地域の教員や社会体育指導者に提供している。今年度は「小学生のためのボールを使った体操（ルパン三世）を新しく構成し、9月22、26、30日の3日間、新潟市立坂井輪小学校において授業実践を行った。担任の教諭からは、授業前後細部にわたる指導をいただいた。作品に若干の修正を加え、子ども達により親しまれる作品として完成させた。終了後報告書を作成し、各方面に配布した。

以上の実習は、学生にとっては、指導計画の立案、教材開発、実技力、指導実践力、子ども理解の向上に効果があった。子ども達にとっては大学生との交流、新しい運動経験により体育の楽しさを知るよい機会になったと考える。また、これらの作品は、学校、社会体育の授業やコースで指導されている。



新潟市立坂井輪小学校での研究授業



○ 保健体育・スポーツ科学講座

新大なんでもスポーツ・プロジェクト（第3回）

保健体育・スポーツ科学講座は、全ての人々に、豊かなスポーツライフ及び健康の保持増進を保証するための教員や指導者の養成を目的とし「新大なんでもスポーツ・プロジェクト」を実施している。本年度3年目を迎えた。

「新大なんでもスポーツ・プロジェクト」は、保健体育・スポーツ科学講座が、地域住民を対象とし、いろいろなスポーツを「なんでも」楽しもうと、次の目的をもって立ち上げた企画である。

- (1) スポーツ本来の楽しさを味わいながら、将来の豊かなスポーツライフづくりに貢献する。
- (2) スポーツを通して、地域での交流を促進する。
- (3) 院生および学生のスポーツ実践指導力を向上させる。

地域の人々を対象に参加者を募り、大学構内において、教員の指導のもと大学院生・学生が授業と関連した各種スポーツ講座を開講し指導実践した。本年度は、8コースを開講した。各コースの参加者数、指導者集は次の通り、延べ900人であった。

平成20年度 新大なんでもスポーツプロジェクト参加者・指導者数（コース別）

コース番号	種目名	期日	回数	参加者延べ人数			指導者延べ人数			
				子ども	大人	参加延べ人数	教員	院生・学生	その他	参加延べ人数
1	五十嵐の森キャンプ場で遊ぼう	9/6, 10/11～12 10/12～13	3	82	16	98	8	25		33
2	中高年のためのリズム体操教室	9/7, 9/21, 10/5, 10/19, 11/16	5	-	51	51	5	15	4	24
3	スイムクリニック	9/20, 9/27	2	14	33	47	2	12	6	20
4	小・中学生のための卓球教室	9/21, 9/23, 9/28	3	204	-	204	3	75		78
5	健康・文化ウォークとルートマップの創造	10/4, 11/15, 12/13	3		18	18	3			3
6	ちびっ子テニスの集い	10/12, 10/19, 10/26	3	61	61	122	3	51	3	57
7	集まれ！！ソフトボール広場？ パート2？	10/19, 10/26, 11/2	3	51	-	51	3	21		24
8	市民ランナー入門 あなたもフル・マラソン	9/21, 10/4, 10/19, 11/1, 11/8, 11/23, 11/30	7	5	74	79	7			7
	計	23日	29	417	249	670	34	199	13	247

参加者のアンケートからは、「楽しくなごやかな時間を過ごすことができ大変よかった」「新大が身近になり、先生や学生と知り合えてよかった」「先生の指導、学生の協力に感謝」「自分の知らない技術がすべて良かった」「地域の文化、自然、歴史に触れられた」「健康と文化研究との関連を知った」「もっと広報して多くの新しい人の参加があるとよい」「学生との交流時間がもう少しあった方がよい」「回数を増やして欲しい」「目的内容を明確にして欲しい」等の意見や希望がみられた。

学生のアンケートからは、「昨年よりも自分から積極的に話しかけたり、交わったりすることが出来た」「対象に応じた言葉がけや接し方を学んだ」「多様な対象に対する指導方法や教材、接し方の経験と習得が必要と感じた」「心の通った表情態度、的確な言葉がけ、ユーモア、場の和ませ方、分かりやすい示範、年齢にあった音楽・動きの選択等々を学んだ」等の感想がみられた。

これらから大学の施設を開放し、大学教員・院生・学生が一体となって地域住民の豊かなスポーツライフ、健康保持増進を保証する意味で、確実に地域への貢献を成したと考える。更に学生にとっては、生涯体育・スポーツにつながる企画運営・指導力・実技力などのスポーツ実践力向上という教育・研究的効果があげられる。

今後、内容の充実日程の検討、会場の美化が必要である。更に多くの参加者を得るためには、特に広報の検討が急務である。



## ○ 芸術環境創造課程音楽表現コース

### 1. 新潟大学医歯学総合病院大会議室において平成20年7月26日(土)に音楽科学生有志によるミニコンサートを開催した。

この企画は病院側から入院患者さんに音楽科の学生による生演奏を披露する機会がほしいという依頼があり、今回初めて行ったもの。

当日はピアノ、フルート、チェロの楽器によるアンサンブルで「朝のあいさつ」「ロンドンデリーの歌」「ます」他、声楽アンサンブルで「花」「おぼろ月夜」「浜辺の歌」他、を演奏し、患者さんやそのご家族など延べ100人が来場した。プログラムの最後に「うみ」を観客の皆さんと一緒に歌い、和やかな雰囲気うちにコンサートを終了した。

終演後、来場者から感謝の言葉をいただき、病院側から今後も継続して行って欲しいとの依頼があり、来年度に向けて開催日程を検討することになった。



### 2. 附属病院で音楽科授業「合唱」及び「舞台芸術」の授業成果発表会を開催した。

新潟大学医歯学総合病院大会議室において平成20年11月29日(土)教育人間科学部音楽科の授業「合唱」及び「舞台芸術」の授業成果発表会を行った。

この企画は、入院患者さんに快適で潤いのある療養生活を提供したいという病院の意向と、日頃の授業等に成果を発表・披露する場を求めている学部の意向が一致し、1昨年度より開催されたもの。患者さんから定期的な開催を求める声が多数寄せられていることから、今回3回目の開催となり、患者さんやそのご家族など延べ200人が来場した。

当日は女声合唱「峠の我が家」「椰子の実」「会津磐梯山」他、その後キャスト、スタッフ総勢30人の学生によりオペレッタ「笛吹きパパゲーノ」が上演された。またプログラムの中に昨年同様くみなさま一緒に歌いましょう>ステージを設け「小さい秋みつけた」「ふるさと」を観客の皆さんと一緒に合唱した。

会場は懐かしい歌の数々に一緒に口ずさんで歌われた方がおられ、和やかな雰囲気に包まれてプログラムが進み、オペレッタの楽しい場面では客席から大きな笑い声が聞こえるなどで上演は大変な盛り上がりだった。

今回も来場者から喜びの言葉と感謝の言葉をいただき、来年度も継続して発表会を開催する運びとなった。



3. 新潟市西区役所との連携により、「西区でアート:みゅーじっくろさき 2008」を大学カリキュラム（「音楽マネジメント1,2」並びに「課題研究」）の中で、マネジメントの実習も兼ねて行った。

3年計画で行われているこのプロジェクトは、新潟市西区内で音楽を通じた地域交流を目的とするもので、2年目の今年は32名の学生スタッフの発案・運営による13企画16公演2展示が行われた。これらは、プロジェクトの核となる公演を中心に立案され、学生たちの手によって運営されて、教職員や地域の方々延べ2,300人にご参加いただいた。

今年度の中心は、新潟が世界に誇る和太鼓集団「鼓童」による交流演奏会とシンポジウムであり、11月1日（黒崎市民会館）と2日（教育学部大講義室）に行われた（プログラム一覧を参照）。シンポジウムは保健体育科の学生によるリズム体操で華やかに始まり、続いて「新潟の『たたく』～未来からの鼓動～」をテーマに音楽科の伊野義博教授による講演が行われた。その合間には新潟樽砦と下駄総踊りが実演され、昔から受け継がれている新潟の「たたく」が会場に響き渡った。後半では、鼓童スタッフの後藤美奈子氏が、日本の伝統芸能にヒントを得つつも、それらの要素を常に新しい形に昇華して発信する鼓動の活動について、未来へのメッセージも込めて語った。会場には書道科の大学院生の作品「風散花香」も展示された。

鼓童交流演奏会では、約1時間半に渡り、聴衆の和太鼓体験講座も含めて10曲が演奏された。心臓の鼓動を感じさせ、笛が鳴り響く＜はつひ＞に始まり、打ち手が全員華々しくステージに登場する＜Shake＞、沖縄の琉球音階をモチーフとした＜アカバナ＞などが演奏され、躍動的な力強さと繊細なパチさばきに聴衆は魅了された。体験コーナーに出演した聴衆は、鼓童と＜かぐわら＞を共演。フロアの聴衆も手拍子で参加し、会場は一体となった。交流演奏の後は、鼓童メンバーと聴衆によるアフタートークが30分ほど行われ、「どんな練習をしているのか」、「演奏中は何を考えているのか」といった質問が飛び、彼らの演奏について学生スタッフも聴衆も理解を深める機会となった。

今年もさまざまなジャンルのコラボレーションや学生と地域の方々との交流など、たくさんのお会いが生まれた。「みゅーじっくろさき」完結年にあたる来年も、学生たちのロマンが花開く瞬間に、ぜひ多くの方々に立ち会っていただきたい。（関連企画については、<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~yokosaka/index.html>をご参照いただく。）

音楽科で昨年度から行っているコンサート・シリーズIAS（International Artists Series）も、今年度は第4回を迎え、日本ピアノ界の大御所、伊藤恵氏のリサイタルとマスタークラスが行われた。大講義室につめかけた満席の聴衆は、研究と教育の現場で奏でられる一流の演奏に酔いしれた。



# KODOMO

## 鼓童交流演奏会 (11/1・11/2)

(同日とも両プログラム)

- はつひ (阿部一成作曲) 前期と中期太鼓による導入
  - SHAKE (内藤晋作作曲) 担走種太鼓、平舞太鼓、廻りものによる楽曲
  - 屋台囃子 (鼓童編曲) 埼玉県秩父市の枝父祭りにならぶる白獅子を編曲
  - 千里馬 (藤合呂祝作曲) 調代曲
  - アカバナナー (金子竜太郎作曲) 琵琶音階をモチーフにした楽曲
  - 三宅 (鼓童編曲) 東京都三宅島にならぶる神樂木遣り太鼓
  - 木遣り〜大太鼓 (鼓童編曲) 琵琶、平舞太鼓を使った楽曲
- 【太鼓の体験コーナー】
- かぐわら (阿部一成作曲) 体験コーナーのリズムをもとにして合同演奏  
※一部配装の可能性がございます。

### <交流演奏会参加メンバー>



- <演出陣>  
阿部一成
- <同行マネージャー>  
松田真菜
- <制作>  
後藤美奈子

### 日本を代表する和太鼓集団 鼓童

日本の伝統芸能を現代に再創造し、在渡を拠点に国際的な活動を行う和太鼓集団。1981年ベルリン芸術祭でのデビュー以来、年の1/3を海外、1/3を国内、1/3を本拠地の佐渡で過ごし、「ワン・アース・ツアー」とよぶ公演活動を中心に、これまでに45カ国・3100人以上の公演を行っている。学校や地域を対象とした交流スタイルの公演にも積極的に取り組んでいる。また1988年から毎年、佐渡の市町村と共に国際芸術祭「アース・セレブレーション」を開催している。今回の公演は、鼓童を身近に感じることでできるトークや体験つきのプログラムになっている。

# シンポジウム (11/2のみ)

## 新潟の「たく」～未来からの鼓動～

### 1. リズム体操／新潟大学教育学部保健体育科

【演目】 バットマン  
 【出演】 新潟大学教育学部学校教育員養成課程 保健体育専修  
 浅川節 奥村紗希 近藤尊典  
 佐藤あすさ 高附将人 西原紀子  
 本間綺子 柳沢実佳 我妻礼

売掛が授業で作った作品です。「ダイナミックさ」「動きのゆよさ」「パランス」など、それぞれ特徴ある動きで構成されています。三つのグループの個性と全体のまとまりを大切に、力強く、感じよく動きまわります。

### 2. 講演：新潟の「たく」～未来からの鼓動～ 伊野義博 (新潟大学教育学部芸術環境現職准教授)

### 3. 新潟博覧会／水島流新潟博覧会、新潟総踊り

【演目】 新潟博覧会 下駄鼓踊り  
 【出演】 永島悠山 松浦良治 野村康子  
 渡辺悠 柳川光国 佐々木悠乃  
 中野清 ほか

新潟博覧会は新潟博覧会の一の基調として今日まで伝えられてきて、その伴奏役を担って参りました。一名博覧会にも呼ばれていました。明治34年、博覧会が佐渡の深谷地区を以て「深谷の博覧会」と銘付された後、新潟博覧会と呼ばれる様になりました。永島悠山が昭和43年から和太鼓楽団の団長に打ち始め、博覧会を通して団員を揃えて小笠原博覧会でも演奏と博覧会の盛り上げに努めておられます。博覧会が盛り上げられていくにつれて、博覧会が盛り上がっていき、博覧会が盛り上げられていきます。

### 4. 講演：「未来に向けて」／後藤美奈子 (鼓童スタッフ)

【演目】 鼓童の未来  
 【出演】 後藤美奈子

この機会に作品を制作することになり、音楽とつむぎの鼓童の音楽にしようと思いましたが、この音楽は、風が花の音りをかりまよくとくという意味です。風は季節を感じさせ、心を和ませたり感情に響きかけるものであると思います。これは音楽と共通する部分があると思います。特に、鼓に音楽を見て感じて感動したときの感動は言葉にしにくく、心に響くものがあります。その感動をこの音楽に表現し、鼓の持つリズムや音楽感を表現しようとして制作しました。



#### 4. コレギウム

学生たちが実際の教育現場に出向き演奏する活動を行っている。本年度は9月16日（火）に長岡市立東谷小学校, 19日（金）に村上市立西神納小学校に学生35名（引率教員2名）が出向いて演奏会を行った。内容は、ボディパーカッションを題材とした学生による授業とそれにリンクしたオペレッタ鑑賞の二本立て手で、オペレッタの編曲等も学生が手がけた。たいへん好評であった。



## ○ 学習社会ネットワーク課程の特色ある教育活動

学習社会ネットワーク課程では、授業の一環として地域社会及び海外の大学と連携した特色ある教育の場を提供し、学生の多様な学習活動を支えています。

- (1) 学社連携事業「まなび屋」は、学習社会ネットワーク課程と新潟市西地区公民館との共同企画で、毎週木曜日に地域の子ども達に、学校とは異なる学びの場を提供しています。毎週の活動やイベントの企画、運営、渉外、学びの時間など、事業実施に関わる様々な活動を学生主体で行っています。スタッフには、学習社会ネットワーク課程の学生だけでなく学校教育課程、生活環境科学課程、人文学部、法学部、理学部、農学部、農学部の学生達も加わっており、様々な専門分野の学生が集う「学生にとっての学びの場」にもなっています。毎年報告集を発刊し、今年は第8集を発刊しました。
- (2) 社会教育主事インターンシップは、社会教育への理解を深めるために生涯学習行政の場での実務を経験する企画です。平成12年度から実施し、新潟市他の教育委員会のご協力を得て、今年で9年目を迎えます。毎年報告書を作成し、成果を公表しています。今年度の事業の概要は、前項の「企業等インターンシップ」で報告しました。
- (3) 本課程の国際交流事業は、2000年の北京師範大学教育学院との交流から始まりました。毎年中国を訪問して中国の大学生とテーマを決めて討論するとともに、社会・文化・歴史施設の見学をして、国際理解を深める機会を提供しています。今年度は本課程の取組「多文化共生マインド育成プロジェクト：アジア視点に立つ大学教育改革プログラム」が、文部科学省の「平成20年度大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援）（交流プログラム開発型）」に採択されました。半年をかけて英語での日本・新潟紹介のVDV教材を制作し、北京師範大学珠海分校で教材を使っての授業を行って、優れた成果を上げました。このプロジェクトには、学習社会ネットワーク課程学生に加えて芸術環境創造課程音楽表現コースならびに学校教育課程の学生も参加しました。詳しくは「6. 国際交流」で報告しています。
- (4) 新潟市の文化及び文化施設の研究を目的とする授業科目「文化学習施設研究」（集中）では、「新潟市芸術文化会館」と「新潟市歴史博物館」の協力を得て文化・歴史施設のあり方を学び、能・狂言をはじめとした文化研究を行っています。今年度、新潟市歴史博物館では学生レポートの成果を反映させた歴史展示を実施しました。また、新潟市無形文化財第1号に指定された日本舞踊「市山流」とも提携し、平成16年から市山流の公演「古典芸能を楽しむ会」のなかでワークショップに参加するなど、新潟文化の継承にも積極的役割を果たしています。平成21年1月に放映されたNSTテレビの市山流特集番組では、市山流隆盛の未来を担う新潟大学教育学部の取り組みとして大きく取り上げられました。



## 2. 11 高校生対象体験講義

### 第1回 平成20年6月14日(土)

講義題目	講師	参加人数
広報委員による全体説明会	森下修次	188
文字を上手に書くコツ	岡村浩	
自然の中の化学Ⅲ	鎌田正喜	
わくわくクラシック	横坂康彦	
コミュニケーションツールとしての造形素材	郷晃	
算数の計算	和田信哉	
高校生のための大学進学政策	藤村正司	
“メタボ”ってな～に	山崎健	

### 第2回 平成20年9月20日(土)

講義題目	講師	参加人数
広報委員による全体説明会	小林日出至郎	74
国語科学習指導の基礎的な知識・技能	常木正則	
An Introduction to Intercultural Communication	カルメン・ハンナ	
越後平野の地形環境と人々の生活	小野映介	
人間の場合、子育ては本能か？	山岸雅夫	
数学で覗く自然の中の決まり	山田和美	

### 第3回 平成20年11月1日(土)

講義題目	講師	参加人数
広報委員による全体説明会	麓慎一	104
二種類の自動詞と普遍文法	本間伸輔	
情報を測る	古谷正	
日本開国期における新潟県人のサハリン島開発について	麓慎一	
君もガリレオ	五十嵐尤二	
みんなのスポーツ	小林日出至郎	

## 2. 12 中・高校生及び保護者の大学見学

本学部では、今後も積極的に高校生等への説明会を開催するとともに、より身近に学部を感じてもらえるような新たな企画を設定し、優秀な人材の獲得に全力を注いでいこうと考えている。

見学校	対象者等	開催日	担当者
市立東石山中学	2年6名	5月7日	郷 晃
山梨学院高校	2年15名	5月14日	下 保 敏 和
JAPAN サッカーカレッジ高等部	3年24名	5月28日	桑 原 公
附属長岡小学校	5年80名	6月17日	森 田 龍 義 伊 野 義 博 鶴 田 一 雄
柏崎市立第三中学	3年11名	6月24日	柳 田 多 美
小千谷市立千田中学	3年16名	6月27日	山 岸 雅 夫
燕中等教育学校	PTA 6名	7月10日	藤 村 正 司
小千谷高校	2年210名	7月11日	小 野 映 介
魚沼市立広神中学校	3年4名	7月16日	柴 田 透
白根北中学校	3年9名	7月17日	鈴 木 保 高
高志高校	2年19名	7月28日	富 田 健 之
新潟第一中学校	2年124名	7月29日	上 石 圭 一
両津高校	1年23名	7月29日	長 岡 成 夫
小出高校	1年70名	7月31日	北 村 昌 史
新発田南高校	70名	8月28日	橋 本 修
新津高校	1年56名	8月29日	佐 藤 亮 一
小須戸中学	3年16名	9月25日	三 塚 貴
小新中学校	3年10名	10月15日	常 木 正 則
紫雲寺中学校	3年7名	10月21日	向 山 恭 一
内野中学校 PTA	16名	10月22日	鶴 田 一 雄
明和県央高校	1年71名	10月24日	松 浦 良 治
附属長岡中学校	1年120名	11月10日	森 田 龍 義 宮 蘭 義 衛

### 3 就職支援

#### 3. 1 教員志望学生向け特別講座

本学部就職厚生委員会では、学生の就職支援の一環として、本年度も次のとおり、特別講座：「学校教育の現状と課題」を実施した。

主任講師は、本学部附属教育実践総合センターの岸本賢一客員教授である。

##### (1) 目的

講座の受講を通して、学校教育に対する多面的な教育観を培うとともに、教育現場の実際を知り、多様な教育課題解決のために、「何をなすべきか」を考え、教師を目指す意欲を醸成する。

##### (2) 実施内容

###### ①前期分

対象学生：学部4年生，大学院2年生

開講時間：16:30～18:00（ただし、第2回は15:30～18:00），場所：204教室

	実施日	テーマ（内容）	講師
1	4月24日（木）	特別講座の説明 教員採用検査に向けてのガイダンス①	岸本賢一客員教授
2	5月8日（木）	教員採用検査に向けてのガイダンス② （県教委・市教委からの説明）	新潟県教育委員会義務教育課 管理主事・早川義裕先生 新潟市教育委員会教職員課 管理主事・大矢宏先生
3	5月15日（木）	教員採用検査内容検討	岸本賢一客員教授
4	5月22日（木）	教育小論文作成講義・演習1	
5	5月29日（木）	教育小論文作成講義・演習2	
6	6月19日（木）	個人面接・模擬授業面接心得・演習	
7	6月26日（木）	第一次採用検査受検へのまとめ心得1	
8	7月3日（木）	第一次採用検査受検へのまとめ心得2	
9	7月10日（木）	第二次採用検査に向けてのガイダンス	
10	7月17日（木）	第二次採用検査への教養・面接演習1	
11	7月24日（木）	第二次採用検査への教養・面接演習2	
12	11月6日（木）	採用候補者への指導・助言	
13	11月13日（木）	臨時採用教員候補者への指導・助言	

###### ②後期分

主たる対象学生：学部3年生，大学院1年生，開講時間：16:30～18:00，場所：204教室

	実施日	テーマ（内容）	講師
1	10月23日（木）	講座のガイダンス	岸本賢一客員教授
2	11月13日（木）	学習指導上の課題とその解決に向けて（その1）	新潟教育研究所 江端周二先生
3	11月20日（木）	学習指導上の課題とその解決に向けて（その2）	
4	11月27日（木）	教育現場が求める教師像	岸本賢一客員教授
5	12月4日（木）	生徒指導上の課題とその解決に向けて（その1）	新潟市教育委員会学校支援課指導主事・大江謙作先生
6	12月11日（木）	生徒指導上の課題とその解決に向けて（その2）	
7	12月18日（木）	教師の資質と使命感	岸本賢一客員教授
8	1月8日（木）	教育公務員の服務勤務	
9	1月15日（木）	学校教育の課題とその解決に向けて	
10	1月22日（木）	本講座のまとめと次年度講座に向けて	

### 3. 2 公務員志望向けガイダンス

今年度は本学部独自の公務員試験対策講座を1回催した。

#### 「公務員就職を希望する3年生のための就職セミナー」

10月24日に「公務員試験内定者からの合格体験談」を催した。来年度公務員就職を希望している人が、今年内定を果たした先輩方の体験談を聞き、質疑応答を行った。

発表者は、石津秀貴さん（学習社会ネットワーク課程）、鈴木崇史さん（学校教育課程）、八木澤麻子さん（大学院教育学研究科）の3名、参加者は15名であった。

参加者からは、「実際に公務員に内定した人の話が聞いて良かった」「わかりやすく具体的な説明が聞いてとても参考になった」「これからの勉強に大変役立ちました」等の意見が聞かれ、概ね好評であったが、一方で、「もっと周知に力をいれてほしい」「このような機会をもっと増やして欲しい」等の意見も出されたため、来年度以降の検討課題としたい。



### 3. 3 一般企業志望学生向けガイダンス

今年度は本学部独自の一般企業志望学生向けセミナーを1回開催した。

#### 「民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー」

10月22日に、「民間企業内定者からの合格体験談」を催した。既に民間企業への就職活動を開始、あるいは開始しようと考えている人が、今年内定を果たした先輩方の体験談を聞き、質疑応答を行った。

発表者は、佐久間由貴さん（学習社会ネットワーク課程）、大嶋悦子さん（学校教育課程）、佐藤裕介さん（学習社会ネットワーク課程）の3名、参加者は22名であった。

参加者からは、「就職活動を終えた先輩方の話が聞いて良かった」「就職活動の具体的な流れとその時期などがわかった」「就職活動についての不安がなくなった」「面接の体験談が聞いてよかった」と評価する一方、「もっといろいろな会社の内定者のお話も聞きたかった」「セミナーの回数を増やして欲しい」等の意見も出されたため、来年度以降の検討課題としたい。



### 3. 4 臨時教員希望者への就職支援

#### (1) 「臨時採用教員希望者登録ガイダンス」

日時：平成 20 年 11 月 13 日（木）16:25～17:55

臨時教員採用を希望する学生に対し、「小・中・高・特別支援学校臨時教員採用希望調書」を配付した。また、岸本賢一教育実践総合センター客員教授より、教員としての心構えや希望調書に記入する自己PRの表現方法など、現場のエピソードを交えた具体的な話があった。

なお、臨時教員採用の情報等については登録者のメールアドレス（学務情報システムのメールアドレス：在籍番号@mail.cc.niigata-u.ac.jp）に随時送信を行った。

#### (2) 平成 21 年度臨時教員採用希望者名簿の作成と教育委員会等への送付

「小・中・高・特別支援学校臨時教員採用希望調書」（登録者数 101 名）をもとに、名簿を作成した。この名簿は、新潟県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会及び学生から希望のあった県外の教育委員会（群馬県、栃木県、埼玉県、長野県、東京都、富山県、山形県、兵庫県、神奈川県、大阪府、福島県、石川県、千葉県、京都府、大分県）に郵送し採用をお願いした。（送付先：県内関係 39、県外関係 15、計 54）

また、下記教育委員会等へは、副学部長、就職厚生委員等が訪問し、採用をお願いするとともに、教員採用及び本学部卒業生の動向について情報収集や学部への要望等を行った。

#### 記

訪問先	期日	担当者	
		教員	事務職員
下越教育事務所 新潟県教育委員会 新潟市教育委員会	12月16日（火）	近藤副学部長 岸本客員教授	富井学務課長
長岡市教育委員会 中越教育事務所	12月17日（水）	山崎教授（就職厚生委員） 岸本客員教授	富井学務課長 小林学務第五係長
上越市教育委員会 上越教育事務所	12月25日（木）	荒木教授（就職厚生委員） 岸本客員教授	

## 4 学部FD

### 1. 第1回

- ・日時 2008年4月10日(木) 17時40分～18時10分
- ・会場 大会議室
- ・参加者 約80名
- ・テーマ

○「平成20年度教育学部TA研修」 鎌田正喜

2008年3月31日に開催されたTA研修実施検討会を受け、早速教育学研究科の同研修を実施した。TAの業務、TAの業務ではない仕事、TAの拘束時間、セクハラ・アカハラの注意点、個人情報の取り扱い、アンケート調査およびTA実施報告書などについて、詳細な説明が行われた。受け入れ側の各教員が、TAに対して説明会を実施しなければならないこと、TAから実施報告書を提出してもらう(毎回か最終回か)と授業改善に役立つことなど、示唆的な内容であった。

### 2. 第2回

- ・日時 2008年12月17日(水) 15時～17時40分
- ・会場 教育実践総合センター206 演習室
- ・参加者 約20名
- ・テーマ

①「新潟大学における研究教育実習」 児玉康弘, 柳沼宏寿, 森下修次, 常木正則

②「農業高校におけるフィールドワークと大学院段階の教育プログラム開発」

大野栄三(北海道大学大学院教育学研究院・准教授)

当初、教育学部フレンドシップ事業の一環として計画された学習・講演会を、学部FDとして実施することになった。第一部は、4年一貫の教育実習の最後に位置づけられている研究教育実習について、上記4名の教員から実践事例報告をいただいた。実践の機会を増やすために、学習支援ボランティアとの連結・連動はできないか、などの提案もあった。

第二部は、北海道大学の栄三准教授をお招きし、2006年度より2008年度まで、標記のタイトルにて大学院生を対象として実施している教育プログラムにつき、貴重な報告をいただいた。私どもの授業科目「学校インターンシップ」の在り方を考える上でも、大きな示唆をいただいた。指導教員による事前の十全なセッティングは不可欠であることが、よく分かる内容であった。

### 3. 第3回

- ・日時 2009年1月8日(木) 14時40分～15時05分
- ・会場 大会議室
- ・参加者 約80名
- ・テーマ

○「統合型学務情報システムNESS-有効活用とその注意事項等-」

全学教育機構・学務情報部門 木竜徹, 五島譲司

日頃、履修登録・成績登録・シラバス入力程度しか利用できていない、新統合型学務情報システムの詳細について、全学教育機構から説明をいただいた。時間的な制約もあったが、受講学生への掲示(通知)、プリントの配布・回収、授業に関するフォーラムの実施、アンケートの実施、個人情報の取り扱い等に

ついて、具体的な操作手順のレクチャーがあった。

#### 4. 第4回

- ・日時 2009年1月15日(木) 16時30分～18時10分
- ・会場 大会議室
- ・参加者 約40名
- ・テーマ

①「大学教員の教育的コンピテンシー開発支援事業について」

②「シラバスを作成するということ」 大学教育開発研究センター 加藤かおり

平成20年度から22年まで実施される文部科学省の特別教育研究(概算要求事項)「大学教員の教育的コンピテンシー開発支援事業」について、大教センターの加藤准教授よりこの事業の発端(目的・背景)から第1年次の進行状況までの説明があった。事後の質疑は、もっぱら体系的研修プログラムが構築され、学習目標達成型教育への転換を支援するWebシステムが開発された場合に、それが新たな教員評価項目となる恐れはないのかという点に集中した。計画書には「修了者には教育的コンピテンシーに関わる学習履歴の証明を行う」と明記されているからである。加藤准教授からは、全学的には本プログラムは初任者研修に使用するものであること、各学部においてはこれをアレンジして利用していただきたい旨の回答があった。また「教育力」とは何なのか、じっくり具体的に分析・検討する必要があるとの指摘もあった。

シラバスについては、シラバスは学生が「自分で学習を考えるためのツール」であるとの位置づけから、あくまでも学生が想起できるより具体的な内容・書き方であるべきで、学問的な魅力をアピールしてほしいとの説明があった。また、今後は主専攻プログラムを意識し、学科やコースの先生方と話し合いながら作成する必要があるとの指摘もなされた。

#### 5. 第5回

- ・日時 2009年3月20日(金) 16時30分～17時10分
- ・会場 大会議室
- ・参加者 約50名
- ・テーマ

○「実践場面につなげる教科教育法の授業改善－「授業」ができるようになる授業へ－」

伊野 義博

平成18年度から、従来の教育褒賞制度に代わって「学長教育賞」制度が始まった。これは、学生と教員が、全授業からモデルとすべき優れた授業を推薦し、その中から毎年1名の授業担当者を選んで、学長が表彰するというものである。

平成20年度の今年度は、音楽科の伊野義博先生が第3回目の受賞者として選出された。そこで、今年度の学部FDの最後を飾り、伊野先生から効果的な教授法や学習支援の方法についてご紹介いただき、今後の授業の参考にさせていただくことにした。

新潟大学に赴任した当初から現在に至るまでの授業改善の推移が示され、創意工夫、事前の準備、授業に臨む姿勢の重要性を学ぶことができた。テンションを高く保ち、授業時間を学生と共有している様子がうかがわれた。

## 5 地域貢献

### 5. 1 12年研修

#### 1. 過去5年間の取り組みの概要

1) 平成16年度に始まった、新潟市教育委員会と教育人間科学部との連携による「12年経験者研修」は、今年度で5年目を迎えた

2) 受講者数の変動が大きいですが、少人数「教科指導研修」体制が定着してきた

このために、新潟市立総合教育センター指導主事と学部教員から指導者としての参加・協力が得られている。

学部教員は、教科教育法関係担当教員だけでなく、教科専門担当教員も多く参加・協力している。

表 過去5年間の受講者・指導者数

	受講者数	指導者チームの人数	
		学部教員	指導主事等
平成16年度	100	31	24
平成17年度	180	45	36
平成18年度	96	50	26
平成19年度	55	35	15
平成20年度	126	37	31
累積合計	557	198	132

※ 受講者数は、途中リタイヤ者等も含まれており、統計の取り方により若干の違いがある。

※ 指導者の中には、一部小学校と中学校の両方の研修に関わっている人が含まれる。

※ 過去5年間の受講者総数557名、指導者として参加した学部教員総数198名、指導主事等総数132名。

※ 多くの学部教員の参加・協力が実現している。

3) 夏期「教科指導研修」(4 or 5日間) + (2学期校内授業研究～参加任意) + 冬期「研修まとめ」(0.5日間)の日程で実施してきた

#### 2. 平成20年度の日程・取り組み状況等

1) 研修会場は、新潟大学教育学部講義棟と市立総合教育センターの2カ所とした。

国語・算数の2教科を、市立総合教育センターにて実施。

2) 平成19年度から、夏期「教科指導研修」を5日間から4日間に減じ、1日を二学期の代表者授業研究として実施した。本年度も同様である。(次頁資料参照)

3) 受講者は、一挙に前年度の2倍以上に増え126名となったが、小中同日・合同開催とした。また、少人数での教科指導の原則を維持した。

このために、学部教員37名、指導主事等31名の参加・協力があつた。

#### 3. これまでの取り組みの成果と課題

1) 「教科指導研修」に対する受講者の評価は高い

→今年度の合同事前打合会で、無記名での受講者アンケートの必要性を指摘する意見もあつた

2) 新潟市政令市移行に伴い、新潟市立総合教育センター主管の研修等が増えている。

また、平成21年度から免許更新講習実施のため、12年研修との日程調整等が厳しくなっている。

→大学では前期試験やオープンキャンパスの時期と重なることがあり、教室確保を早めに行う必要あり

→教育学部の講義室にエアコンが設置されつつあり、快適な研修環境が整いつつある



## 平成 20 年度 12 年研修「教科指導研修」研修内容の概要（資料）

### 1 平成 20 年度 12 年経験者研修「新潟市立総合教育センター・大学」事前打ち合わせ

5月15日（木） 午後4時～ 会場 新潟大学教育学部 大会議室

### 2 夏期「教科指導研修」・冬期「研修のまとめ」の日程（昨年度からの変更含む）

#### ①受講者数 126 名

内訳（小学校—75名，中学校—49名，特別支援学校—2名）

#### ②夏期「教科指導研修」は4日間，2学期に「校内授業研究」として1日設定

#### ③小中とも同一日に開催（受講者数が少ない教科は，小中合同教科で実施した）

#### ④研修に参加・協力した指導者数

・新潟大学教員 37名

・総合教育センター指導主事等 31名

	研修日	研修内容の概要
1 日目	8月1日（金）	<b>教科指導研修1</b> 会場 新大教育学部／総合教育センター 午前 授業分析 ※受講者全員の授業ビデオから課題検討 午後 指導案「問題の所在」「解決への取組」の検討 ○ 授業分析と「問題の所在」「解決への取組」の整合性をふまえて検討する。
2 日目	8月4日（月）	<b>教科指導研修2</b> 会場 新大教育学部／総合教育センター 「（各教科の）確かな学力を定着させる学習指導について」をテーマとし， 午前 新大教員 講義 を担当する。 午後 指導主事 演習 を担当する。
3 日目	8月18日（月）	<b>指導案検討1</b> 会場 新大教育学部／総合教育センター 終日 各受講者の指導案のグループ検討 ○ 本時を中心に検討する。
4 日目	8月22日（金）	<b>指導案検討2</b> 会場 新大教育学部／総合教育センター 終日 総合演習（模擬授業） ○ 3日目で検討した本時分の指導案に基づき，模擬授業を実施する。具体的な授業を通して，問題点の解決が図れる 取組となっているか検討する。
5 日目	9～10月の1日	<b>代表者授業研修会</b> 会場 代表授業者の勤務校 代表授業者の5校時～ 3時間の研修日程 ○ 代表者の授業を参観・協議を通して，授業改善の具体策の有効性を検討する。 代表者：具体的な改善策を公開授業の場で提案する場である。 参観者：授業を分析する力・代案を提案する力がついたか確かめる場である。

#### ③冬期「研修のまとめ」

12月24日（水）	<b>教科指導研修のまとめ</b> 午後2時～ 会場 各学校 ○ 各受講者の実践レポートをもとにグループ協議を行う。
-----------	---

## 5. 2 新潟大学新潟駅南キャンパス（通称：CLLIC）等開設公開講座

教育学部は、生涯学習・生涯教育を学部の使命としていることから、CLLICや教育学部校舎等を使用して様々な講座を開講し、生涯学習社会に生きる人々の一助となるよう心がけている。

今年度は、「教育実践総合センター主催・教育実践セミナー」を開設し、また、小学生から自然に親しむキャンプ・スキー教室、臨床心理士資格を目指す学生などに対する心理臨床セミナー、発表会が楽しいピアノ講座など、本学部ならではの講座等を開設した。

以下に、今年度の実施状況を示す。

### 新潟大学新潟駅南キャンパス（CLLIC）等開設公開講座一覧

講 座 名	
一 般 教 養 講 座	新潟市會津八一記念館との連携 特別企画「藤井有鄰館展」を楽しむ
	大人のためのピアノ講座～もしもピアノが弾けたなら～
	第4回ペーパークラフトでひろがる算数・数学の世界
	小中学生キャンプ教室
	小中学生スキー教室
	親子でとりくむ楽しいリズム体操 A・B
	楽しいクラフト講座
	数学発想スーパーセミナー
	包括的アプローチによる中高齢者対象の運動指導プログラムの実際 - 中高齢者の健康づくりチーム育成のために -
教 員 ・ 教 員 志 望 者 等 講 座	心理療法の実際
	「認知行動療法」で生活の質を高めよう！
	心理臨床セミナー
	小学校家庭科担当教師のための授業・教材研究
	新潟大学免許法認定講座「キャリア教育特論」
	新潟大学免許法認定講座「歴史学特論」
	新潟大学免許法認定講座「学校臨床心理学特論Ⅲ」
	新潟大学免許法認定講座「美術教育特論」
	新潟大学免許法認定講座「数学科教育方法特論」
	新潟大学免許法認定講座「教育哲学特論」
新潟大学教育学部附属教育実践総合センター主催「教育実践セミナー」	

## 5. 3 教育委員会との連携事業

### ○ 教育委員会等との連携事業

#### ・ 新潟県教育委員会との教育懇談会

新潟県教育委員会と10回目となる教育懇談会を開催した。

「教育委員会が期待する教員の資質・能力について」、「教員採用の在り方について」「教員免許状更新講習の開設について」などについて意見交換を行った。

#### ・ 見附市教育委員会と連携事業

平成17年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、見附市教育委員会との連携事業として、市内の小学校7校、中学校3校及び養護学校1校に学習支援（自然教室、水泳教室、教科指導、陸上練習補助、スキー教室指導）のためのボランティアを派遣した。短期派遣で、合計97人（延べ198人）を派遣した。

#### ・ 三条市教育委員会との連携事業

平成17年8月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、三条市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア（市内の小学校6校）」、「三条市科学フェスティバル」、「放課後子ども教室」等へ本学学生延べ114人が参加した。

また、三条市との連携協議会（H20. 11. 26）を開催して、今後の連携について意見交換を行った。

なお、今後も定期的を開催していくことが確認された。

## ○心のケア

「児童生徒の心のケア推進事業」（長岡市教委との連携事業）の概要

### 1. 目的

中越大震災における心のケアは、長期的、継続的な対応が必要である。そこで、学校内における心のケア体制を充実させるために、心のケア担当教諭や養護教諭に対して、専門的な立場からカウンセラーが指導・研修を行う。

### 2. 内容

カウンセラーによる心のケア校内体制支援、および心のケア実施のための養護教諭支援として、次の3つの事項を実施する。

(ア) カウンセラーによる心のケア担当教諭への指導等（17年度より実施）

養護教諭、その他の心のケア担当教諭がカウンセラーから個別指導等を受け、児童生徒の心のケアに生かす。

(イ) カウンセラーによる心のケア担当教諭の研修会（事例検討会）（17年度より実施）

心のケア担当教諭が行う心のケアの事例検討会において、カウンセラーから指導方法の研修を受ける。

(ウ) カウンセラーによる養護教諭支援（18年度より実施）

心のケアの必要な児童生徒を抱えている学校の養護教諭を対象に、コンサルテーションを実施する。

### 3. 本学部の役割

本事業は、長岡市教育委員会との連携事業であり、上記のような事業に対して、本学部から実施場所である「長岡市教育センター」に下記のとおりカウンセラーを派遣した。

### 4. 窓口（コーディネーター）

教育実践総合センター・教育臨床研究部門が本学部の窓口（コーディネーター）を担当した。

月 日	時間 <sup>(注1)</sup>	内容 <sup>(注2)</sup>	相談件数(参加人数)	カウンセラー
6月 6日 (金)	9:00～16:00	(ア) (ウ)	4件 (4人)	長 澤 正 樹
6月 9日 (月)	9:00～16:00	(ア) (ウ)	4件 (4人)	増 澤 菜 生
7月10日 (木)	9:00～16:00	(ア) (ウ)	4件 (4人)	神 村 栄 一
8月19日 (火)	9:00～16:00	(ア) (ウ)	4件 (4人)	柳 田 多 美
9月24日 (水)	9:00～16:00	(ア) (ウ)	4件 (4人)	横 山 知 行
10月10日 (金)	10:00～16:00	(ア) (イ)	4件 (6人)	有 川 宏 幸
11月 4日 (木)	14:00～17:00	(ウ)	3件 (2人)	松 井 賢 二
1月15日 (木)	9:00～16:00	(ア) (ウ)	5件 (5人)	横 山 知 行
2月23日 (月)	9:00～16:00	(ア) (ウ)	5件 (6人)	長 澤 正 樹
3月 2日 (月)	10:00～16:00	(ア) (イ)	6件 (6人)	有 川 宏 幸
合 計			43件 (45人)	

注1：「時間」の欄で、12:00～13:00は昼食及び休憩時間である。

注2：「内容」の欄で（ア）とは「カウンセラーによる心のケア担当教諭への指導」

（イ）とは「カウンセラーによる心のケア担当教諭の研修会（事例検討会）」

（ウ）とは「カウンセラーによる養護教諭への支援」のことである。

## 5. 4 新潟大学免許法認定公開講座

小・中・高等学校いずれかの1種免許状を取得し、3年以上の教職経験を有する者を対象として、専修免許状取得のための学修機会を提供し、現職教員の資質向上に寄与することを目的として開設された。

本年度も昨年度に引き続き、より多くの現職教員の受講を可能とするため、2会場を同時に結ぶ遠隔教育による授業を含む計6科目を実施した。その概要は以下のとおりである。

開設科目	歴史学特論	キャリア教育特論	美術教育特論	学校臨床心理学特論Ⅲ	数学科教育方法特論	教育哲学特論
日程	7月31日 8月1日 8月5日 8月6日	8月7日 8月8日 8月28日 8月29日	8月11日 8月12日 8月22日 8月23日	8月18日 8月19日 8月20日 8月21日	9月20日 9月21日 9月27日 9月28日	11月1日 11月2日 11月15日 11月16日
会場	新潟大学 教育学部	新潟大学教育 学部附属教育 実践総合セン ター 新潟大学新潟 駅南キャンパ ス	新潟大学 教育学部	新潟大学 教育学部	新潟大学 教育学部	新潟大学 教育学部
担当講師	麓 慎一 北村 昌史	松井 賢二	佐藤 哲夫 柳沼 宏寿	神村 栄一	山田 和美	齋藤 勉
授与単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
講義時間	30時間	30時間	30時間	30時間	30時間	30時間
受講者	12人	7人	12人	29人	9人	21人
単位取得者	12人	7人	12人	28人	8人	19人

## 5. 5 SCS 大学間遠隔共同講義「教育臨床」

教育実践総合センター・教育臨床研究部門では、平成9年度よりSCS（Space Collaboration System）による大学間遠隔共同講義「教育臨床」を受信し、平成11年度より11年度間にわたって議長局を務めてきた。参加局は、主として国立大学教育実践研究関連センター協議会・教育臨床部会に所属する大学である。

本年度の概要は以下のとおりである。なお、開講時間は、すべて午後6時00分～午後7時30分である。

日 程	テ ー マ	講 師
2008年4月17日（木）	中学校におけるキャリア教育の実際とその効果	松井賢二・廣瀬吉生（新潟大学）
2008年5月15日（木）	教育の原風景 ～引き継がれる教育活動の効果～	岸本賢一（新潟大学）
2008年6月19日（木）	発達障害が疑われる不登校の児童生徒について ～福島県における調査から～	中野明德（福島大学）
2008年7月17日（木）	学校規模の実践の定着と有効性について －学校規模の集団社会的スキル訓練－	宮前義和（香川大学）
2008年11月20日（木）	子どもはどのように学んでいるか －「学び」の原点を探る－	植木克美（北海道教育大学） 渡部信一（東北大学） 後藤 守（北海道教育大学）
2008年12月18日（木）	学生参加による不登校支援ネットワーク（NANAつくす）の活動PARTⅢ ～さまざまな「つながり」を大切に～	古川雅文，松本 剛，松本 望， 竹安今日子，NANAつくす参加学生（兵庫教育大学）

### ● 20年度参加局一覧（10局，○：議長局）

北海道教育大学1	北海道教育大学2（釧路校）	福島大学
○新潟大学	上越教育大学	京都教育大学
奈良教育大学	兵庫教育大学	鳥取大学
香川大学		

（付記）SCS事業が終了することに伴って、本SCS教育臨床は、本年度限りで終了する。

## 5. 6 講演会・演奏会・発表会など

### ○ 芸術環境講座・書道科の活動

#### 学生主体の書展

「芙蓉会書展」 東日本出身者による。 新潟市民芸術文化会館（2008, 8）

「驥鳳会書展」 西日本出身者による。 新潟市民芸術文化会館（2008, 7）

「学年展・栞」 2年生による。 西新潟市民会館（2008, 5）

「書道科展」 全学生による。 新潟県民会館（2008, 12）

「卒業修了制作展」 平成20年度分。 新潟県民会館（2009, 2）

以上のような活動を中心として、この他に県内各種公募展に出品を行った。卒修展は、畳12枚程の大きな紙面に大筆で揮毫したものが主で、学外のプロアマ問わず大勢の鑑賞者から反響があった。制作のみならず、その表具から広報活動にいたるまで、学生たちが自主的にとり行なっていることも大きな特色である。

#### ・新大ウィーク

「書！DO?」学部大会議室（2008, 10.20 から 26）を開催。

会期中は、

- ・第一食堂前、学部正面玄関での学生による書作実演
- ・展覧会場でのワークショップ

以上が企画の中心で、来場者から好評を得た。

## 5. 7 委員等就任状況

### 《主な委員就任一覧》

#### 新潟県・新潟県教育委員会

- 『新潟県男女平等社会推進審議会委員』
- 『国土利用計画審議会委員』
- 『大規模小売店舗立地審議会委員』
- 『新潟県労働委員会委員』
- 『文化財保護審議会委員』
- 『環境審議会委員』
- 『環境影響評価審査会委員』
- 『新潟県教科用図書選定審議会委員』
- 『新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会委員』
- 『新潟県住宅防火対策推進会議委員』
- 『キャリア教育実践プロジェクトに係る平成 20 年度新潟県支援会議委員』
- 『新潟県社会福祉審議会委員』
- 『平成 20 年度キャリア教育検討会委員』
- 『新潟県教育職員特別免許状検定協議会委員』
- 『平成 20 年度新潟県体力・生活実態調査協力者』
- 『新潟県消費生活審議会委員』
- 『青少年健全育成審議会委員』
- 『環境審議会委員』
- 『小学校教育研究会学習指導改善スーパーバイザー』
- 『教育総合研究センター研究委員』
- 『新潟県教育委員会スクールカウンセラー』
- 『自然体験活動指導者養成事業運営会議委員』
- 『新潟県にぎわいのあるまちづくり審議会委員』
- 『健康にいがた 21 健康運動分野検討委員会委員』

#### 新潟市・新潟市教育委員会

- 『新潟市社会教育委員』
- 『新潟市病院事業運営審議会委員』
- 『新潟市スポーツ振興審議会委員』
- 『新潟市都市計画審議会委員』
- 『平成 20 年度新潟市男女平等教育推進研究会委員』
- 『新潟市健康づくり推進委員会委員』
- 『新潟市歴史資料及び文学資料選定委員会委員』
- 『新潟市環境審議会委員』
- 『相談員』
- 『新潟市奨学生選考委員会委員』



『にいがた住まいの基本計画推進有識者会議委員』  
『スポ柳都にいがたプラン推進会議委員長』  
『スポーツ施設指定管理者選定委員』  
『新潟市景観アドバイザー』  
『新潟市立高志中等教育学校制服検討委員会委員長』  
『新潟市教育ビジョン推進委員会委員』  
『水と土の芸術祭（仮称）実行委員会委員』  
『新潟市花育推進計画策定委員会委員』  
『新潟市発達障がい者支援体制整備検討委員会委員』  
『就学指導委員会委員』  
『新潟版エッセイガイド作成会議委員』  
『平成20年度県中教研指定研究会指導者（新潟地区英語部）』  
『新潟市中央区体育施設等指定管理者候補者選定委員会委員』  
『（仮称）新潟市子ども読書活動推進計画策定有識者会議委員』  
『就学指導委員会委員』

#### 長岡市

『スポーツ施設指定管理者選定委員会委員』

#### 上越市

『史跡春日山城跡保存管理計画策定委員』

#### 新発田市

新発田市景観アドバイザー

#### 第64回国民体育大会新潟県準備委員会

『競技専門委員会委員』  
『式典運営部会委員』  
『式典音楽部会委員』  
『式典専門委員会副委員長』

#### 文部科学省

『学習指導要領の改善協力者』  
『科学技術・学術審議会臨時委員』  
『先導的教育情報化推進プログラム企画評価委員』

#### 国際大学スポーツ連盟（FISU）理事

#### 国立教育政策研究所

『特定の課題に関する調査協力者』

『研究指定校（教科別指定）に係る企画委員会協力者』

『言語力の向上をめざす生涯にわたる読書教育に関する調査研究 研究協力者』

#### 国立特別支援教育総合研究所

『平成 20 年度基幹研究 研究協力者』

#### 環境省

『平成 19 年度酸性雨対策検討会（生態影響分科会）検討員』

#### 北陸地方整備局

『信濃川水系学識者会議委員』

#### 日本学術会議

『日本学術会議連携会員』

#### 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所

『連携研究員』

#### (独) 日本学術振興会

『科学研究費委員会委員』

『質の高い大学教育等推進事業委員会専門委員』

#### (独) 日本学生支援機構

『新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（ハローレディー）』

#### (社) にいがた緑の百年物語緑化推進委員会

『推進委員会委員』

#### (財) 新潟県環境保全事業団

『酸性雨問題啓発委員会委員』

#### (財) 高輝度光科学研究センター

『Spring 8 戦略活用プログラム課題選定委員会 戦略活用産業利用分科会レフェリー』

#### (財) 日本学校保健会

『「学校保健の動向」編集委員会委員』

#### (財) 日本環境衛生センター

『EANET 陸水技術マニュアル改訂のための専門家グループ委員』

『国内データ検証グループ委員』

『平成 20 年度生態影響解析ワーキンググループ検討委員』

**阿賀野市社会福祉協議会**

『こどものことばとこころの相談室 学童部・幼児部 スーパーバイザー』

**(株)新潟日報社**

『第43回新潟県音楽コンクール予選審査会審査員』

『いきいきわくわく科学賞2008 審査委員』

**東日本高速道路(株)**

『新潟ハイウェイ懇談会委員』

**青少年のための科学の祭典**

『運営幹事会幹事』

## 6 国際交流

### 6. 1 「日中教育フォーラム in 北京」の共催

2008年4月26日・27日に、北京師範大学教育学院で「日中教育フォーラム in 北京」が開催されました。昨年新潟大学で開催した「日中教育フォーラム in 新潟」の北京版で、北京師範大学と新潟大学の共催です。テーマは、「日中子供教育と教師教育」で、大学教育についての討議を中心に附属学校の特色、保護者会の比較等の話し合いを行い、大きな成果を上げました。特に全体会・分科会という会構成で、大学教員、初等中等学校教員・保護者が一堂に会して、日本と中国で討論会を行うという試みは、両国においても初めての企画であり、今後の大学間における教育・研究交流に大きな可能性を示した試みであったと評価できます。日本側参加は、教育学部教員・附属新潟小学校教員ならびに保護者会・附属長岡校園教員・新潟市小学校校長会、中国側参加は、北京師範大学教育学院・北京師範大学珠海校・北京師範大学附属実験小学校・附属南奥実験学校・北京市教育委員会ほか北京市内教員で、参加数は200人を超えた大きなフォーラムでした。

### 6. 2 北京師範大学珠海分校教育学院との学部間交流協定締結と、北京師範大学珠海分校ならびに北京聯合大学国際交流学院との「学生交流に関する覚書」の締結

2008年7月に、北京師範大学珠海分校教育学院と学部間交流協定ならびに「学生交流に関する覚書」を締結しました。6月には北京聯合大学国際交流学院とも「学生交流に関する覚書」を締結しました。「学生交流に関する覚書」の締結によって、本学部から北京師範大学珠海分校（締結時には年間2名だったが、2009年度からは5名）と北京聯合大学（年間2名）に留学する際には、入学金ならびに授業料を免除されます。留学を考える学生にとっては大きなチャンスです。是非積極的に活用してもらいたいと考えています。

今年度は北京聯合大学旅游学院から交換留学生1名が2008年10月に来潟。6ヶ月間の日本語・日本文化研修を受けました。教育学部の学生とも積極的に交流し、新潟が大好きになって帰国しました。北京師範大学珠海分校からは4月から2名の学生が、それぞれ半年の予定で本学部に留学してきます。

本学部からは学生1名が、2009年2月から半年の期限で北京聯合大学に留学しました。北京師範大学珠海分校にも1名の学生が1年間の予定で留学。2009年2月に出発しました。どちらも元気で頑張っています。

### 6. 3 学部教育の国際化事業

学習社会ネットワーク課程の国際交流の取組「多文化共生マインド育成プロジェクト；アジア視点に立つ大学教育改革プログラム」が、文部科学省の「平成 20 年度大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援）（交流プログラム開発型）」に採択されました。学習社会ネットワーク課程ではこれまでも中国の大学を訪問して学生交流をする試みを続けてきましたが、今回は学生達による教材作成と授業に取り組みました。

学習社会ネットワーク課程学生に芸術環境創造課程音楽表現コース，学校教育課程（音楽教育専攻）学生も加わって，半年をかけて，日本・新潟の社会・文化を紹介する共通教材（DVD 教材と印刷教材）を英語で作成しました。教材作成と授業の指導は，学部教員に加えて，附属新潟小学校，新潟市教育委員会および新潟市小学校長会，そして北京師範大学珠海分校および附属南奥実験学校の教員が連携して行いました。

2008 年 11 月 25 日に教育学部学生 25 名が教員の引率のもとで訪中。26 日には教材を使って 700 名の中国の北京師範大学珠海分校学生の前で授業をし，それに基づいた討論が熱心に行われました。授業と討論の様子はインターネットで中継され，教材作成に参加した十数名の学生が日本で視聴しました。討論の後，日本学生 1 名に中国学生 4～7 名がついて学内・市内を案内する，8 時間にわたる学生交流会もありました。翌日の 27 日に学生達は，北京師範大学南奥実験学校で日本文化紹介の授業も行いました。12 月 22 日には帰国報告会が開かれ，事業の成果が報告されました。

中国教育文化についての理解を深めるため，9 月に北京師範大学珠海分校副学長の呉忠魁教授，同大学教育学院の胡学亮副教授，同大学南奥実験学校の鄭校長による講義が，2009 年 2 月には中国国家教育行政学院の史朝教授と東北師範大学国際比較教育研究所所長の張徳偉教授による講義が，新潟大学で行われました。率直で熱意ある授業に，学生達は熱心に聞き入っていました。

学生による授業評価から，この取組が学生の国際理解，国際交流への意欲，語学習得への意欲を非常に高めたことが明らかになりました。また，中国側学生による授業評価も，日本への理解と日本人への好意，国際交流への意欲が高まったことを示しています。訪中した学生は「去年の何倍も大変だったけど，何倍も充実している（訪中事業参加 2 回めの学生）」「中国の学生と多く語り，交流し合う機会が持てたことが嬉しい。顔と顔をあわせた，直の交流の大切さが分かった（初めて参加した学生）」「中国の学生は意識が高い。学習意欲の高さがすごかった（初めて参加した学生）」など，全員が国際交流から大きな成果を得たことを報告しています。

4 名の学外評価委員（2 名は日本，2 名は中国の研究者）と 1 名の学内評価委員の全員が，「目標を上回って達成」と事業評価しました。11 月の事業を見た学外評価委員から「学生中心が徹底している点が素晴らしいと思う」というコメントを得ましたが，堂々とそして生き生きと発表・発言・交流している学生達の姿が，とても印象的でした。

## 6. 4 学術交流（研究者の派遣・受入れ）

### ●研究者派遣

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
教授	五十嵐 久人	ベルギー	国際大学スポーツ連盟（FISU）セミナーに出席	2008/4/3	2008/4/7	滞在費：国際スポーツ連盟（FISU） 渡航費：日本オリンピック委員会
教授	長岡 成夫	米国	第7回生命倫理フォーラム「21世紀の進化論」に出席	2008/4/15	2008/4/21	本人負担
教授	五十嵐 久人	スペイン	2013年ユニバーシアード開催都市選考のため評価委員としての調査訪問	2008/4/17	2008/4/22	国際大学スポーツ連盟
准教授	麓 慎一	ロシア	「19世紀後半における露清関係の変容の日本の北東アジア政策」の調査	2008/4/23	2008/5/3	科研費基盤研究B
教授	森田 龍義	中国	「日中教育フォーラム in 北京」に出席	2008/4/25	2008/4/30	学長裁量経費
准教授	相庭 和彦	中国	「日中教育フォーラム in 北京」に出席	2008/4/25	2008/4/30	学長裁量経費
准教授	上石 圭一	中国	「日中教育フォーラム in 北京」に出席	2008/4/25	2008/4/30	学長裁量経費
教授	石坂 妙子	中国	「日中教育フォーラム in 北京」に出席	2008/4/25	2008/4/30	学長裁量経費
教授	伊野 義博	中国	「日中教育フォーラム in 北京」に出席	2008/4/25	2008/4/30	学長裁量経費
教授	大浦 容子	中国	「日中教育フォーラム in 北京」に出席	2008/4/25	2008/4/30	学長裁量経費
准教授	雲 尾 周	中国	「日中教育フォーラム in 北京」に出席	2008/4/25	2008/4/30	学長裁量経費
教授	清水 研作	中国	「日中教育フォーラム in 北京」に出席	2008/4/25	2008/4/30	学長裁量経費
教授	鶴田 一雄	中国	「日中教育フォーラム in 北京」に出席	2008/4/25	2008/4/30	学長裁量経費
教授	五十嵐 久人	韓国	2013年ユニバーシアード開催都市選考のため評価委員としての調査訪問	2008/5/1	2008/5/5	国際大学スポーツ連盟
教授	五十嵐 久人	ロシア	2013年ユニバーシアード開催都市選考のため評価委員としての調査訪問	2008/5/15	2008/5/20	国際大学スポーツ連盟
准教授	有川 宏幸	米国	第34回国際会議に出席	2008/5/22	2008/5/30	基盤教育経費及び基盤研究経費
教授	五十嵐 久人	ベルギー	国際大学スポーツ連盟（FISU）理事会に出席	2008/5/28	2008/6/2	渡航費：日本オリンピック委員会 滞在費：国際大学スポーツ連盟
准教授	佐藤 亮一	ドイツ	第7回合成開口レーダに関する欧州会合で研究発表	2008/5/31	2008/6/8	日本学術振興会
准教授	長谷川 敬三	ドイツ	ハンブルグ大学にて共同研究，研究会出席，他	2008/6/26	2008/9/11	渡航費：科研費基盤研究B

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
教授	五十嵐 尤二	ドイツ	第4回厳密くりこみ群国際会議に出席	2008/6/30	2008/7/9	ハイデルベルグ大学
教授	郷 晃	チェコ共和国	International Horice Sculptural Symposium2008 出席, 彫刻制作, 資料収集, 他	2008/7/1	2008/8/1	滞在費:基盤研究, 基盤教育経費 滞在費:International Horice Sculptural Symposium 主催者
教授	山田 和美	メキシコ	第11回 ICMB 学会発表	2008/7/3	2008/7/11	本人負担
教授	五十嵐 久人	台湾	第7回世界学生アーチェリー選手権大会の運営, 他	2008/7/4	2008/7/11	Tainan County 組織委員会
教授	森田 龍義	中国	北京師範大学珠海分校との学部間交流協定締結のため	2008/7/4	2008/7/7	一般管理経費
准教授	相庭 和彦	中国	北京師範大学珠海分校教育学院との単位互換制度導入の打ち合わせ会議出席	2008/7/4	2008/7/7	大学改革推進等補助金
教授	石坂 妙子	中国	北京師範大学珠海分校教育学院との単位互換制度導入の打ち合わせ会議出席	2008/7/4	2008/7/7	大学改革推進等補助金
教授	伊野 義博	中国	北京師範大学珠海分校教育学院との単位互換制度導入の打ち合わせ会議出席	2008/7/4	2008/7/7	大学改革推進等補助金
教授	大浦 容子	中国	北京師範大学珠海分校教育学院との単位互換制度導入の打ち合わせ会議出席	2008/7/4	2008/7/7	大学改革推進等補助金
准教授	佐藤 亮一	米国	2008 IEEE AP-S 国際シンポジウムに出席, 他	2008/7/5	2008/7/14	科研費基盤研究 B
准教授	上石 圭一	イタリア	国際法社会学会に出席	2008/7/7	2008/7/15	科研費特定領域研究
教授	福原 晴夫	ブラジル	国際生態学会第8回湿地会議で講演	2008/7/15	2008/7/28	本人負担
准教授	麓 慎一	中国	「19世紀後半における露清関係の変容の日本の北東アジア政策」の調査	2008/7/20	2008/7/27	科研費基盤研究 B
教授	大浦 容子	中国	学外評価委員への事業説明と授業評価項目打ち合わせ会議出席	2008/7/21	2008/7/23	大学改革推進等補助金
准教授	相庭 和彦	中国	学外評価委員への事業説明と授業評価項目打ち合わせ会議出席	2008/7/21	2008/7/23	大学改革推進等補助金
教授	石坂 妙子	中国	学外評価委員への事業説明と授業評価項目打ち合わせ会議出席	2008/7/21	2008/7/23	大学改革推進等補助金
准教授	雲 尾 周	中国	学外評価委員への事業説明と授業評価項目打ち合わせ会議出席	2008/7/21	2008/7/23	大学改革推進等補助金
准教授	山口 智子	スイス	国際家政学会 (IFHE Jubilee-World Congress 2008) に出席	2008/7/23	2008/8/3	科研費基盤研究 B
教授	小谷 スミ子	スイス	第21回国際家政学会 IFHE100周年記念世界大会で研究発表	2008/7/24	2008/8/2	本人負担
准教授	中村 文隆	ドイツ・イギリス	国際会議「Early Phase of Star Formation 2008」で講演, 他	2008/7/24	2008/8/12	科研費基盤研究 C

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
准教授	杉村桃子	スイス	International Federation for Home Economics 100周年記念スイス大会2008に出席	2008/7/27	2008/8/3	本人負担
教授	滝澤かほる	フィンランド	第7回国際教員養成セミナーの出席, 他	2008/8/2	2008/8/10	本人負担
教授	鈴木賢治	米国	第8回残留応用力に関する国際会議で講演	2008/8/4	2008/8/10	受託研究費
准教授	成田圭一	連合王国	ロンドン大学夏期音声学講座に参加	2008/8/9	2008/8/29	本人負担
教授	長岡成夫	エストニア・オランダ・スイス	ヨーロッパ医学・医療哲学学会第22回大会に参加, 他	2008/8/17	2008/9/10	本人負担
准教授	笠井直美	タイ・ミャンマー連邦	タイ国における自動・青少年の性・AIDS及び薬物乱用問題の要因分析と予防教育開発	2008/8/18	2008/9/3	科研費基盤研究B
准教授	山口智子	インドネシア	インドネシア・ジャワ島およびバリ島における植物性食材の現地調査	2008/8/21	2008/8/27	科研費基盤研究B
准教授	牛山幸彦	韓国	2008韓国・日本大学生卓球交流戦のため	2008/8/25	2008/8/29	日本学生卓球連盟
教授	生田孝至	スウェーデン	2008年ECER(ヨーロッパ教育学会)で発表, 他	2008/9/5	2008/9/14	科研費基盤研究B
教授	小谷スミ子	米国	第5回高圧力生物科学生物工業国際会議HPBB2008にて研究発表	2008/9/14	2008/9/22	本人負担
准教授	麓慎一	ロシア	「露米会社の極東経営と北方世界」の調査	2008/9/14	2008/9/29	科研費萌芽研究
教授	松井賢二	イギリス・イタリア	The 12th International Conference of EAJIS (European Association for Japanese Studies, ヨーロッパ日本研究協会国際会議)における共同発表, 他	2008/9/17	2008/9/25	科研費基盤研究C, 他
准教授	興治文子	韓国	国際会議 Woman in Physics に出席	2008/10/8	2008/10/11	学長裁量経費
准教授	相庭和彦	韓国・中国	科学研究費の調査・資料収集	2008/10/10	2008/10/14	科研費基盤研究B
教授	五十嵐久人	セルビア共和国	国際大学スポーツ連盟(FISU)理事会出席	2008/10/14	2008/10/20	渡航費:日本オリンピック委員会 滞在費:国際大学スポーツ連盟
准教授	相庭和彦	中国	交換留学生への指導と教育についての打ち合わせ	2008/10/17	2008/10/20	国際センター共通経費
教授	石坂妙子	中国	交換留学生への指導と教育についての打ち合わせ	2008/10/17	2008/10/20	基盤教育経費, 他
教授	大浦容子	中国	交換留学生への指導と教育についての打ち合わせ	2008/10/17	2008/10/20	基盤教育経費
准教授	佐藤亮一	台湾	2008 アンテナ及び伝播に関する国際会議(ISAP2008)で発表, 他	2008/10/26	2008/10/31	科研費基盤研究C, 他



職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
准教授	丹 治 嘉 彦	フランス・ベルギー	ナント美術大学との交流打ち合わせ及びバリ、ベルギーの美術館の見学	2008/11/13	2008/11/20	基盤教育経費、他
教授	近 藤 フヂエ	フランス・ベルギー	ナント美術大学との交流打ち合わせ及びバリ、ベルギーの美術館の見学	2008/11/13	2008/11/20	基盤教育経費、他
准教授	柳 田 多 美	米国	国際トラウマ学会 2008 年度大会で発表、他	2008/11/13	2008/11/17	本人負担
准教授	麓 慎 一	韓国	漢陽大学での学会発表、他 近代日韓関係史の史跡調査	2008/11/13	2008/11/17	科研費基盤研究 B、他
教授	石 坂 妙 子	中国	GP 事業の実施	2008/11/24	2008/11/30	大学改革推進等補助金
教授	大 浦 容 子	中国	GP 事業の実施	2008/11/24	2008/11/30	大学改革推進等補助金
教授	鶴 田 一 雄	中国	交換留学生への指導と教育についての打ち合わせ	2008/11/24	2008/11/30	大学改革推進等補助金
准教授	相 庭 和 彦	中国	GP 事業の実施	2008/11/23	2008/11/30	大学改革推進等補助金
准教授	上 石 圭 一	中国	GP 事業の実施	2008/11/24	2008/11/30	大学改革推進等補助金
教授	伊 野 義 博	中国	GP 事業の実施	2008/11/24	2008/11/28	大学改革推進等補助金
准教授	雲 尾 周	中国	GP 事業の実施	2008/11/24	2008/11/30	大学改革推進等補助金
教授	五十嵐 由利子	韓国	第 32 回人間－生活環境シンポジウムに出席、他	2008/11/27	2008/11/30	本人負担
教授	生 田 孝 至	米国	ハワイ大学教育学部教師教育センターにて研究ヒアリング、他	2008/11/30	2008/12/5	科研費基盤研究 B
准教授	丹 治 嘉 彦	ロンドン	大英博物館とリヴァプール博物館における佐渡金山等の研究調査	2008/11/30	2008/12/5	学長裁量経費（旭町学術資料展示館）
准教授	足 立 幸 子	米国	第 58 回米国読書学会（National Reading Conference）出席	2008/12/2	2008/12/8	科研費若手 B
准教授	麓 慎 一	ロシア	「環東アジア地域におけるネットワーク群の展開と構造に関する実証的研究」の調査	2008/12/8	2008/12/12	プロジェクト推進経費（代表者：関尾史郎）
教授	宮 蘭 衛	韓国	判決書を活用した人権教育に関する日韓授業研究の打ち合わせ、他	2008/12/9	2008/12/11	科研費基盤研究 C
准教授	上 石 圭 一	台湾	法律の熟達化の調査	2008/12/15	2008/12/19	学長裁量経費
准教授	小 野 映 介	ラオス	「ラオスから発信する自然資源食料利用とその未来可能性」に関わる調査	2008/12/20	2008/12/27	立教大学：野中健一 トヨタ財団助成金
准教授	足 立 幸 子	米国	アメリカ学校図書館・大学図書館・公立図書館の研究視察	2009/1/4	2009/1/11	科研費基盤研究 B

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
教授	長岡成夫	オランダ	生命倫理学の研究のため	2009/1/5	2009/4/1	エラムス・ムンドゥス生命倫理修士プログラム
教授	鶴田一雄	中国	科研費研究課題による見学・調査	2009/1/19	2009/1/26	科研費基盤研究 A
教授	横坂康彦	米国	ニューヨーク州立大学フレドニア校との大学間交流、他	2009/2/5	2009/2/13	基盤教育経費
准教授	田中幸治	米国	ニューヨーク州立大学フレドニア校との大学間交流、他	2009/2/5	2009/2/13	基盤教育経費
准教授	麓慎一	ロシア	「露米会社の極東経営と北方世界」の調査	2009/2/11	2009/2/21	科研費萌芽研究
教授	五十嵐久人	中国	第24回ユニバーシアード冬季競技大会及び国際大学スポーツ連盟(FISU) 関連業務	2009/2/11	2009/2/23	渡航費:日本オリンピック委員会 滞在費:国際大学スポーツ連盟
准教授	小野映介	カンボジア王国	東南アジアの気候と河川・湖沼環境に関する調査	2009/3/1	2009/3/8	科研費基盤研究 A
准教授	足立幸子	米国	SITE (Society for Information Technology & Teacher Education) への出席	2009/3/1	2009/3/6	本人負担
准教授	相庭和彦	中国	北京師範大学珠海分校教育学院と次年度の交流事業の打ち合わせ	2009/3/6	2009/3/10	大学改革推進等補助金
教授	石坂妙子	中国	北京師範大学珠海分校教育学院と次年度の交流事業の打ち合わせ	2009/3/6	2009/3/10	大学改革推進等補助金
教授	大浦容子	中国	北京師範大学珠海分校教育学院と次年度の交流事業の打ち合わせ	2009/3/6	2009/3/10	大学改革推進等補助金
准教授	雲尾周	中国	北京師範大学珠海分校教育学院と次年度の交流事業の打ち合わせ	2009/3/6	2009/3/10	大学改革推進等補助金
准教授	麓慎一	米国	「19世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策」の調査	2009/3/9	2009/3/19	科研費基盤研究 B
准教授	世取山洋介	米国	アメリカ教育財政学会に参加、他	2009/3/18	2009/3/27	大阪大学科学研究費

## 7 附属施設の活動

### 7. 1 附属新潟小学校

#### (1) 特色ある活動

##### ① 初等教育研究の推進

附属新潟小学校では、初等教育全般にわたり、その理論と実践について研究を深めている。さらに、複式学級における学習指導の在り方を研究している。

今年度は研究主題「子どもが学ぶことに価値を見いだす教育課程の編成 - 2年次研究 -」の下で、指定研究授業（17回）、拡大部内研究授業や中間検討会における授業公開、初等教育研究会における授業公開等、授業公開及びその前後における学習指導案検討、授業協議会を含めた教育研究を全教科等について推進している。その成果は、全国各地から1,500名程の参加者が集う2月開催の初等教育研究会において、また、「研究紀要 第66集 子どもが学ぶことに価値を見いだす教育課程の編成」（年1回発行）、研究ブックレット「学習スキル」、研究誌「授業の研究（F・ねっと）」（年3回発行）において公表し、地域をはじめ県内外の多くの学校に還元している。



かかわりながら考えを深める児童



学習スキルを直接指導する

##### ② 教育実習生の受け入れと指導

新潟大学教育学部学生の教育実習を指導し、次代を担う教育者の育成を行うことも当校の使命の一つである。今年度の受け入れは次のとおりであった。

- a. 入門教育実習（1年生13名、6月～10月）
- b. 観察参加実習（2年生67名、9月8日～12日）
- c. 春期教育実習（3・4年生と別科生26名）
- d. 秋期教育実習（3・4年生、別科生、県短大、44名）
- e. 研究的教育実習（3年生10名・4年生4名）
- f. 学校インターンシップ（院生4名、11月～3月）

##### ③ 文部科学省研究指定校としての取組

平成20年度から指定を受け、本年度は指定2年目にあたる。研究開発課題は「『学習スキルの時間』を新設した9カ年指導プログラムとしての教育課程と指導方法の研究開発」である。年度末には、研究開発実施報告書並びに資料を製作し、関係諸機関、県内各校に配布し成果を広く伝えている。

##### ④ 新潟小学校・新潟中学校・特別支援学校三校の教育理念に基づく取組

新潟地区附属三校では「知を求め共生の心をもつ創造性豊かな子どもの育成」を共通の教育理念として掲げ、「軽度発達障害児教育研究班」「附属新潟小・中学校教育課程研究班」「附属養護学校教育

課程研究班」「異文化交流研究班」の四つの研究班を発足させ、学部教員と連携を深めながら活動を展開している。当校における本年度の主な取組は以下のとおりである。

**a. 小中9か年を見通した教育活動**

・子どもの学びを支える方法や技能を「学習スキル」としてとらえ、各学年の発達段階に応じた学年別系統一覧表を作成し、それに基づく指導、評価、改善を実施。

**b. 小学校・中学校・特別支援学校の交流活動**

- ・ペアシステムによる小学校低・中学年複式学級と特別支援学校小学部との交流活動 全12時間。
- ・運動会におけるダンスの交流、展覧会での特別支援学校作品の展示。
- ・小学校「附属ミュージックステーション（音楽会）」での中学校1年生の合唱発表（11月28日）

**c. 異文化交流活動**

・総合的な学習の時間を活用し、新潟大学留学生や地域における外国の方との交流を行い、外国の文化や考え方等についての理解を深めた。

**⑤ 食に関する指導等、健康教育に関する取組**

- ・体育や特別活動等の時間、給食の時間等を活用し、栄養教諭による食に関する指導を実施した。
- ・児童の生活実態調査結果を踏まえて、学校保健委員会において取組について検討を行った。
- ・健康教育の組織的な推進の在り方について、初等教育研究会においてその理論と具体とを示した。

**⑥ 学びを生かした児童の主な活躍**

- ・「第53回青少年読書感想文コンクール」優秀賞・優良賞
- ・「新潟市児童・生徒科学研究発表会」優良賞

**⑦ その他**

- ・当校教員の学部授業への参加 5名延べ6回
- ・県内外公立学校及び研究団体への職員派遣：8名延べ17回
- ・教員研修の受け入れ：初任者研修2回
- ・学校評議員会の開催：第1回5月29日、第2回11月26日、第3回3月5日

**(2) 研究会、講演会の開催**

**① 平成20年度附属新潟小学校中間検討会**

- a. 日時 2007年10月3日（金）
- b. 会場 附属新潟小学校
- c. テーマ 「子どもが学ぶことに価値を見いだす教育課程の編成 - 2年次研究 -」
- d. 内容 公開授業・全体会（研究全体概要の説明等）・分科会（個人研究の説明、協議、指導等）
- e. 参加者 学部教員、県・市教育委員会指導主事、県内の市内公立校校長・教頭・教諭 約70名

**② 平成20年度初等教育研究会**

- a. 日時 2009年2月5日（木）・6日（金）
- b. 会場 附属新潟小学校
- c. テーマ 「子どもが学ぶことに価値を見いだす教育課程の編成 - 2年次研究 -」
- d. 内容 CCT・公開授業・全体会・授業協議会・フォーラム・講演  
講演：田中 博之（大阪教育大学教授） 演題：言葉の力を育てるこれからの授業づくり
- e. 参加者 学部教員、県・市教育委員会指導主事、県内・県外の教員等、合計約1,500名

### (3) 研究報告等

#### ① 紀要・研究誌

- a. 『研究紀要 第66集 子どもが学ぶことに価値を見いだす教育課程の編成』（年1回発行）
- b. 『授業の研究（F・ねっと）』（第170号，第171号，第172号：年3回発行）
  - ・特集「新しい教育課程の創造 ～習得・活用の授業づくりと学級力～」

#### ② 教員の著書・論文・研究発表

- ・山田浩之，中原広司，新田見 誠『言語技術教育』誌 2009年2月 明治図書
- ・平山 誠，榎根 浩「国語&算数がグーンと伸びる基幹学力の授業」2009年2月 明治図書
- ・榎根 浩「活用力が育つ『算数的活動』1年，2年」2008年8月 東洋館
- ・大井 隆，若狭陽一「授業クリニック理科」（4年）学事出版 2009年3月
- ・大井 隆「活用型の理科授業」図書文化 2009年2月
- ・羽田雄偉「子どもの見方や考え方を変容させて係活動の充実を図る」『心を育てる学級経営』誌 2009年6月号 明治図書
- ・萩野真美「知っておきたい新潟県の歴史～女性の視点から描く新潟の未来～」新潟日報社
- ・磯部征尊「小学校技術教育の評価基準の開発とスタンダード準拠評価の実践」平成19年度科学研究費補助金研究成果報告書 2008年5月

## 7. 2 附属新潟中学校

### (1) 特色ある教育活動

#### ① 新潟地区附属三校総括目標を具現化するための取組

##### a. 実践研究『未来を拓く「学ぶ力」を育む授業』の推進

昨年度より、これからの社会をたくましく生き抜くために必要な「学ぶ力」を明らかにし、その「学ぶ力」を育むための手だてを検証していく実践研究に取り組んでいる。2年次研究としては、全教科で用いた「学ぶ力」を発揮させる手だてを集約し、その要件を明らかにした。

また、生徒が自ら「学ぶ力」を方略として用いるための要件を明らかにした。



##### b. 文部科学省研究開発指定研究「小・中9か年を見通した学習スキルの形成」の推進

附属新潟小学校で行っている「学習スキル」を基にして、当校では「思考スキル」に焦点を当てて実践研究を行っている。本年度は、1年生において年間35時間の「学習スキルの時間」を特設して、系統的に指導を進めた。そして、「学習スキルの時間」で扱ったスキルと、各教科で発揮を促している「学ぶ力」の整理し融合させる方向で研究を進めている。これにより、各教科においても、「学習スキル」の活用を促すことで、学力の向上を目指している。

##### c. 実践研究「国際学力の向上を目指した授業」の推進

3年生の選択教科にて年間35時間の枠の中で、PISA型「読解力」の調査で明らかになった課題の解決を目指す「国際学力」の時間を展開した。10月22日に当校で開催した「中学校教育研究発表会」では、授業公開とともにフォーラムにおいて「国際学力の向上を目指した授業」の取り組みと成果の一端を公表した。

##### d. 交流活動の推進

###### ア. 中学校1年生と附属特別支援学校中等部生徒とのペアシステムによる交流活動

昨年度に引き続き、「発表会を成功させよう」という共通の目的をもって、一緒に音楽を演奏したり、踊りを作り上げたりする活動を行った。

###### イ. 中学2年生の「沖縄の旅」における交流活動

平成21年2月3日（火）～6日（金）に実施した2年生「沖縄の旅」では、昨年度に引き続き民泊を取り入れた。これによって、生徒は、実際の沖縄での家庭生活を体験したり、家業の手伝いをしたりする中で、互いの文化の違いやよさを実感していくことができた。

#### ② 学部と連動した活動

##### a. 学校インターンシップの受け入れ

社会科、数学科の大学院生による学校インターンシップを受け入れ、実際の教育活動や学習活動に携わった。

##### b. 学部教員および学生との共同研究

ア. 国語科において受け入れ、授業研究を行った。

イ. 数学科においては、教育実習と学部講義「数学科教育法Ⅳ」を連動させて、研究教育実習にかかわる指導法の開発・実践を行った。

##### c. 研究会等における学部教員との連携の強化

ア. 授業研究会では、11名の学部教員の方々から指導をいただいた。

イ. 中学校研究発表会では、協議会において、11名の学部教員の方々から指導をいただいた。

ウ. 冬の研究発表会では、協議会において、4名の学部教員の方々から指導をいただくとともに、1名の学部教員から協議会への参加をいただいた。

**d. PISA 型学力向上に向けた学部との共同研究**

11月に3年生を対象として、PISA 調査を行い、その結果を分析し、PISA 型学力の向上に向けた研究を学部と連携して実施した。

- ③ 危機管理に関する活動（小中合同避難訓練の実施）・・・丸山先生が記述（たぶん修正不要です）  
附属新潟小学校と校舎が棟続きであることから、不審者が侵入した際の通報と安全確保の訓練を合同で実施した。

**(2) 教育実習**

① 期日, 受入人数

- |            |                    |              |
|------------|--------------------|--------------|
| a. 春期教育実習  | 6月9日（月）～20日（金）     | 23人（うち母校実習1） |
| b. 2年次観察実習 | 9月8日（月）～12日（金）     | 109人         |
| c. 秋期教育実習  | 10月27日（月）～11月7日（金） | 27人（うち母校実習1） |
| d. 1年次入門実習 | 年間3回合計3日間          | 9人           |

② 特色ある実習内容

- a. 春期教育実習, 秋期教育実習において、道徳の指導案を作成し、学級ごとに検討・修正したものを基に授業を行った。
- b. 2年次観察実習において、同一敷地内にある小学校を参観する機会をもった。

**(3) 研究会, 講演会等の実施**

① 授業研究会（会場 附属新潟中学校）（テーマ『未来を拓く「学ぶ力」を育む授業』）

- a. 5月～7月（各教科で日時を設定）全必修教科で授業研究を行った。全教科とも、学部教員や行政関係者が参観した。また、すべての教科において、公立校の教員も授業を参観し、協議会にも参加した。
- b. 10月3日（金）国語, 社会, 数学, 保健体育, 技術・家庭, 英語の各教科ごとに、学部教員や行政関係者, 公立校の教員とともに、中学校研究発表会に向けて授業案の検討を行った。
- c. 1月（各教科で日時を設定）数学, 音楽, 美術, 英語の各教科ごとに、学部教員や行政関係者, 公立校の教員とともに、冬の研究発表会に向けて授業案の検討を行った。

② 平成20年度中学校研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「未来を拓く『学ぶ力』を育む授業』）

- a. 期日 10月22日（水）
- b. 内容 授業公開（国語, 社会, 数学, 理科, 保健体育, 技術・家庭, 英語, 学習スキル, 国際学力）, 授業協議会, フォーラ『これからの学校教育が子どもにつけていく「力」とは』
- c. フォーラム提案者 宮崎活志（文部科学省）, 齋藤勉（新潟大学）, 足立幸子（新潟大学）
- d. 参会者 学部教員, 市教育委員会指導主事, 県内外教員, 学生 他 合計429人

③ 平成20年度冬の研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「未来を拓く『学ぶ力』を育む授業』）

- a. 期日 1月30日（金）
- b. 内容 授業公開（国語, 数学, 音楽, 美術, 英語, 学習スキル, キャリア教育）, 授業協議会, 講演会
- c. 講演会講師 森嶋昭伸（文部科学省）, 有元秀文（国立教育政策研究所）, 磯田正美（筑波大学）, 齋藤勉（新潟大学）

d. 参会者 学部教員, 市教育委員会指導主事, 県内外教員, 学生 他 合計 285 人

④ その他

a. 初任者研修授業研修協力校

ア. 期 日 6月3日(火) 9月30日(火)

イ. 参加者 下越教育事務所管内初任者 小学校10人, 中学校8人  
下越教育事務所指導主事, 当校職員

ウ. 内 容 授業公開(各教科), 研究協議, 講話, 演習

b. 学校視察の受け入れ

静岡県富士宮市立大富士中学校 (1月30日)

(4) 研究報告等

① 研究誌

a. 研究紀要 未来を拓く「学ぶ力」を育む授業(2年次) 公開授業案 (10月22日発行)

b. 研究誌 冬の研究発表会 公開授業案 (1月30日発行)

c. 平成20年度研究開発実施報告書 (3月発行)

② 主な職員の著作・論文・研究発表等 <2008年4月～2009年3月>

- ・ 金山光宏 日本数学教育学会主催「算数・数学教育を考える会新潟大会」にて授業公開  
実践提供「問題づくりの授業(中学1年)」教育学部 数学科教育法Ⅰ  
数学科校内研修指導「図形と証明(中学2年)」胎内市立乙中学校
- ・ 丸山明生 実践提供「国際学力の授業」長岡市立堤岡中学校
- ・ 中村雅芳 「中学校 コミュニケーションを円滑にするエクササイズ集 こう見えても私は…」  
『エンカウンター学級づくりテキスト No. 6』2008. 9 明治図書  
「古典教材を用いてPISA型『読解力』を高める一本歌取りについて考えよう(3年)  
の実践から」『三省堂国語教育 ことばの学び 第17号』2008. 10 三省堂
- ・ 稲生一徳 下越美術教育研究会 夏季実技研修会主催
- ・ 山本達也 新潟大学大学院インターンシップ受入で学部と連携
- ・ 渡部智和 「数学の本質に目が向く授業=生徒が楽しく学ぶ授業」『数学教育4月号2008』明治  
図書  
新潟大学大学院インターンシップ受入で学部と連携
- ・ 大岩樹生 実践提供「学習スキルの授業」長岡市立堤岡中学校



## 7. 3 附属特別支援学校

### 1 特色ある活動

#### (1) 連携・交流活動

##### 【新潟地区附属三校交流活動】

- ・附属新潟小学校ミュージアム作品参加（行事交流）
- ・運動会・・・附属新潟小学校と競技を通しての交流（行事交流）
- ・ペアシステムによる授業交流：小学部3～6年生児童と附属新潟小学校中学年複式学級児童，中学部生徒と附属新潟中学校1年生生徒（授業交流）
- ・小学部1～2年生児童と附属新潟小学校低学年複式学級児童との授業交流（授業交流）

##### 【発達障害児教育】

- ・新潟地区附属三校と学部との連携による研究班会議の運営
- ・学部教官研究室の関係者との事例検討会の実施

##### 【学部との連携活動】

- ・当校教員が講師として学部講義への参加；教育実習事前指導7回，延べ7人
- ・学生ボランティアの登録；登録56人
- ・行事等の学生ボランティアの参加；運動会25人，特別支援教育研究会43人  
すなやま祭26人，学部・学級行事28人

##### 【地域との連携・交流活動】

- ・第4回新潟県養護学校スポーツ大会参加（中・高等部）
- ・全国障害者スポーツ大会大分大会出場（高等部男子生徒二人）
- ・医学祭作品展示
- ・健康福祉まつりでの作業製品販売

##### 【卒業生との交流活動】

- ・第1回すなやま会（同窓会）の開催。高等部行事「卒業生を囲む会」を併せて設定（5月11日開催，高等部生徒28人，卒業生50人，卒業生保護者9人，旧職員7人，現職員14人，学生ボランティア6人参加）
- ・第2回すなやま会の開催。学校行事「すなやま祭」開催日に併せて設定（11月22日開催，卒業生39人，卒業生保護者6人，学生ボランティア26人参加）
- ・第3回すなやま会（2月1日開催，卒業生47人，卒業生保護者7人，学生ボランティア4人参加）

##### 【新潟市との連携】

- ・放課後支援事業ぽっぷコーンクラブ（すなやまの家を会場に提供）；延べ約2,000人利用

#### (2) 特別支援教育のセンターとしての地域貢献

##### 【特別支援教室の開設】

- ・特別支援教室；新潟市内中学生15人週1回定期支援
- ・教育相談多数

##### 【教育相談・支援活動】

- 研究会・研修会講師等
- ・新発田市立紫雲寺小学校等（計2校）校内研修会講師；中野 祐子
- ・新潟市立木戸小学校等（計10校）校内研修会講師；能登 宏

- ・新潟市小学校教育研究会特別支援教育部研修講師；水谷 武

### (3) 実習生・研修生の受け入れ

#### 【学部】

- ・入門教育実習生の受入；1年生11人（5月24日，6月26日，9月10日）
- ・教育実習生の受入（春期；17人 秋期；23人）
- ・養護教諭特別科1日観察参加実習；47人（12月5日）
- ・介護等体験生の受入（年間10回，合計300人）
- ・インターンシップの受入5人
- ・内地留学生参観実習の受入4人
- ・卒業論文協力1人

#### 【新潟県】

- ・教員研修の受入 初任者研修学校参観（年間1回 合計17人）

### (4) 学校行事等

#### 【学校行事】

- ・運動会
- ・学習発表会，鑑賞教室
- ・現場実習等（高等部；時期や個人に応じて年間を通して設定， 中学部；1～3日間）
- ・校内宿泊学習（全学部実施「すなやまの家」に宿泊）
- ・校外宿泊学習（中学部；胎内市方面， 高等部；新発田市方面他）
- ・親子サマーレクリエーション（小学部P T A）
- ・もちつき大会（中学部P T A）
- ・スキー・そり教室（全学部）
- ・卒業生を送る会（全学部）

#### 【P T A保護者関係】

- ・新潟地区特別支援学校知的障害教育校4校P T A懇談会参加
- ・全附連P T A連合会総会参加
- ・全附北信越地区研修会新潟大会特別支援学校部会参加
- ・附属新潟3校学校保健委員会参加

#### 【学校評議員会】

- ・学校評議員会の開催 年間3回

## 2 研究会，公開講座の開催

### (1) 研究会

- ・第31回特別支援教育研究会（10月24日開催）  
研究主題；確かな社会参加を実現するための連携を生かした授業づくり（第2年次）  
参加者数；352名

### (2) 公開講座

- ・第1回公開講座；3日にわたり3回（6月2日，6月16日，7月14日）開催  
テーマ；「新潟大学方式 親のスキル訓練」

- 講師；教育学部障害児教育講座 長澤 正樹 准教授, 参加者数；50 人
- ・第2回公開講座；6月21日開催
- テーマ；「発達障害のある児童生徒に対して学校がどう取り組むか」  
～ソーシャルスキルとライフスキル～
- 講師；明星大学 小貫 悟 准教授, 参加者数；150 人

### 3 研究報告等

#### (1) 研究会開催にかかわる実践発表

- ・研究紀要 第31集「確かな社会参加を実現するための連携を生かした授業づくり（第2年次）」

#### (2) 執筆依頼等に応じた実践発表（書籍の出版）

- ・能登 宏「発達障害通級指導教室の指導・支援法」明治図書出版

## 7. 4 附属長岡小学校

### (1) 特色ある活動

#### ① 初等教育研究の推進

「生きて働く力としての新たな概念、認識、価値観を創りあげる子ども」の姿を求め、「創造的な知性を培う」第2次研究・第2年次研究を推進した。

平成23年度の新学習指導要領完全実施を控え、「確かな学力」をはぐくむため、「習得」や「活用」と「探求」を関連づけて指導するカリキュラム編成と授業改善が課題となっている。こうした教育界の動向も踏まえ、「創造的な知性を培う」第2次研究・第2年次研究を進めてきた。その内容は、「学習内容の核に対する見方をとらえ直す更新」と「更新された見方をもとに、知識・技能を整理したり関係づけたりする再構成」を図る学びを通して、「納得のいくわかり」にまで高めるカリキュラムの編成と授業の改善である。

カリキュラム改善については、「生きて働く力」に向かう中心となる資質・能力を幼小中の段階制を踏まえて設定すること、授業改善については、学習過程の見直しと更新・再構成を図る学びを具現する働きかけの要件を明らかにすることを課題として研究を進め、10月の研究協議会で発表した。

#### ② 教育実習生の受け入れと指導

- a. 入門教育実習（1年生 12名 6月26日～6月27日）
- b. 観察参加実習（2年生 53名 9月7日～9月12日）
- c. 春期教育実習（3・4年生及び別科生 31名 6月9日～6月20日）
- d. 秋期教育実習（3・4年生及び別科生 27名 10月27日～11月7日）

#### ③ 連携理念に基づく教育活動

長岡地区3校園の連携教育活動のシンボリック行事として取り組んできた「幼・小・中合同大運動会」を継続するとともに、火災や地震を想定した合同避難訓練を年1回実施している。こうした行事連携にとどまることなく、日々の教育活動における連携強化も図っている。

- a. 幼稚園との連携……諸行事における園児と児童の交流、  
職員の協力
  - ・幼稚園年長組と小学校1年生の合同授業
  - ・児童会行事等における園児、児童の交流
  - ・昼休みの交流
- b. 中学校との連携……教育課程に位置づけた教員の授業  
交流
  - 小学校教員→中学校の理科を担当
  - 中学校教員→小学校の社会科を担当



幼稚園の年長児と楽しく交流

#### ④ 大学・学部との連携

- a. 「ようこそ大学の先生」……大学教員による児童向けの授業実践  
3名の大学教員が、延べ5回にわたって授業実践された。（算数、体育）
- b. 教育研究協議会における大学教員の授業公開  
4名の大学教員が、研究会当日、授業公開された。（算数、音楽）
- c. 学部生による指導補助

4, 5, 6年児童が、体育科・滝澤研究室の学生3名から、延べ9回にわたって体操の指導を受け、成果を12月6日の「体操発表会」（主催：新潟県体操研究会 新潟市鳥屋野総合体育館）で披露した。また、5, 6年生のスノースクール（2月）では、体育科・大橋研究室の学生11名から、指導

を受けた。

d. 5年生の親子大学訪問

大学・学部の協力を得て、キャリア教育の一環として実施した。保護者の参加多数（59名83%）。

⑤ 教育機関との連携

a. 県教育委員会との連携

小・中学校の初任者研修協力校として、提案授業及び授業協議会を開催した。

（6月小学校初任者17名，9月中学校初任者7名）

b. 長岡市教育委員会との連携

教育学部と長岡市教育委員会との協定に基づき、市内現職教員の研修を目的とした「教員サポート錬成熟」の事業に、研修指定校として協力した。

（国語科・2回，算数科・1回，道徳・1回 合計4回）

c. 公立学校との連携

長岡市，三条市，小千谷市，十日町市の公立小学校校内研修会に，4名の職員が講師として参加した。

⑥ 食育の推進

食に関する個別的な指導に重点を置くとともに，研究協議会では，家庭科の公開授業に，T. T. で参加した。

a. 食に関する個別的な対応の取組

食への興味を引き出す「パッケンパワーボックス」

（食育に関する質問箱）の運用により，児童をはじめ保護者への個別指導を行った。

b. 授業実践

「どんなふうに着食を食べたらよいか考えよう」

（1年生 学級活動・食育）

「元気がもりもりでる給食のひみつ」

（2年生 学級活動・食育）



学長，学部長の歓迎をいただいた  
大学訪問



T. T. で家庭科の公開授業

(2) 研究会，講演会等の開催

① 平成20年度初等教育研究協議会事前打合せ

a. 日時 2008年9月26日（金）

b. 会場 附属長岡小学校

c. テーマ 「創造的な知性を培う」（第2次研究 第2年次）

d. 内容 全体会（研究全体概要の説明）及び分科会

e. 参加者 指導者，司会者，研究協力者

② 平成20年度初等教育研究協議会

a. 日時 2008年10月17日（金）

b. 会場 附属長岡校園（幼稚園，小学校，中学校）

c. テーマ 「創造的な知性を培う」（第2次研究 第2年次）

d. 内容 全教科等の授業公開，授業協議会および教育講演会

○ 授業 「生きて働く力としての新たな概念，認識，価値観を創りあげる授業」

○ 講演 「選べる講演会」

早稲田大学教授 浅田 匡 氏

「教師としての成長を考える」

京都ノートルダム女子大学教授 加藤 明 氏

「習得・活用・探究のバランスのとれた学力を実現する授業づくり」

白梅学園大学教授 無藤 隆 氏

「幼保小連携をめぐって」

- e. 参加者 県内外の教員，学生，学部教員，県・市町村教育委員会指導主事，当校教員等  
約 500 名（小学校）

### (3) 研究報告等

#### ① 紀要・研究誌等

- a. 『研究紀要 創造的な知性を培う 第2次研究第2年次』（年1回発行）  
b. 『子どもと授業』（年2回発行 発行部数 850 部 購読者数 600 名 ）  
第 61 号 特集「授業を変える！子どもが変わる！新学習指導要領の実践のポイント」  
第 62 号 特集「授業を変える！子どもが変わる！新学習指導要領の実践のポイント」

#### ② 教員の著書・論文・研究発表等

- a. 高橋 喜一郎  
「幼・小・中連携で科学的な思考力を育てる」  
『学力向上実践レポート』2008. 6 教育開発研究所
- b. 佐藤 浩一  
「小学校の『言語文化に親しむ』指導のポイントは何か」  
『基幹学力の授業 国語&算 数』第 11 号 2008. 7 明治図書  
「『自力読みの観点』と『意味マップ』で，自力で読み進める力をつける」  
『基幹学力の 授業 国語&算数』第 12 号 2008. 9 明治図書
- c. 平澤林太郎  
「二次元マトリクスによる仮説の外化と操作に関する研究－小学校6年生「水溶液の性質」の実践から」日本理科学会 理科教育学研究 Vol49. No 2 2008. 11

### (4) その他

#### ① 危機管理に対する活動

- a. 不審者侵入対応避難訓練（5年目）  
職員の対応訓練と児童の避難訓練  
（指導・協力：長岡警察署生活安全係）
- b. 緊急電話連絡・メール配信による児童引渡し訓練
- c. 防犯用携帯ベル支給（新入児童全員）
- d. 水泳授業監視員の配置

#### ② いじめ防止に関する活動

- a. 学部教員との連携による教育相談体制の充実

#### ③ 食に関する指導

- a. 栄養教諭による食育相談の充実

#### ④ PTA 組織の活性化

- a. 父親の参加を促す事業  
「日曜参観」，「附属百年の森整備作業」（父親 90 名参加），「地域懇談会」



大勢の父親が参加した日曜参観

## 7. 5 附属長岡中学校

### (1) 特色ある活動

#### ① 教育研究の推進

##### <第1次研究の推進>

文部科学省の研究開発学校の指定を平成15年度(2003年度)～平成18年度の4年間にわたり、校園で受けた。(18年度は指定延長)平成19, 20年度は現行学習指導要領による教育課程で実施。

研究開発課題は『創造的な知性と自然との共生の心を培う「科学的な感性, 科学的なものの見方・考え方」はぐくむ幼稚園・小学校・中学校の12年間を見通した教育課程の研究開発』である。

また, 目指す子どもの姿を具現していくため, 子どもが「科学的な感性, 科学的なものの見方・考え方」を働かせる学習の様子を整理した。

##### <第2次研究の推進>

第2次研究では, 「生きて働く力としての新たな概念, 認識, 価値観」に向けて資質・能力を連携の柱として, 連携教科・領域グループごとによりカリキュラム改善を進めている。また, 研究主題「創造的な知性を培う」に迫るために, より一層「学習過程」の構造化を進め, 「感性」「科学的なものの見方・考え方」を働かせる「学習過程」の有効性を明らかにしてきた。第2次研究第1年次研究から, 「学習過程」を通して獲得した概念, 認識, 価値観や, はぐくんできた「感性」「科学的なものの見方・考え方」も, その後の学習において用いられる可能性があることが見えてきた。これらが「学習過程」内だけでなく, 他の場面においても用いられるようになることが, 学びを日常の具体的場面に汎用させたり, 他領域と関係付けて考えたりする姿であるととらえることを確認した。第2年次においては, 「学びを汎用的に活用する」生徒の姿を具体的に示し, 「創造的な知性を培う」ことを教科等の学習において具現することを研究の到達目標とした。

<p>■ 研究主題 ☆「創造的な知性を培う」 ～「学び」*の汎用的な活用に迫る教科等における「学習過程」の追究 *「学習過程」において培った思考力(「感性」「科学的なものの見方・考え方」)および, 創りあげた概念, 認識, 価値観</p>
---

#### □ 本年度研究における研究内容

##### (1) 「学び」を汎用的に活用する姿の追究

別の場面で, 「学び」の何が汎用的に活用されるのかを明らかにする。「感性」「科学的なものの見方・考え方」なのか「概念, 認識, 価値観」なのか, あるいはそれらが単独で表れるのか, 複合して現れるのかを教科等で明らかにしていく。

##### (2) 「学び」の汎用的な活用に迫る教科等の「学習過程」の追究

「学び」の汎用的な活用に迫るために, 「学習過程」における各教科等の特性を次の2つの視点から追究する。一つ目は, 教師の4つの働きかけのうち, どこに重点を置けばその教科等の特性を生かし, より強く「感性」「科学的なものの見方・考え方」を働かせることができるかを明らかにする。また, その働きかけをどのように工夫することが, より効果的であるのかを明らかにする。二つ目は, より汎用的な活用の可能性のある概念, 認識, 価値観を創りあげるためには, 教科等の特性に応じて, どのように「学習過程」を位置付け, 在り方を工夫すればよいのかを明らかにする。

#### □ 成果と課題

今年度設定した研究仮説に基づき, 各教科等の実践を通して, 「学び」の汎用的な活用の具

体的な姿を明らかにしてきた。そして、「学習過程」において、「感性」「科学的なものの見方・考え方」を働かせ、概念、認識、価値観を高めた生徒は、そこでの「学び」を別の場面でも汎用的に用いる姿を見せた。

a)「学習過程」を経た「学び」は、教科等における別の場面において用いられることが確認された。特に、課題の関連性や類似性などの条件が整った場面において汎用的に活用される。

b)「学習過程」における4つの働きかけは、概念、認識、価値観を高めるだけでなく、汎用的な活用を引き起こすカギとなる。

今年度研究において、「学習過程」を経た「学び」は別の場面において汎用的に活用されるかを探ってきた。多くの教科等において、「学習過程」を設定した単元と連続した単元での汎用的な活用の場面を設定した。今年度明らかになったことをもとに、今後更にこれまで想定してきた「学び」の汎用的な活用の姿を見直し、汎用的な活用の場面の設定について精緻化する必要がある。

## ② 教育実習生への指導

教育の次代を担う学生への指導は大切な使命の一つである。今年度は下記の通りである。

- a 入門教育実習（1年次 ①10名 7月4日 ②12名 9月29日 ③12名 11月13日）
- b 春期教育実習（3・4年次、別科生、他大学 計23名 6月9日～6月20日）
- c 観察参加実習（2年次 計93名 9月7日～9月12日）
- d 秋期教育実習（3・4年次、別科生、他大学 計29名 10月27日～11月7日）
- e 「学校インターンシップ」受け入れ：「日本と中国 社会科関係授業の比較」11月～2月

## ③ 地域・PTAとの連携

- a 各学年の遠足での協力（5月1日）

1年生は東山ファミリーランド、2年生は越後丘陵公園、3年生は大平森林公園へ保護者も参加。年度始めの学年のまとまりを求めて、学年・学級の親睦やレクリエーションなどを行う。

- b 専門委員会や学年部主催の取組

PTAが主体となって、1学年部「親子レク：コーディネートトレーニング」、2学年部「新潟大学五十嵐久人教授講演会」、3学年部「食育講演会と給食試食会」を開催。保体委員会は「運動に親しむ会」「整美活動」、教養委員会は「雪月花の数学：桜井進氏、親子で聞く講演会」、生徒指導委員会は「地区PTA」と校外指導パトロール、会報委員会は「素心会報」の発行。

- c 三校園が連携した取組

校園PTA役員会（5月）、合同学校評議員会（9月）、校園運動会（9月）、校園ソフトボール大会（7月）、の実施。

## ④ その他

- a 学校評議員会を開催し、学校の取り組む状況等の意見や感想をもらう。  
第1回（9月17日）、第2回（10月27日）、第3回（12月16日）第4回（3月12日）
- b 県教委主催の初任者研修への協力（6月3日数学・道徳、9月16日数学）
- c 研究団体及び学校への職員派遣（市教センター2名、学習指導センター1名、審査1名、他）
- d 長岡市教育センター、教員サポート錬成塾への協力
- e 垣水修准教授へのPISAテストの協力

## (2) 研究会・講演会



- ① 中間検討会（5月22日） 総論・各論の討議，授業研究の討議（各部会）
- ② 事前検討会（9月26日） 総論・各論・指導案の検討，研究会当日の分科会の運営等
- ③ 平成20年度教育研究協議会（10月17日）

「創造的な知性を培う」（第2次研究第2年次）

選べる講演会： ○「幼保小連携をめぐる」 白梅学園大学教授 無藤 隆氏

○「習得・活用・探究のバランスの取れた学力を実現する授業づくり」

京都ノートルダム女子大学教授 加藤 明氏

○「教師としての成長を考える」 早稲田大学教授 浅田 匡氏

公開授業：国語（山崎寿徳），社会（高野文忠，関 拓也），数学（古川真哉），理科（結城義則）

音楽（菊地雅樹），美術（巻口礼子），保健体育（山岸 力），技術・家庭（小林和之）

技術・家庭（高野文子），英語（小林貴英，神子尚彦），道徳（松木 満），

健康教育（行方美幸）

### (3) 研究報告等

#### ① 紀要・研究誌

「研究紀要～創造的な知性を培う～第2年次研究第2年次～」 （年1回発行）

#### ② 教員の研究発表，研究指定等

a サイエンスパートナーシッププロジェクト（SPP）講座型学習プランB指定

b 小林 豊 「効果的な vocabulary work を通して，豊かな言語活動を展開しよう」（県中教研英語教育研究発表会）

c 結城義則

・「Web カメラと透明半球を活用した『太陽の動き』の再現により，空間概念をはぐくむ授業の実践」教育学部藤林紀枝先生との共同研究（新潟大学）

・「新潟県中越地震を地域素材として取り上げた地震の伝わり方の授業実践」（日本地質学会秋田大会）

・「バイオメタシン，火力発電などを用いた『エネルギー利用』の授業実践」（新潟大学教育学部主催シンポジウム）

d 菊地雅樹 「校内合唱コンクール審査」 （中学校3校）

・「中越吹奏楽連盟研修会講師～主として生徒指導的な側面から～」 （中越吹奏楽連盟）

・『音楽・子ども・生き生き！マイスクール』「音楽教育12月号中学・高校版」 （音楽之友社）

・『1人ひとりが主体的に表現することを目指して』（連載）「音楽教育中学・高校版」（音楽之友社）

e 灰野 仁

・「日中教育フォーラム in 北京『しつけ，行動規範の教育』実践発表」 （中国北京市）

・『対話を生かした発展的な問題解決授業・1年』「数学教育3月号」 （明治図書）

f 行方美幸 「知識を習得し活用する保健の授業を考える」 （長岡市教育センター）

#### ③ 生徒の科学賞

a 第52回日本学生科学賞科学部門新潟県審査会

奨励賞「タンポポの根の再生」「効率よく汚れを落とすには」「ナスがよく育つ条件～施肥料による育ちの違い～」 「ジャムについて」「失敗しないカルメ焼き」

優良賞「太陽光発電」「カブトエビの性質と卵の乾燥」「自然エネルギー（風力発電）」

「酸性雨と排気ガスについて」「バイオエタノールの生成」 ほか努力賞 20名

b いきいきわくわく科学賞 2008

優秀賞「効率よく汚れを落とすには」「失敗しないカルメ焼き」「ナスがよく育つ条件 ～施肥料による育ちの違い～」  
ほか奨励賞 2名

c 朝永振一郎記念第3回「科学の芽」賞奨励賞 「自然エネルギー～効率よく発電するには～」

(4) その他

a サイエンスパートナーシッププロジェクト（SPP）講座型学習プランB指定

b 北京師範大学珠海分校南奥実験学校との相互交流

c 透過式大型スクリーン・プロジェクターの設置（体育館）

d 生徒の活躍

- ◇ 西関東吹奏楽コンクールBの部 金賞      東日本学校吹奏楽大会Bの部 銀賞
- ◇ 第39回新潟県ジュニア美術展 特賞      「私の住むまち」絵画コンクール銅賞
- ◇ 高円宮杯全国中学校英語弁論大会出場及び第60回記念特別表彰 附属長岡中学校
- ◇ 税についての作文 県納税貯蓄組合総連合会優秀賞
- ◇ 第54回青少年読書感想文全国コンクール新潟県審査 優秀賞
- ◇ 第42回全国中学校文芸作品・歌曲創作コンクール 作品部門第3位 文英堂社長賞
- ◇ 新潟県競書大会 準特選 3名
- ◇ 全国中学校総合体育大会 水泳・板飛込第2位 総合第6位
- ◇ 北信越総合体育大会 体操個人総合第8位 水泳 1500 M自由形第8位



## 7. 6 附属幼稚園

### (1) 特色ある活動

#### ① 幼児教育研究の推進

附属長岡校園では、同じキャンパス内に幼稚園、小学校、中学校があるという恵まれた条件の下で、「個性的で豊かな人間性をもつ子ども」を目指して、12年間の発達を視野に入れた教育に取り組んでいる。その実現のためには、子どもの「創造性を伸ばす」とことと「豊かな知性を育てる」ことが大切であると考え、連携研究主題を「創造的な知性を培う」と設定している。

平成15年度～18年度には、文部科学省研究開発学校（研究テーマ「創造的な知性と自然との共生の心を培う『科学的な感性、科学的なものの見方・考え方』をはぐくむ幼稚園・小学校・中学校の12年間を見通した教育課程の研究開発」）の指定を受けてカリキュラム開発ならびに実践と評価を行い、平成19年度には、その成果を『科学をつくりあげる学び』（東洋館出版社）としてまとめることができた。

今年度は、校園共通の研究主題である「創造的な知性を培う」の第2次研究の第2年次にあたり、もの、こと、事象を中心に、子どもが「知的好奇心・探究心」を働かせることができるような環境構成や援助の在り方を探ってきた第1年次の成果や課題をもとに、「友達ともかかわり合い」を通して、子どもたちがどのように「知的好奇心・探究心」を育てていくのか、そのための環境構成や援助はどうあるべきかを明らかにするために研究を進めてきた。

幼稚園研究主題：～遊びを通して、「知的好奇心、探究心」をはぐくむⅡ～

#### ② 教育実習生の受け入れと指導

新潟大学教育学部の教育実習生を受け入れ、次代を担う幼稚園教員を育成する。

<今年度の受け入れ状況>

- a 入門教育実習 (1年生 23名 5月16日・29日, 7月1日)
- b 春期教育実習 (3年生 5名 6月9日～20日)
- c 観察参加実習 (2年生 8名 9月7日～12日)
- d 秋期教育実習 (4年生 2名 10月27日～11月7日)
- e 職場体験実習 (青陵短大1名, 高校生1名 2月13日)

#### ③ 連携理念に基づく教育活動の推進

附属長岡校園は同一敷地内に幼稚園・小学校・中学校があり、全て廊下でつながっている。この立地条件を生かし、幼小中の一貫教育を行っている。特に幼稚園と小学校では、教育のなめらかな接続を図るため「接続期」を設けている。接続期の期間は、幼稚園5歳児11月から小学校1年生7月までである。

また、「幼・小・中合同大運動会」をはじめ、火災や地震を想定した「合同避難訓練」も行っている。

- a 幼児と児童の遊びの交流
- b 観客型連携による相互訪問
- c 中学生の読み聞かせ、保育参観  
小学生との遊び
- d 年長児の小学校授業参観
- e 研究授業・保育への教師の相互参観
- f 授業・保育交流

#### ④ 学部との連携

##### a 「夢・遊び・創造プロジェクトⅡ」

大学教員と大学院生による幼児が楽しんで使用する「キューグ」の製作の研究開発



##### b 「音楽鑑賞会」

大学教員と学生による演奏会の実施

#### ⑤ 北京師範大学南奥実験学校との交流

a 日中教育フォーラム in 北京 4月25日～30日

b 北京師範大学珠海分校・南奥実験学校訪問 11月24日～30日

#### ⑥ 教育機関との連携

今年度も県教育センターと連携し、県内の幼稚園教員を対象として次の研修会を実施した。

\* 新潟県幼稚園等新規採用教員研修会（13名 11月27日～28日）

#### ⑦ 楽しい園行事

4月：春の交通安全教室

こんにちはの会

チュウリップ花絵づくり

5月：悠久山春遠足

6月：プール開き

7月：親子バス遠足（自然科学館）

七夕会

動物ふれあいの日

9月：校舎合同運動会

鼓童公演（もり組）

10月：悠久山探険遠足

秋のお楽しみ会

柿もぎ柿さわし

11月：収穫ふれあい祭り

さくひんてん

12月：小学校なかよしフェスティバル

外国の方とのふれあい会

1月：お正月お楽しみ会（餅つき）

お正月お楽しみ会（昔の遊び）

お正月お楽しみ会（カルタ取り）

そり遠足（越後丘陵公園）

2月：豆まき会

3月：お別れ会

#### (2) 研究会、講演会の開催

##### ① 平成20年度教育研究協議会

ア 開催日 平成20年10月17日（金）幼・小・中合同研究協議会

イ 会場 附属長岡校舎各教室・保育室・体育館等

ウ 内容 研究副題にもとづく保育を公開し、全体発表、協議会をもつ。その後、選べる講演会を開催する。

講演 白梅学園大学教授

無藤 隆氏

演題 幼保小連携をめぐって

講演 京都ノートルダム女子大学教授 加藤 明 氏

演題 習得・活用・探求のバランスの取れた学力を実現する授業づくり

講演 早稲田大学教授 浅田 匡 氏

演台 教師としての成長を考える

エ 参加者 幼稚園，保育所（園），小学校教員 100 名程度

## ② 幼稚園視察の受入

北京師範大学南奥実験幼稚園 （9月）

県内幼稚園新採用教員 （11月）

港区立幼稚園長・小学校長 （3月）

## ③ 研究報告等

研究紀要「創造的な知性を培う」第2次研究第2年次

県国公立幼稚園研究集録



花いっぱいのに



ぼくたち消防隊



大きなかまくら完成



絵本ボランティア

## 7. 7 附属教育実践総合センター

### 1. 学内における教育・研究活動

#### 1-1. 新潟大学免許法認定公開講座

(「地域貢献」欄を参照)

#### 1-2. 体験的カリキュラムの開発研究 (第12年次)

(「特色ある教育活動」欄を参照)

#### 1-3. 公開シンポジウムの開催

テーマ	平成20年度「学習支援ボランティア」派遣事業の成果と課題
日時	12月6日(土)午後1時30分～4時30分
会場	新潟大学教育学部
方法	新潟大学教育学部, 同附属教育実践総合センター, 新潟青陵大学, 新潟市教育委員会の共催による。
概要	<p>開会挨拶: 森田 龍義 (新潟大学教育学部長, 学校ボランティア派遣事業委員長)</p> <p>報告: ①「学習支援ボランティア」派遣事業を実施して          神林 信之 (新潟大学教育学部附属教育実践総合センター)          岩崎 保之 (新潟青陵大学看護福祉心理学部)          永井 喜博 (新潟市教育委員会学校支援課)</p> <p>②「学習支援ボランティア」として活動して-ボランティア学生から          藤田 和大 (新潟大学教育人間科学部4年, (派遣先)新潟市立鏡淵小学校)          富塚亜季子 (新潟青陵大学看護福祉心理学部, (派遣先)新潟市立真砂小学校)</p> <p>③「学習支援ボランティア」の派遣を受けて-ボランティア受入校から          吉原 修英 (新潟市立鏡淵小学校)          山本 陽子 (新潟市立真砂小学校)</p> <p>④ フロアから</p> <p>討論: 今年度の成果と今後の課題をめぐって (グループ討論, 全体討論)</p> <p>閉会挨拶: 鈴木 恵 (新潟大学教育学部附属教育実践総合センター長)</p>
参加者	現職教員, 学生, 大学院生, 大学教員, 新潟市教育委員会関係者等, 総計約110人
備考	「学習支援ボランティア 子供との時間 貴重 学生, 教員らがシンポ」『新潟日報』(2008年12月17日付)において報道された。

#### 1-4. 公開研究会の開催 (第4回 キャリア教育研究会)

日時	11月15日(土)午後1時00分～5時00分
会場	新潟大学教育学部 大講義室
概要	<p>講義「キャリア教育の現在・過去・未来を語る          ～学校現場への大きな期待を込めて～」</p> <p>講師: 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター総括研究官          藤田 晃之 先生          (併任) 文部科学省初等中等教育局          児童生徒課生徒指導調査官 教育課程課教科調査官</p>
参加者	学部学生, 大学院生, 現職教員, 指導主事等, 総計153人

#### 1-5. SCS大学間遠隔共同講義「教育臨床」

(「地域貢献」欄を参照)

## 2. 附属学校園との共同研究プロジェクト/研究会/研修会

### 2-1. 1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究 (第10年次)

(「特色ある教育活動」欄を参照)

## 2-2. 4年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究（第5年次）

（「特色ある教育活動」欄を参照）

## 2-3. 附属学校への出張教育相談 <教育臨床研究部門>

概要	附属長岡中学校の児童・生徒や保護者、教員を対象に、カウンセリングやコンサルテーションを実施した。
担当者	松井賢二
概要	① 6月5日（木）                      ② 11月5日（水）

## 3. センター専任教員の学部・大学院教育への参与状況

### 3-1. 学部

「教育実践体験研究Ⅰ」, 「教育入門」, 「学校カウンセリング」など, 計31科目

### 3-2. 大学院

「キャリア教育の実際と課題」, 「教育実践学特論」, 「授業技量開発研究」など, 計13科目

●修士論文の指導担当学生：計3人。

## 4. センターの対外的な教育・研究活動状況

### 4-1. 教育臨床部門の教員による公立学校等へのカウンセリング／コンサルテーション活動状況

概要	面接, 電話, 訪問, 電子メールによって, 現職教員や保護者などへカウンセリング（コンサルテーション）を行った。
期間	平成20年4月～平成21年1月現在
件数	のべ回数：55回（ケース数：42件）

### 4-2. 教職相談室活動状況

概要	教員を目指す, 主として学部3, 4年生の相談に応じた。また, 小論文, 面接, 模擬授業等の指導を行った。
期間	平成20年4月～平成21年1月現在
件数	回数：43回（学生数：のべ62人）

### 4-3. 現職教員対象の講座（夏期教育実践研修講座）

主旨	教育実践, 教科教育, 教育臨床の側面から, 今日の学校教育が抱えている問題を総合的に解明すると同時に, 改善の方途について考える。
日時	第1回 7月30日（水）10時00分～12時00分 第2回 7月31日（木）10時00分～12時00分 第3回 8月5日（火）10時00分～12時00分
会場	新潟大学教育学部長岡地域リサーチセンター（教育実習宿泊施設「和光寮」）
概要	第1回 学習指導案を書く－問題意識の継続を促す授業－（神林信之）第2回 教師のための学校カウンセリング（入門編）（松井賢二）第3回 社会科授業づくりの基礎（宮蘭衛）
受講者	現職教員, 総計（のべ）12人

## 5. 報告書・研究紀要等の編集・発行

1. 新潟大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 教育実践総合研究 第7号
2. 「フレンドシップ実習」実施報告書
3. 1年次教育実習カリキュラム開発研究（第10年次）報告書
4. 「研究教育実習」実施報告書（第5年次）
5. 新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施（第6年次）
6. 平成19年度「学校インターンシップ」実施報告書（第3年次）
7. 第4回 キャリア教育研究会 実施報告書

## 8 外部資金

### 8.1 科学研究費補助金

教育学部は、外部資金を導入して研究の活性化を図るため、科学研究費補助金に積極的に申請を行っている。

【平成20年度科学研究費補助金の採択件数は、別表のとおり（継続分を含む）】

現在、科学研究費補助金の助成を受けている研究分野は、教育科学を始めとして、人文・社会科学、自然科学、体育学、芸術学など多岐にわたり、様々な研究分野を専門とする教員が所属している本学部の特徴を示している。

研究種目	研究代表者氏名	研究課題名	平成20年度 交付額（円）
基盤研究（B）	笠井直美	タイ国における児童・青少年の性・AIDS及び薬物乱用問題の要因分析と予防教育開発	1,600,000
基盤研究（B）	生田孝至	メンタリング機能を組み込んだe-learning教員研修システムの開発	3,300,000
基盤研究（B）	麓慎一	19世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策	2,500,000
基盤研究（C）	鈴木恵	東北日本・日本海沿岸地域を対象とする角筆文献データベース作成に向けての基礎的研究	600,000
基盤研究（C）	八湊友広	国家による民衆動員の一環としての郷学教育に関する研究	900,000
基盤研究（C）	森下修次	日本人の旋律、音程、リズムにおける知覚と感性	500,000
基盤研究（C）	上石圭一	司法書士の簡裁代理権行使／不行使の社会的要因と、「法の非主題化」への影響	500,000
基盤研究（C）	神村栄一	中学校進学後20ヶ月の学校適応に及ぼす小学校高学年からの社会的スキル訓練の効果	900,000
基盤研究（C）	世取山洋介	子ども関連法制の新自由主義的再編に対する子どもの権利に基づく評価の比較法的研究	800,000
基盤研究（C）	藤村正司	大学の社会貢献事業の拡大過程とその効果に関する実証的研究	800,000
基盤研究（C）	小谷スミ子	小麦アレルギー予防に向けたグルテンフリー米粉パンの製造	800,000
基盤研究（C）	小林昭三	リアルタイムIT活用を基軸とした科学教育の新展開と理科支援システム構築	1,300,000
基盤研究（C）	佐藤亮一	レーダポーラリメトリによる山地帯における土砂崩壊地域および被災住宅地域の識別	800,000
基盤研究（C）	高木幸子	教員養成カリキュラム開発のための授業力育成に関する基礎研究	500,000
基盤研究（C）	松井賢二	大学生のキャリア発達に応じたキャリア形成支援プログラムの開発研究	800,000
基盤研究（C）	児玉康弘	地方の課題を歴史的に考察させるための郷土人物教育内容開発研究	800,000
基盤研究（C）	中村文隆	原始星アウトフローにより生成される超音速乱流とその星団形成への効果に関する研究	1,200,000
基盤研究（C）	八木政行	自らの可視光誘起酸素発生能を有する分子素子の設計と開発	2,800,000
基盤研究（C）	篠田邦彦	高齢者の歩行能力を指標とした転倒予測マーカーの開発	1,300,000
基盤研究（C）	福原晴夫	砂丘湖の富栄養化に及ぼす周辺農業の影響の解明と生態系保全対策	2,000,000
若手研究（B）	石垣健二	「他者との身体的地盤を生成する体育」の理論的根拠に関する研究	500,000
若手研究（B）	足立幸子	知識基盤社会における読書力を評価するマイクロ・レベル・テスト及び質的分析手法の開発	660,512
若手研究（B）	和田信哉	探求的な算数・数学の授業に関する基礎的研究	500,000
萌芽研究	麓慎一	露米会社の極東経営と北方世界	900,000
萌芽研究	加藤茂夫	アクセント英語理解度と英語習熟度の関連性の検証	500,000



## 8. 2 奨学寄附金

奨学寄附金は、個人篤志家や民間企業など各方面から寄附金を受け入れて、学術研究や教育の充実・発展、学生の奨学支援などに活用し、人材養成や地域貢献するなどして、社会に還元奉仕するものである。

平成20年度における奨学寄附金の受入状況は下表のとおりである。

研究代表者	寄 付 者	目 的	寄附金額
佐藤 亮一	(財)テレコムエンジニアリングセンター	教育・学術研究助成のため「マイクロ波リモートセンシングによる湿地帯水域観測のための偏波散乱測定に関する調査研究	1,500 千円
高橋 桂子	(財)かんぽ財団	調査研究助成のため	600 千円
柳田 多美	(財)社会安全研究財団	「被害者遺族への死亡告知法の研究：告知従事者のメンタルヘルス改善と遺族の二次被害の防止の観点から」に対する研究助成	600 千円
佐藤 亮一	(財)内田エネルギー科学振興財団	「POLSAR画像解析を用いた山地および都市部の被災住宅検出に関する研究」の助成	300 千円
鎌田 正喜	(財)内田エネルギー科学振興財団	「光エネルギーを利用する有用化合物の合成研究：高活性・高選択性を有する新規抗マラリア剤の合成開発」の助成	300 千円
鈴木 賢治	(財)発電設備技術検査協会 溶接・非破壊検査技術センター	ニッケル基合金溶接金属の残留応力計測に関する研究助成等	1,000 千円
大庭 昌昭	(株)ベネクス	「身体運動後の疲労回復に関する研究」に対する研究助成	350 千円

## 8. 3 受託研究・受託事業

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関からの委託を受けて行う研究及び事業である。

### ○受託研究

研究担当者	委 託 者	研 究 題 目	受託金額
横山 知行	新潟県	教職員における精神的不調による病休等取得者の職場復帰支援に関する研究	1,770 千円
鈴木 賢治	(株)インテリジェント・コスモス研究機構	平成20年度高経年化対策強化基盤整備事業(経年劣化事象の解明等)	3,937 千円
八木 政行	(独)科学技術振興機構 JST イノベーションサテライト新潟	シーズ発掘試験(A課題) 貴金属の有効利用を指向した省エネルギー型電極作成法の開発	2,000 千円
小谷 スミ子	(独)科学技術振興機構 JST イノベーションサテライト新潟	シーズ発掘試験(A課題) 超高压処理/酵素処理併用による免疫寛容を誘導する食品の開発	2,000 千円
高木 幸子	学校法人新潟総合学園 新潟医療福祉大学	8大学連携事業(食育指導教材・プログラム開発業務)	170 千円
山崎 健	新潟市	8大学連携事業(健康づくり推進研究業務)	255 千円
笠巻 純一	新潟市	8大学連携事業(健康づくり推進研究業務)	255 千円
小谷 スミ子	新潟市	8大学連携事業(地産地消のための調査及び実証業務)	330 千円
山口 智子	新潟市	8大学連携事業(地産地消のための調査及び実証業務)	410 千円

### ○受託事業

事業担当者	委 託 者	事 業 題 目	受託金額
教育学部社会貢献等関係費	文部科学省初等中等教育局	平成20年度学校図書館司書教諭講習	599.35 千円
宮園 衛	(財)新潟県国際交流協会	大学生リーダー等育成事業	680 千円

・共同研究

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関と共同で行う研究である。

○共同研究

研究担当者	共同研究相手方	研究題目	受入金額
鈴木賢治	東京電力(株)	高エネルギー放射光によるオーステナイト系ステンレス鋼の残留応力測定に関する研究	2,000 千円
八木政行	(株)新潟TLO	白金コロイド修飾電極の作成と特性評価に関する研究	400 千円
八木政行	アプト(株)	高性能金属ナノコロイド還元触媒の合成と電極基盤集積および水素生成技術への応用に関する検討	4,920 千円
鎌田正喜	アプト(株)	高性能金属ナノコロイド還元触媒の合成と電極基盤集積および水素生成技術への応用に関する検討	500 千円

・協賛事業

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関の協賛を得て行う事業である。

○協賛事業

事業担当者	協賛者	事業題目	協賛金額
横坂康彦	新潟中央ホーム(株)	「IASコンサート」及び音楽マネジメントの研究・教育に対する協賛	200 千円

## (巻末資料)

## 平成 20 年度新潟大学教育学部入学状況

区 分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
学校教員養成課程	学校教育コース	学校教育学専修	45	166	153	55	50
		教育心理学専修					
		幼児教育専修					
		特別支援教育専修					
	教科教育コース	国語教育専修	135	474	436	155	142
		社会科教育専修					
		英語教育専修					
		数学教育専修					
		理科教育専修					
		家庭科教育専修					
		技術科教育専修					
音楽教育専修							
美術教育専修							
保健体育専修							
推 薦 入 学	40	53	53	40	40		
小 計	220	693	642	250	232		
学習社会ネットワーク課程 学習社会ネットワークコース		45	293	197	51	47	
生活科学課程 生活科学コース		15	52	52	24	17	
健康スポーツ科学課程		30	206	167	37	33	
ヘルスプロモーションコース		(10)					
スポーツ科学コース		(20)					
芸術環境創造課程	音楽表現コース	25	62	61	26	24	
	造形表現コース	20	67	44	24	22	
	書表現コース	15	50	49	19	19	
	小 計	60	179	154	69	65	
合 計		370	1,423	1,212	431	394	

●平成 20 年度新潟大学大学院教育学研究科受験・合格・入学者数

専攻	分野・専修	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
学校教育	学校教育学分野	10 人	(1)3	(1)3	(1)3	(1)3
	教育心理学分野		1	1	1	1
	臨床心理学分野		(1)11	(1)10	(1)6	(1)5
	障害児教育分野		3	3	3	3
	幼児教育分野		0	0	0	0
	教育実践開発コース	10 人	3	3	3	3
	小計	20 人	(2)21	(2)20	(2)16	(2)15
教科教育	国語教育専修	32 人	8	8	8	8
	社会科教育専修		(1)4	(1)4	(1)4	(1)2
	英語教育専修		4	4	4	2
	数学教育専修		5	5	5	4
	理科教育専修		9	9	6	5
	音楽教育専修		6	6	4	4
	美術教育専修		(1)10	(1)10	(1)9	(1)7
	保健体育専修		6	6	5	4
小計	32 人	(2)52	(2)52	(2)45	(2)36	
合計	52 人	(4)73	(4)72	(4)61	(4)51	

※ ( ) 内数字は、外国人留学生で内数

平成 21 年 3 月卒業（修了）者の就職内定状況

(1) 教育人間科学部

平成 21 年 3 月 31 日現在

	卒業者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)				
				公務員	企業等	計	公務員	企業等	計	公務員	企業等	計		
学校教育課程	182	21	1	15	49	159	13	86	47	146	86.7	90.5	95.9	91.8
学習社会ネットワーク課程	68	5	2	8	50	59	8	0	48	56	100.0	0.0	96.0	94.9
生活環境科学課程	37	10	0	0	18	27	0	7	17	24	-	77.8	94.4	88.9
健康スポーツ科学課程	36	8	0	4	20	27	3	2	19	24	75.0	66.7	95.0	88.9
芸術環境創造課程	63	10	4	2	39	47	2	4	36	42	100.0	66.7	92.3	89.4
計	386	54	7	29	176	319	26	99	167	292	89.7	86.8	94.9	91.5

注) 平成 20 年 9 月卒業者を含む

(2) 大学院教育学研究科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)				
				公務員	企業等	計	公務員	企業等	計	公務員	企業等	計		
学校教育専攻	11	0	0	1	4	10	1	4	4	9	100.0	80.0	100.0	90.0
教科教育専攻	37	1	2	2	11	32	1	16	10	27	50.0	84.2	90.9	84.4
計	48	1	2	3	15	42	2	20	14	36	66.7	83.3	93.3	85.7

(3) 養護教諭特別別科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)				
				公務員	企業等	計	公務員	企業等	計	公務員	企業等	計		
養護教諭特別別科	47	1	0	2	15	46	2	21	15	38	100.0	72.4	100.0	82.6

## 教育学部附属学校生徒数

20. 5. 1現在

校 園 名	学 級 数	1 学級定員	収容定員	現 員
新 潟 小 学 校	12	40	480	474
	複式学級	3	16	48
長 岡 小 学 校	12	40	480	427
新 潟 中 学 校	9	40	360	353
長 岡 中 学 校	9	40	360	362
特別支援学校	小 学 部 (複式学級)	3	6	18
	中 学 部	3	6	18
	高 等 部	3	8	24
幼稚園	3 年 保 育	3	35	90
合 計	57		1,878	1,788

# 芸術環境講座造形表現コース・美術教育の特色ある教育活動

2008

## 西区DEアート



隔年で開催されてきた本プロジェクトですが、2008年は「西区DEアート プチ」として開催されました。変わりつつある参加者の思いや意識を大切に、地域住民や小中学校の子どもからの声に寄り添いながら作り上げました。

私たちが生活している日常の各領域の間をつなぎ、そこから広がっていく可能性を芸術の視点から追求し、新しいつながりや学びに結びつくアートプロジェクトを展開したいという思いが込められています。

またこの年は、内野町を中心とした住民主体のワークショップ「内野ワークショップ」と、西区内の小中学生が主体のプロジェクト「学校ワークショップ」の2つを柱に活動を展開しました。

『もっと町を賑やかにしたい』という声をもとに、『うちの彩るまちかざり』を学生が提案しました。普段、何気なく過ごしている町の景観について考えるきっかけになれば、と考えました。



### 企画一覧

[内野町]  
まちかざり  
とうろうカフェ  
Clay work



かつて新川で行われていた『とうろう流し』を復活させたいという思いから始まったこのプロジェクトでは、来年度に向けてのイベントとして、『内野にともる灯り』というテーマのもと期間限定のカフェを開きました。内野のお菓子屋さん、喫茶店の協力を頂き、オリジナルの灯籠での空間演出と共に、プロジェクトに合わせたオリジナルメニューも登場しました。会期中はたくさんの人々にぎわい、かつて生活の場として存在したその家が灯籠の光に包まれて、新たな交流の場になりました。

[寺尾中央公園]  
かみさま降臨!



西区の中学校の生徒が、針金の加工に苦戦しながら自分なりの工夫を加え、作りあげた『風草花』を寺尾中央公園に展示しました。風に流れるようにくるくるとまわる花は、訪れた方の目を花を、寺尾中央公園に展示しました。風に流れるようにくるくるとまわる花は、訪れた方の目を楽しませ、まだ暑い10月の空気も爽やかに感じさせました。公園を埋め尽くすように展示された本企画の間を散歩する親子連れやご年配の夫婦が多くみられました。

笠木小学校  
中学生シネマ  
五十嵐中学校 美術部  
風草花

坂井輪中学校  
五十嵐中学校  
小針中学校  
新潟大学附属中学校  
西区シンボルタワー



子どもたちと共に作り上げた本作品を会期中に膨らませて展示しました。子どもたちは慣れないビニールという素材に刺激を受け、目を輝かせて活動を行っていました。出来上がった巨大バルーンを膨らませた時、また、展示中も、いつも子どもたちの歓声で溢れていました。

五十嵐中学校 特別支援学級  
2008宇宙旅行

坂井東小学校  
オープン・ザ・カード  
坂井輪中学校 美術部  
ぐるぐるステンドグラス

内野中学校 美術部  
in fanciful sea … へばくらのうみ  
西内野小学校